

13 蘚苔類

紀伊半島の東側に位置する三重県は、地形的に南北約 170 km と長く、中北部は伊勢湾に面し、南部は熊野灘の影響を受けている。また県の西側には鈴鹿山脈から高原や盆地などを経て台高山脈が南へ走り、標高とともに多様な環境をつくり出している。地域によって気候も異なり、蘚苔類フロラも多様である。本県の蘚苔類は古くから調べられていて、蘚類は 537 種（孫福 1979）、苔類は 295 種（山田 2011）が記録されている。この数値は日本産の蘚類、1270 種（Suzuki 2016）に対比すると全体の約 42%を、同じく苔類では 655 種（片桐・古木 2018）に対して 45%を占める。

1. 三重県の蘚苔類相

以下、県内を北の方から 5 つの地域に分けて概要を述べる。

北勢地方

県北に位置するこの地域は、滋賀との県境に鈴鹿山脈が南北に延び標高の高い山々が連なる。北にある藤原岳は石灰岩地であり、好石灰岩のセイナンヒラゴケ、タチヒラゴケ、ハリイシバイゴケ、ネジレゴケモドキなどが見られる。中でも御在所山（1,212m）の急峻な地形の山頂付近には、クロゴケ、イワダレゴケ、コウライタマゴケ、シモフリゴケ、クロツリバリゴケなどの北方系の蘚類、カネマルムチゴケ、オオミネヤバネゴケ、マルバツボミゴケなどの苔類が見られ、植物地理学上興味深い地域である。注目していたヤクシマアマミバゴケは今回の調査でも確認できず、消滅した可能性が高い。

伊賀地方

県の西側に位置するこの地域は、伊賀盆地や室生赤目青山国定公園の景勝地として知られる赤目峡谷と香落溪がある。赤目峡谷は、瀑布が多く（赤目四十八滝）湿度が高く、蘚苔類は豊富である。クマノゴケ、チヂレタチゴケ、エビゴケ、ナガミノゴケ、タチハイゴケ、セイナンヒラゴケ、ジョウレンホウオウゴケなどの蘚類、キリシマゴケ、ケシゲリゴケ、カビゴケ、モーリッシュシゲリゴケ、タカオジャゴケ、ウラベニジャゴケなどの苔類が見られる。

伊賀市の法花一帯の湿地には、大きく占めるオオミズゴケの群落に加えて、ハリミズゴケのマットが確認されたので今回の改訂に加えている。

香肌・奥伊勢地方

上記伊賀地方より南側に位置するこの地域は、櫛田川の上流域にある奥香肌峡一帯、宮川の上流域にある大杉谷一帯がある。奥香肌峡は、櫛田川が永年にわたって造形した景観の地で、上流にある蓮（はちす）一帯、支流の蓮川に刻まれた江馬小屋谷や宮ノ谷、同じく青田川の上流にある千秋社の自然林には、大台山系の蘚苔類がかなり降下していて、中でも蓮一帯の石灰岩地は興味深い場所である。

近年の蓮川の上部の溪谷での調査において、国内初記録となるウツクシツヤシメリゴケやヒロハヤスジゴケが報告され（秋山 2011a, 2011b）、また溪流沿いの小さな石灰岩露頭から冷温帯性の蘚類であるレイシゴケやハナシキヌシッポゴケなど（木口他 2006）、溪谷内の岩壁からはアジアに広く隔離的に分布するウニゴケ属のうち、日本固有種で分布の東限となるナガレウニゴケと国内唯一の産地であるラッコゴケモドキが記録されている（秋山 2022）。加えて本州から初記録となるヒメコモチイトゴケ属のニセヒロハコモチイトゴケや、産地が限定されるオタルミスゴケ、またこれまで国内で 2 ヶ所だけから報告されていた冬芽状の無性芽をつけるヒメジャゴケなど数多くの稀少種や分布上興味深い種が見つかっていて、今後さらに調査を進める必要がある。

奥香肌峡の蘚類フロラは大杉峡谷のそれとよく似ている。イワダレゴケ、トガリイタチゴケ、オオミゴケ、キサゴゴケ、イブキキンモウゴケ、キイアミゴケなどが記録されている。苔類フロラも大杉峡谷のそれとよく似ているが、全貌は十分に把握されていない。

大台ヶ原山を源流とする宮川の上流部にあたる大杉峡谷は、多くの滝があり、蘚苔類が非常に豊富な地域である。これまでも多くの研究者が訪れ記録を残している。蘚類では、クロゴケ、フウリンゴケ、エゾノコブゴケ、エゾチョウチンゴケ、ホンシノブゴケ、ミヤマスギゴケ、コウライタマゴケ、コフサゴケ、フジノマンネングサなどの北方系種、オオヒラツボゴケ、カワブチゴケ、イボマツバゴケ、タチチョウチンゴケ、トゲキジノオゴケなどの南方系種、他に珍しい種として、ジョウレンホウオウゴケ、クロツリバリゴケ、オオミミゴケ、ヒメコモチイトゴケ、さらに桃の木山小屋付近をタイプ産地とする稀少種キイアミゴケなどがある。

津市美杉町には若宮八幡宮と三重大学附帯施設演習林（旧附属演習林）がある。若宮八幡宮境内の岩上で、北方系種のエゾヒメヤバネゴケや古第三紀時代の遺存種と言われるチチブイチョウゴケの苔類が見つかって

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- 維管束植物
- 蘚苔類
- 藻類
- キノコ
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
藓苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

いる。また三重大学附帯施設演習林（旧附属演習林）からは、クマノチョウジゴケ、エゾチョウチンゴケ、ヒメカモジゴケ、コフサゴケ、ホンシノブゴケ、シノブヒバゴケ、イワダレゴケ、ヒログチキンモウゴケ、イブキキンモウゴケ、オオミミゴケなどの藓類、ケシゲリゴケ、シロフタエゴケ、エゾヤハズゴケなどの苔類、ツノゴケ類のキノボリツノゴケなどが記録され、興味深い地域である。しかし、今回の改訂に伴う調査に管理者からの同意が得られず、現状は不明となっている。

伊勢・志摩地方

この地方で最も攪乱が進んでいない場所は、やはり伊勢神宮の宮域林である。この宮域林から約 460 種の藓苔類が記録されている。記録された種の中で、藓類・苔類とも熱帯・亜熱帯系の種が多数含まれており、植物地理学上から見て非常に興味深い地域である。特徴としては、苔類クサリゴケ科の種が豊富な点である。宮域林と隣合せに霊山信仰の朝熊山があるが、奥の院一带や山伏峠には稀少種が見られ、苔類のボウズムシトリゴケが記録されている。志摩地方では、志摩市の恵利原にある天の岩戸（石灰岩地）で苔類のオオヒモヨウジョウゴケが、南伊勢市の押淵（南勢町）一带から、オオヒラツボゴケ、ナゼゴケ、フクロハイゴケ、イトヒキフデノホゴケなどの藓類、マエバラムチゴケ、オニヤスデゴケなどの苔類が見つかっている。

南勢・紀州地方

度会郡人紀町には伊勢神宮の別宮である滝原宮があり、宮域林が残されていて、イバラヤエゴケ、イサワゴケ、イボマツバゴケ、トサヒラゴケなどの藓類やホソバイトクズゴケ、サカワヤスデゴケ、シコクヤスデゴケ、マゴフククサリゴケ、マエバラムチゴケなどの苔類が見られたが、今回の改訂に伴う調査は許可されなかった。

大紀町の米ヶ谷、頭の宮四方神社、北牟婁郡紀北町の木津、魚飛溪、尾鷲市の矢ノ川峠、九鬼駅裏の渓流域一带、三木里、賀田、熊野市の二木島、新鹿、大泊、大馬一带にある渓流域や神社・寺院の社叢などから、リュウキュウイクビゴケ、イサワゴケ、シナクジャクゴケ、キダチクジャクゴケ、ヒメハゴロモゴケ、ヒメクジャクゴケ、カワブチゴケ、タチチョウチンゴケ、ナゼゴケ、キジノオゴケ、ナガクビスワゴケ、サメジマタスギ、トサノタスキゴケ、アオシマヒメシワゴケなどの藓類、サイシュウホラゴケ、ツボミゴケ、ハライヤスデゴケ、サカワヤスデゴケ、イボケクサリゴケ、チャボゴヘイゴケ、タカサゴソコマメゴケ、ヨウジョウケビラゴケなどの苔類、加えてキノボリツノゴケ（ツノゴケ類）が記録されている。中でも紀北町や尾鷲市内の水中に生育するクロカワゴケが旺盛に生育しているのは注目に値する。

県南に位置する熊野市紀和町や紀宝町、育生町、南牟婁郡御浜町では、クマノゴケ、カシミールクマノゴケ、コキジノオゴケ、ヤクシマナワゴケ、コモチイチイゴケなどの藓類が確認された。また、今回新たに本州新産で国内並びに世界での分布の東限となるニセシダレウニゴケが見つかり、今後も継続して調査が必要な地域と考えられる。

2. 調査内容と結果

前回の 2015 年版（三重県 2015）の選定種が生育していた産地を中心に現地を訪れ、資料を少量採集し持ち帰り顕微鏡で同定作業を行った。採集した資料は証拠標本として残し、三重県総合博物館へ収蔵の予定である。また室内作業として、文献調査並びに博物館等の収蔵標本の情報収集も行った。

その結果、藓類・苔類・ツノゴケ類の絶滅危惧種として 121 種（内、情報不足 12 種含む）を選定した。危惧種の内訳は、絶滅種（EX）3 種、絶滅危惧 I 類（CR+EN）41 種（今回、理解しやすいように環境省の表記に合わせ、IA+IB としている）、絶滅危惧 II 類（VU）40 種、準絶滅危惧（NT）25 種である。

3. 絶滅危惧種の概要

2005 年の 1 回目からのカテゴリ別の種数の変化を右表に示した。数値のみで見ると、これまでより総数（情報不足も含む）は最も多くなっている。以下に示すように、種群にも変更が見られるが、これでも、まだ十分とは言えず、更なる現地調査や標本の収集整理を継続的に行い、情報の蓄積を進めていく必要があると考えている。

1) カテゴリの変更を行った種群

旧カテゴリで絶滅危惧 IA 類（CR）だったヤクシマアミバゴケ生育地の詳細な調査を行ったが見いだすことができなかつたため、絶滅（EX）に加え、合計 3 種とした。旧カテゴリで絶滅危惧 IA 類（CR）だったミヤマリュウビゴケ、カワブチゴケ、絶滅危惧 IB 類（EN）だったクロゴケ、チャボスギゴ

三重県RDB藓苔類のカテゴリ別種数			
	2025	2015	2005
EX	3	2	2
CR+EN	41	46 (18+30)	45 (22+23)
VU	40	16	19
NT	25	14	13
DD	12	2	11
	121	80	90

ケ、オオミゴケ、ホソベリホウオウゴケ、キュウシュウホウオウゴケ、タカネカモジゴケ、マツバゴケ、イボマツバゴケ、イワマセンボンゴケ、ハツトリチョウチンゴケ、シノブイトゴケ、シノブヒバゴケ、タカネメリスゴケは、いずれも新たな生育地や広がりがあるとみられカテゴリーを下げています。同様に、旧カテゴリーで絶滅危惧ⅠA類（CR）のカラフトツヤゴケ、絶滅危惧Ⅱ類（VU）のオオミズゴケ、ネジレゴケモドキ、ナガミノゴケ、イワダレゴケ、タチハイゴケ、サクラジマツヤゴケ、セイナンヒラゴケ、ウキウキゴケもカテゴリーを下げています。

2) 新たに危惧種に加えた種群

絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）として加えたのは、ハリミズゴケ、ミギワイクビゴケ、リュウキュウイクビゴケ、ヒロハヤスジゴケ、ホソイトツルゴケ、ニセシダレウニゴケ、ラッコゴケモドキ、シダレウニゴケ、ナガレウニゴケ、ヒロハコモチイトゴケ、ニセヒロハコモチイトゴケ、コモチイチイゴケ、ウツクシツヤシメリゴケの13種、絶滅危惧Ⅱ類（VU）として加えたのは、カシミールクマノゴケ、ヤマトハクチョウゴケ、ハナシキヌシッポゴケ、アオシマヒメシワゴケ、キリシマナギゴケ、トサノタスキゴケ、ヒロハシノブイトゴケ、キャラハラッコゴケ、オオミツヤゴケ、タマコモチイトゴケ、ヤクシマナワゴケ、オオキヌタゴケ、レイシゴケ、タカオジャゴケ、マツタケジャゴケ、オカムラケビラゴケの16種、準絶滅危惧（NT）として加えたのが、ホソベリミズゴケ、イサワゴケ、ヤマトチョウチンゴケ、エゾキンモウゴケ、ヒゴイチイゴケ、ヤマハイゴケ、アイバゴケの7種である。

情報不足（DD）としては、以下の種群がある。多くは木口他（2006）の報告に基づくが、これまでの文献調査でも漏れていたことから、追加の標本調査や現地調査の必要が出てきたので、現段階では多くの種を情報不足として処理せざるをえなくなった。コバノスナゴケ、オタルミスゴケ、ベニエキンシゴケ、イボスジネジクチゴケ、ナメリオウムゴケ、キヌヒバゴケ、キツネノオゴケ、チチブハイゴケ、イヌサナダゴケ（以上蕨類）、ヤワラゼニゴケ、フチドリイボクチキゴケ、ヒラハクチキゴケ（以上苔類）。

引用文献

- 秋山弘之. 2011a. アジア産蕨類の分類・生態ノート 23. 三重県松阪市から見つかった日本新産種 *Rabdowesia crenulata* ヒロハヤスジゴケ（シッポゴケ科）. 蕨類研究 10(4): 89–92.
- 秋山弘之. 2011b. アジア産蕨類の分類・生態ノート 24. 三重県松阪市から見つかった日本新産の *Schofieldiella micans* ウツクシツヤシメリゴケ（ハシボソゴケ科）. 蕨類研究 10(4): 93–96.
- 秋山弘之. 2022. 日本産ウニゴケ属（ウニゴケ科、蕨類）5種の紹介と和名の提唱. 植物地理・分類 70(2): 153–165.
- 片桐知之・古木達郎. 2018. 日本産タイ類・ツノゴケ類チェックリスト, 2018. *Hattoria* (9): 53–102.
- 木口博史・立石幸敏・田中敦司. 2006. 三重県中南部の蕨類. 自然環境科学研究 (19): 61–76.
- 孫福 正. 1979. 三重県の蕨類. 115 pp. 伊勢. (自費出版).
- 三重県. 2015. 三重県レッドデータブック 2015～三重県の絶滅の恐れのある野生生物～. 757pp. 三重県農林水産部みどり共生推進課編. 津.
- Suzuki, T. 2016. A revised new catalog of the mosses of Japan. *Hattoria* (7): 9–223.
- 山田耕作. 2011. 証拠標本に基づいた三重県産タイ類とツノゴケ類のチェックリスト (2011改訂). 三重生物 (61): 1–12.

(土永浩史・秋山弘之)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ

除外種

「三重県レッドデータブック2015」掲載種のうち、今回の改訂により低懸念（LC）と判定された種、及び評価対象から除外した種とその理由は以下のとおりである。

新レッドリストで低懸念（LC）となった種

	目名	科名	和名	学名	三重県		環境省	判定理由
					新	旧		
蘚類	スギゴケ目	スギゴケ科	ヤマコスギゴケ	<i>Pogonatum urnigerum</i>	LC	NT	—	調査が進み、絶滅の恐れはないとみられる。
蘚類	タチヒダゴケ目	タチヒダゴケ科	リュウキュウミノゴケ	<i>Macromitrium ferriei</i>	LC	NT	—	調査が進み、絶滅の恐れはないとみられる。
蘚類	ハイゴケ目	キヌゴケ科	オオヒラツボゴケ	<i>Ectropothecium zollingeri</i>	LC	NT	—	調査が進み、絶滅の恐れはないとみられる。
蘚類	ハイゴケ目	ツヤゴケ科	ホソミツヤゴケ	<i>Entodon sullivantii</i>	LC	NT	—	調査が進み、絶滅の恐れはないとみられる。

新レッドリストで評価対象から除外した種

	目名	科名	和名	学名	三重県		環境省	判定理由
					新	旧		
蘚類	ハイゴケ目	コウヤノマンネングサ科	フジノマンネングサ	<i>Pleuroziopsis ruthenica</i>	除外	DD	—	該当標本が見当たらなかった。

蘚苔類レッドリスト

	目名	科名	和名	学名	三重県		環境省	掲載頁	
					新	旧			
EX	苔類	ツボミゴケ目	アミバゴケ科	ヤクシマアミバゴケ	<i>Hattoria yakushimensis</i>	EX	CR	CR+EN	818
EW	苔類	クラマゴケモドキ目	クサリゴケ科	ポウズムシトリゴケ	<i>Colura meijeri</i>	EX	EX	VU	818
CR	苔類	クラマゴケモドキ目	クサリゴケ科	オチクサリゴケ	<i>Lejeunea otiana</i>	EX	EX	CR+EN	818
EN	蘚類	ミズゴケ目	ミズゴケ科	ハリミズゴケ	<i>Sphagnum cuspidatum</i>	CR+EN	—	—	819
VU	蘚類	キセルゴケ目	キセルゴケ科	クマノチョウジゴケ	<i>Buxbaumia minakatae</i>	CR+EN	EN	—	819
NT	蘚類	イクビゴケ目	イクビゴケ科	ミギワイクビゴケ	<i>Diphyscium chiapense</i>	CR+EN	—	CR+EN	819
DD	蘚類	イクビゴケ目	イクビゴケ科	リュウキュウイクビゴケ	<i>Diphyscium mucronifolium</i>	CR+EN	—	—	820
	蘚類	ギボウシゴケ目	ギボウシゴケ科	シモフリゴケ	<i>Racomitrium lanuginosum</i>	CR+EN	CR	—	820
	蘚類	シッポゴケ目	ホウオウゴケ科	ジョウレンホウオウゴケ	<i>Fissidens geppii</i>	CR+EN	EN	—	820
	蘚類	シッポゴケ目	シッポゴケ科	コカモジゴケ	<i>Dicranum mayrii</i>	CR+EN	EN	—	821
	蘚類	シッポゴケ目	シッポゴケ科	ケシッポゴケ	<i>Dicranum setifolium</i>	CR+EN	CR	—	821
	蘚類	シッポゴケ目	ヤスジゴケ科	ヒロハヤスジゴケ	<i>Rhabdoweisia crenulata</i>	CR+EN	—	—	821
	蘚類	シッポゴケ目	カタシロゴケ科	キイアミゴケ	<i>Syrhophodon kiensis</i>	CR+EN	CR	CR+EN	822
	蘚類	マゴケ目	チョウチンゴケ科	タチチョウチンゴケ	<i>Orthomnion dilatatum</i>	CR+EN	EN	CR+EN	822
	蘚類	タチヒダゴケ目	タチヒダゴケ科	ナガエミノゴケ	<i>Macromitrium reinwardtii</i>	CR+EN	CR	—	822
	蘚類	タチヒダゴケ目	タチヒダゴケ科	イブキキンモウゴケ	<i>Ulota perbreviseta</i>	CR+EN	EN	VU	823
	蘚類	アブラゴケ目	クジャクゴケ科	キジノオゴケ	<i>Cyathophorum adiantum</i>	CR+EN	EN	—	823

藓類	ハイゴケ目	カワゴケ科	クロカワゴケ	<i>Fontinalis antipyretica</i>	CR+EN	CR	VU	823	哺乳類
藓類	ハイゴケ目	ヤナギゴケ科	ササオカゴケ	<i>Sasaokaea aomoriensis</i>	CR+EN	EN	CR+EN	824	鳥類
藓類	ハイゴケ目	トラノオゴケ科	ホソイトツルゴケ	<i>Heterocladium tenellm</i>	CR+EN	—	—	824	爬虫類
藓類	ハイゴケ目	ハイヒモゴケ科	イバラヤエゴケ	<i>Meteoropsis undulata</i>	CR+EN	EN	—	824	両生類
藓類	ハイゴケ目	ウニゴケ科	ニセシダレウニゴケ	<i>Symphyodon asper</i>	CR+EN	—	—	825	汽水・淡水魚類
藓類	ハイゴケ目	ウニゴケ科	ラッコゴケモドキ	<i>Symphyodon gollanioides</i>	CR+EN	—	—	825	昆虫類
藓類	ハイゴケ目	ウニゴケ科	シダレウニゴケ	<i>Symphyodon recurvmarginatus</i>	CR+EN	—	VU	825	クモ類
藓類	ハイゴケ目	ウニゴケ科	ナガレウニゴケ	<i>Symphyodon rheophilus</i>	CR+EN	—	—	826	貝類
藓類	ハイゴケ目	コモチイトゴケ科	ヒロハコモチイトゴケ	<i>Clastobryellina ceylonensis</i>	CR+EN	—	VU	826	甲殻類
藓類	ハイゴケ目	コモチイトゴケ科	ニセヒロハコモチイトゴケ	<i>Clastobryellina orientalis</i>	CR+EN	—	—	826	その他動物
藓類	ハイゴケ目	コモチイトゴケ科	コモチイチイゴケ	<i>Isopterygium propaguriferum</i>	CR+EN	—	CR+EN	827	維管束植物
藓類	ハイゴケ目	ハシボソゴケ科	ウツクシツヤシメリゴケ	<i>Schofieldiella micans</i>	CR+EN	—	—	827	藓苔類
藓類	ハイゴケ目	ヒラゴケ科	ヒナイトゴケ	<i>Forsstroemia japonica</i>	CR+EN	CR	—	827	藻類
苔類	クラマゴケモドキ目	ケビラゴケ科	ヨウジョウケビラゴケ	<i>Radula acuminata</i>	CR+EN	CR	—	828	キノコ
苔類	クラマゴケモドキ目	ケビラゴケ科	シゲリケビラゴケ	<i>Radula javanica</i>	CR+EN	EN	—	828	EX
苔類	クラマゴケモドキ目	クサリゴケ科	オオヒモヨウジョウゴケ	<i>Cololejeunea magnistyla</i>	CR+EN	CR	—	828	EW
苔類	クラマゴケモドキ目	クサリゴケ科	マゴフククサリゴケ	<i>Lejeunea magohukui</i>	CR+EN	EN	—	829	CR
苔類	ツボミゴケ目	ムチゴケ科	カネマルムチゴケ	<i>Bazzania ovistipula</i>	CR+EN	CR	VU	829	EN
苔類	ツボミゴケ目	ムチゴケ科	トガリスギバゴケ	<i>Kurzia gonyotricha</i>	CR+EN	CR	—	829	VU
苔類	ツボミゴケ目	ウロコゴケ科	マルバソコママゴケ	<i>Heteroscyphus tener</i>	CR+EN	CR	—	830	NT
苔類	ツボミゴケ目	ハネゴケ科	シャンハイハネゴケ	<i>Plagiochila shangaica</i>	CR+EN	CR	CR+EN	830	DD
苔類	ツボミゴケ目	カサナリゴケ科	エゾヒメヤバネゴケ	<i>Hygrobiella laxifolia</i>	CR+EN	CR	—	830	
苔類	ツボミゴケ目	チチブイチョウゴケ科	チチブイチョウゴケ	<i>Acrobolbus ciliatus</i>	CR+EN	EN	VU	831	
苔類	ツボミゴケ目	ツキヌキゴケ科	サイシュウホラゴケモドキ	<i>Eocalypogeia quelpaertensis</i>	CR+EN	CR	VU	831	
苔類	ツボミゴケ目	ツボミゴケ科	マルバツボミゴケ	<i>Jungermannia cyclops</i>	CR+EN	CR	—	831	
苔類	ツボミゴケ目	ミゾゴケ科	ヤクシマミゾゴケ	<i>Marsupella yakushimensis</i>	CR+EN	EN	—	832	
ツノゴケ類	キノポリツノゴケ目	キノポリツノゴケ科	キノポリツノゴケ	<i>Dendroceros japonicus</i>	CR+EN	EN	CR+EN	832	
藓類	クロゴケ目	クロゴケ科	クロゴケ	<i>Andreaea rupestris</i> var. <i>fauriei</i>	VU	EN	—	832	
藓類	スギゴケ目	スギゴケ科	チャボスギゴケ	<i>Pogonatum otaruense</i>	VU	EN	—	833	
藓類	イクビゴケ目	イクビゴケ科	カシミールクマノゴケ	<i>Diphyscium kashmirensis</i>	VU	—	VU	833	
藓類	クロカワナガレゴケ目	オオミゴケ科	オオミゴケ	<i>Drummondia sinensis</i>	VU	EN	—	833	
藓類	ギボウシゴケ目	ギボウシゴケ科	ヤマトハクチョウゴケ	<i>Campylostelium brachycarpum</i>	VU	—	VU	834	
藓類	ギボウシゴケ目	コシッポゴケ科	ハナシキヌシッポゴケ	<i>Seligeria donniana</i>	VU	—	VU	834	
藓類	シッポゴケ目	ホウオウゴケ科	ホソベリホウオウゴケ	<i>Fissidens bryoides</i> var. <i>ramosissimus</i>	VU	EN	—	834	
藓類	シッポゴケ目	ホウオウゴケ科	キュウシュウホウオウゴケ	<i>Fissidens closteri</i> ssp. <i>kiusiuensis</i>	VU	EN	—	835	
藓類	シッポゴケ目	ヒナノハイゴケ科	アオシマヒメシワゴケ	<i>Erpodium glaucum</i> var. <i>trichophyllum</i>	VU	—	VU	835	

哺乳類	藓類	シッポゴケ目	シッポゴケ科	タカネカモジゴケ	<i>Dicranum viride</i> var. <i>hakkodense</i>	VU	EN	—	835
鳥類	藓類	シッポゴケ目	シッポゴケ科	マツバゴケ	<i>Leucoloma molle</i>	VU	EN	—	836
爬虫類	藓類	シッポゴケ目	シッポゴケ科	イボマツバゴケ	<i>Leucoloma okamurae</i>	VU	EN	—	836
両生類	藓類	センボンゴケ目	センボンゴケ科	イワマセンボンゴケ	<i>Scopelophila ligulata</i>	VU	EN	—	836
汽水・淡水魚類	藓類	マゴケ目	チョウチンゴケ科	コチョウチンゴケ	<i>Mnium heterophyllum</i>	VU	VU	—	837
昆虫類	藓類	マゴケ目	チョウチンゴケ科	ハツトリチョウチンゴケ	<i>Rhizomnium hattorii</i>	VU	EN	—	837
クモ類	藓類	タチヒダゴケ目	キブネゴケ科	キサゴゴケ	<i>Hypnodontopsis apiculata</i>	VU	VU	CR+EN	837
貝類	藓類	アブラゴケ目	クジャクゴケ科	キダチクジャクゴケ	<i>Dendroclyathophorum decobyi</i>	VU	VU	VU	838
甲殻類	藓類	アブラゴケ目	クジャクゴケ科	シナクジャクゴケ	<i>Hypopterygium tamarisci</i>	VU	VU	NT	838
その他動物	藓類	ハイゴケ目	アオギスゴケ科	クリシマナギゴケ	<i>Eurhynchium kirishimense</i>	VU	—	—	838
維管束植物	藓類	ハイゴケ目	ハイヒモゴケ科	シノブイトゴケ	<i>Floribundaria floribunda</i>	VU	EN	—	839
藓苔類	藓類	ハイゴケ目	ハイヒモゴケ科	トサノタスキゴケ	<i>Pseudobarbella laosiensis</i>	VU	—	VU	839
藻類	藓類	ハイゴケ目	ハイヒモゴケ科	ヒロハシノブイトゴケ	<i>Trachycladiella aurea</i>	VU	—	VU	839
キノコ	藓類	ハイゴケ目	キヌゴケ科	キャラハラツコゴケ	<i>Gollania taxiphylloides</i>	VU	—	—	840
EX	藓類	ハイゴケ目	イワダレゴケ科	シノブヒバゴケ	<i>Hylocomiastrum himalayanum</i>	VU	EN	—	840
EW	藓類	ハイゴケ目	イワダレゴケ科	ミヤマリュウビゴケ	<i>Hylocomiastrum pyrenaicum</i>	VU	CR	—	840
CR	藓類	ハイゴケ目	ツヤゴケ科	オオミツヤゴケ	<i>Entodon conchophyllum</i>	VU	—	VU	841
EN	藓類	ハイゴケ目	コモチイトゴケ科	タマコモチイトゴケ	<i>Yakushimabryum tokinense</i>	VU	—	—	841
VU	藓類	ハイゴケ目	イトヒバゴケ科	カワブチゴケ	<i>Cyrtodontopsis leveillei</i>	VU	CR	NT	841
NT	藓類	ハイゴケ目	ヒムロゴケ科	オオミミゴケ	<i>Meteoriella soluta</i>	VU	EN	—	842
DD	藓類	ハイゴケ目	ヒラゴケ科	タカネメリンスゴケ	<i>Forsstroemia konoi</i>	VU	EN	—	842
	藓類	ハイゴケ目	ヒラゴケ科	モロハヒラゴケ	<i>Neckera nakazimae</i>	VU	VU	—	842
	藓類	ハイゴケ目	ナワゴケ科	ヤクシマナワゴケ	<i>Oedocladium rufescens</i> var. <i>yakushimense</i>	VU	—	VU	843
	藓類	ハイゴケ目	ナワゴケ科	オオキヌタゴケ	<i>Oedocladium serricuspe</i>	VU	—	—	843
	藓類	ハイゴケ目	ヒゲゴケ科	レイシゴケ	<i>Myurella sibirica</i>	VU	—	VU	843
	苔類	ゼニゴケ目	ジャゴケ科	タカオジャゴケ	<i>Conocephalum salebrosum</i>	VU	—	—	844
	苔類	ゼニゴケ目	ジャゴケ科	マツタケジャゴケ	<i>Conocephalum toyotae</i>	VU	—	—	844
	苔類	クラマゴケモドキ目	ケビラゴケ科	オカムラケビラゴケ	<i>Radula okamurana</i>	VU	—	—	844
	苔類	クラマゴケモドキ目	ヤスデゴケ科	ハワイヤスデゴケ	<i>Frullania meyeniana</i>	VU	VU	—	845
	苔類	ツボミゴケ目	コヤバナゴケ科	オオミネヤバナゴケ	<i>Cephaloziella kiaeri</i>	VU	VU	—	845
	苔類	ツボミゴケ目	タカサゴソコマメゴケ科	タカサゴソコマメゴケ	<i>Jackiella javanica</i>	VU	VU	—	845
	藓類	ミズゴケ目	ミズゴケ科	ホソバミズゴケ	<i>Sphagnum girgensohnii</i>	NT	NT	—	846
	藓類	ミズゴケ目	ミズゴケ科	ホソベリミズゴケ	<i>Sphagnum junghuhnianum</i>	NT	—	DD	846
	藓類	ミズゴケ目	ミズゴケ科	オオミズゴケ	<i>Sphagnum palustre</i>	NT	VU	NT	846
	藓類	イクビゴケ目	イクビゴケ科	クマノゴケ	<i>Diphyscium lorifolium</i>	NT	NT	NT	847
	藓類	シッポゴケ目	カタシロゴケ科	イサワゴケ	<i>Syrrophodon tosaensis</i>	NT	NT	—	847

藓類	センボンゴケ目	センボンゴケ科	ネジレゴケモドキ	<i>Tortella tortuosa</i>	NT	VU	—	847	哺乳類
藓類	マゴケ目	チョウチンゴケ科	ヤマトチョウチンゴケ	<i>Plagiomnium japonicum</i>	NT	—	—	848	鳥類
藓類	タチヒダゴケ目	タチヒダゴケ科	ナガミノゴケ	<i>Macromitrium prolongatum</i>	NT	VU	—	848	爬虫類
藓類	タチヒダゴケ目	タチヒダゴケ科	エゾキンモウゴケ	<i>Ulota japonica</i>	NT	—	—	848	両生類
藓類	アブラゴケ目	クジャクゴケ科	ナゼゴケ	<i>Lopidium struthiopteris</i>	NT	NT	—	849	汽水・淡水魚類
藓類	ハイゴケ目	チリメンゴケ科	ヤマハイゴケ	<i>Stereodon subimponens</i> var. <i>ulophyllus</i>	NT	—	—	849	昆虫類
藓類	ハイゴケ目	サナダゴケ科	ヒゴイテイゴケ	<i>Pseudotaxiphyllum maebarae</i>	NT	—	—	849	クモ類
藓類	ハイゴケ目	イワダレゴケ科	イワダレゴケ	<i>Hylocomium splendens</i>	NT	VU	—	850	貝類
藓類	ハイゴケ目	イワダレゴケ科	タチハイゴケ	<i>Pleurozium schreberi</i>	NT	VU	—	850	甲殻類
藓類	ハイゴケ目	ツヤゴケ科	サクラジマツヤゴケ	<i>Entodon calycinus</i>	NT	VU	—	850	その他動物
藓類	ハイゴケ目	ツヤゴケ科	カラフトツヤゴケ	<i>Entodon scabridens</i>	NT	CR	—	851	維管束植物
藓類	ハイゴケ目	ヒラゴケ科	セイナンヒラゴケ	<i>Neckeromnion calcicola</i>	NT	VU	—	851	藓苔類
藓類	ハイゴケ目	ヒラゴケ科	トサヒラゴケ	<i>Pengchengwua obtusata</i>	NT	NT	NT	851	藻類
苔類	ゼニゴケ目	ウキゴケ科	ウキウキゴケ	<i>Riccia fluitans</i>	NT	VU	—	852	キノコ
苔類	ゼニゴケ目	ウキゴケ科	イチョウウキゴケ	<i>Ricciocarpos natans</i>	NT	NT	NT	852	EX
苔類	クラマゴケモドキ目	ヤスデゴケ科	サカワヤスデゴケ	<i>Frullania sackawana</i>	NT	NT	VU	852	EW
苔類	クラマゴケモドキ目	クサリゴケ科	ヨウジョウゴケ	<i>Cololejeunea trichomanis</i>	NT	NT	NT	853	CR
苔類	クラマゴケモドキ目	クサリゴケ科	カビゴケ	<i>Leptolejeunea elliptica</i>	NT	NT	NT	853	EN
苔類	ツボミゴケ目	ムチゴケ科	マエバラムチゴケ	<i>Bazzania mayebarae</i>	NT	NT	—	853	VU
苔類	ツボミゴケ目	アミバゴケ科	アイバゴケ	<i>Plicanthus birmensis</i>	NT	—	—	854	NT
藓類	ギボウシゴケ目	ギボウシゴケ科	コバノスナゴケ	<i>Racomitrium barbuloides</i>	DD	—	—	854	DD
藓類	シッポゴケ目	キンシゴケ科	ベニエキンシゴケ	<i>Ditrichum rhynchostegium</i>	DD	—	—	854	
藓類	センボンゴケ目	センボンゴケ科	イボスジネジクチゴケ	<i>Barbula horrinervis</i>	DD	—	—	854	
藓類	センボンゴケ目	センボンゴケ科	ナメリオウムゴケ	<i>Gymnostomum aurantiacum</i>	DD	—	—	854	
藓類	マゴケ目	チョウチンゴケ科	オタルミスゴケ	<i>Pohlia otaruensis</i>	DD	—	—	854	
藓類	ハイゴケ目	ハイヒモゴケ科	キヌヒバゴケ	<i>Dicladia trichophora</i>	DD	—	—	854	
藓類	ハイゴケ目	キヌゴケ科	チチブハイゴケ	<i>Pseudohygrohypnum calcicola</i>	DD	—	—	855	
藓類	ハイゴケ目	コモチイトゴケ科	イヌサナダゴケ	<i>Platygyrium repens</i>	DD	—	—	855	
藓類	ハイゴケ目	ヒラゴケ科	キツネノオゴケ	<i>Thamnobryum alopecurum</i>	DD	—	—	855	
苔類	ゼニゴケ目	ヤワラゼニゴケ科	ヤワラゼニゴケ	<i>Monosolenium tenerum</i>	DD	—	VU	855	
苔類	ツボミゴケ目	ヤバネゴケ科	ヒラハクチキゴケ	<i>Odontoschisma denudatum</i> ssp. <i>sandoicense</i>	DD	—	—	855	
苔類	ツボミゴケ目	ヤバネゴケ科	フチドリイボクチキゴケ	<i>Odontoschisma grosseverrucosum</i>	DD	—	—	855	

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ヤクシマアミバゴケ

苔類 アミバゴケ科

Hattoria yakushimensis (Horik.) R.M.Schust.

【選定理由】 既知の県内生育地点数は1であり、唯一の生育地からの記録が現在に到るまで40年以上ない。

【種概要】 茎は10~25 mm, 緑から赤褐色。葉は円形で強く内曲(凹面状)して折り重なり紐状になる。細胞壁は薄く, トリゴン(角隅)は大きい。腹葉は無い。雌雄異株。

【分布】 中国。国内では, 鹿児島県(与志甫岳, 屋久島), 三重県(御在所山)の3箇所から知られているが, 屋久島以外の産地では生育の再確認がなされていない。

【現況・減少要因】 1970年に発見した生育地の断崖の壁面には全く見られなくなった。これまで数度にわたる現地調査にもかかわらず現認できず, 生育地が登山路に沿っているため盗採により絶滅した可能性が高い。

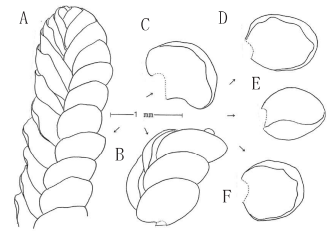
【保護対策】 すでに絶滅したものと思われるが, 御在所山山頂一帯にある断崖岩上での継続的調査が必要である。

【特記事項】 日本固有種とされていたが, 最近, 中国と韓国からも記録された。

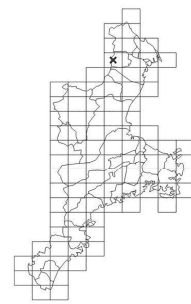
【文献】 61, 109.

(山田耕作・秋山弘之)

(写真: 菰野町, 1971年, (山田 No. 10646より))



A, B 茎の一部(腹面), C~F 葉



三重県 2025

EX

三重県 2015

CR

環境省 2020

CR+EN

ボウズムシトリゴケ

苔類 クサリゴケ科

Colura meijeri Jovet-Ast

【選定理由】 既知の生育地は1箇所であり, 生育地から70年以上記録がない。

【種概要】 植物体は淡緑色で, 茎は僅か2~5 mmと微小。葉は卵形, 腹片は背片より長く, 円筒形, 上部は膨らみ袋状で円盤状の無性芽を付ける(右図)。内側の上端に小さい開口部があり, 開口部に透明な弁がある。弁の厚壁細胞は葉の厚壁細胞と一点で接している。腹葉がある。生葉上や樹幹上に生える。

【分布】 ジャワ島に隔離分布。奄美大島から九州, 四国を経て本州の和歌山県, 三重県(朝熊山), 小笠原に分布するが, まれ。

【現況・減少要因】 生育地での精査でも見つかっていない。台風等の影響により生育環境の大きな変化が原因で, 絶滅したものと思われる。

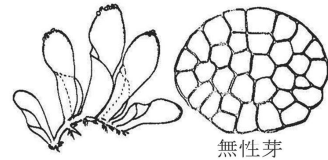
【保護対策】 当地では絶滅したものと思われるが, 県南地域の湿度の高い渓谷での継続的調査が必要である。

【特記事項】 児玉務は1954年3月31日, 伊勢市朝熊山旧テント村付近(530 m)のクロバイ樹幹上で採集した(児玉5803: 大阪市立自然史博物館, 服部植物研究所蔵)。

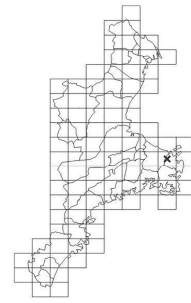
【文献】 16, 54.

(山田耕作・土永浩史)

(写真: 土永(2009), 南紀生物33(2)より)



無性芽



三重県 2025

EX

三重県 2015

EX

環境省 2020

VU

オチクサリゴケ

苔類 クサリゴケ科

Lejeunea otiana S.Hatt.

【選定理由】 既知の生育地点数は1であり, 62年以上も記録がない。

【種概要】 植物体は茶緑色から濃緑色で, 5~10 mmと微小。葉背片は卵形で頂端は円形から鈍形。葉の細胞壁は薄く, トリゴン(角隅)が発達する。葉下片は斜方形, 頂端は伸びて三角形に尖り, キールは直線状。腹葉は離れて茎に着き円形, 頂端は2分の1まで2裂する。雌雄同株。湿岩上に生える。

【分布】 日本固有種で, 熊本(人吉), 愛媛(西条市), 三重(伊勢市), 埼玉(秩父)の各県から知られているが, まれ。県内では, 伊勢神宮内を流れる神路川が唯一の生育地であった。

【現況・減少要因】 長期にわたって調査しているが確認できていない。絶滅したものと思われる。

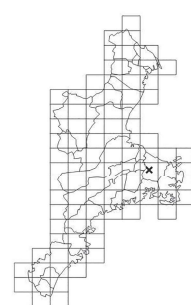
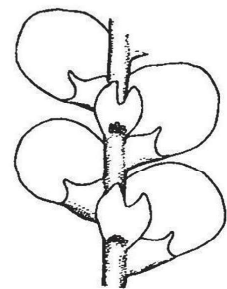
【保護対策】 生育地は宮域林のため人為的圧は低い, さらに当地域含め継続的調査が必要である。

【特記事項】 山田耕作は1962年8月27日, 伊勢市神宮宮域林の鏡岩付近で採集した(服部植物研究所蔵)。

【文献】 61, 71.

(山田耕作・土永浩史)

(写真: Mizutani(1961), J. Hattori Bot. Lab. (24)より)



三重県 2025

EX

三重県 2015

EX

環境省 2020

CR+EN

ハリミズゴケ

蘚類 ミズゴケ科

Sphagnum cuspidatum Hoffm.

【選定理由】既知の生育地点は1箇所、新たに選定種に加えた。貧栄養の湧水湿地・湿原に生えるため環境・開発の影響を受けやすい。

【種概要】環境により植物体のサイズに変異が大きく、繊細なものから大型まで多様。茎葉は舌型三角形で先端は鋭頭、鋸歯がみられる。枝葉は長卵形で上部は内局し、先端は細長く尖るか狭い切形。透明細胞の穴は表裏両面ともに無いか、あっても偽孔。横断面で葉緑細胞は三角形で底辺は背面側に現れる。中間～高層湿原の池糖の水辺に生育。

【分布】北半球に広く分布。国内では北海道から九州に分布するが、西日本では産地が極めて限定され隔離的に分布する。県内では、伊賀市（法花）が唯一の産地。

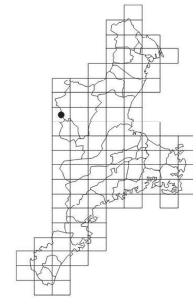
【現況・減少要因】現在は比較的大きな面積で生育しているが、湿地周辺の開発による環境の悪化が危惧される。

【保護対策】湧水の枯渇、水質悪化、湿地全体の富栄養化、湿地の開発による消失。今後とも注意深く見守る必要がある。

【文献】88, 95.

(秋山弘之)

(写真：伊賀市，2023年)



三重県 2025

CR+EN

三重県 2015

—

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

クマノチョウジゴケ

蘚類 キセルゴケ科

Buxbaumia minakatae S.Okam.

【選定理由】既知の生育地点は5箇所以下で、いずれの場所も安定的ではない。採集圧が強い。

【種概要】茎と葉は顕微鏡サイズに小さく、原糸体が薄く広がって生育し、胞子体（蒴）のみが目立つのが特徴的である。蒴は円筒形で側部に稜がない点と同属のウチワチョウジゴケとの区別点。蒴柄は長さが2.5～3.5 mm、蒴の長さは3～5 mm。多くの場合スギ腐朽木上に生える。

【分布】シベリア、北アメリカ、中国、朝鮮半島に分布。国内では、北海道から紀伊半島の和歌山県辺りまで分布。県内では、津市美杉町（三重大演習林）、名張市（赤目溪谷）、大台町（大台ヶ原）、伊勢市（伊勢神宮）、大紀町（滝原宮）から記録されている。

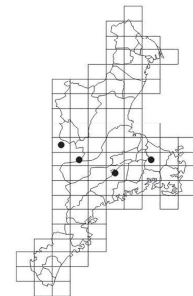
【現況・減少要因】特異な蒴の形から同定に困難は無いが、採集圧が強い。一方植物体は非常に小型のため目に触れにくく、かつ群落の存続はおよそ10年以内と見積られることなどから、既知の5地点ともに確認できていない。

【保護対策】生育地の保全に努める。

【文献】49, 70, 94.

(山田耕作・秋山弘之)

(写真：京都府，2022年)



三重県 2025

CR+EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ミギワイクビゴケ

蘚類 イクビゴケ科

Diphyscium chiapense D.H.Norris

【選定理由】国内でも稀少で、産地が極めて限定され、新たな選定種に加えた。

【種概要】植物体は直立し、茎は長さ約1.5 cm。密生またはまばらに生える。葉の細胞に1個の高いパピラを持ち、雌苞葉の葉身の肩には縁毛が出ず、先端の芒は平滑。近縁なイクビゴケでは葉細胞のパピラは押しつぶされた格好となり、低い2～3個のこぶ状となる。

【分布】フィリピン、台湾、メキシコ、日本に分布。国内では本州、四国に分布。県内では紀北町（魚飛溪）からのみ知られる。

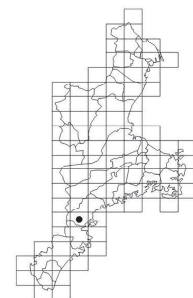
【現況・減少要因】湿度の高い溪流沿いの、土壌のごく薄く堆積したか、またはその堆積のない岩壁上に生育する。木口他（2006）による報告以来、現状は未確認。森林伐採や河川開発による生育環境の変化によって壊滅的な影響を受ける可能性がある。

【保護対策】生育環境の保全が必要である。

【文献】22, 57.

(秋山弘之)

(写真：紀北町，2004年，立石幸敏採集，広島大学蔵)



三重県 2025

CR+EN

三重県 2015

—

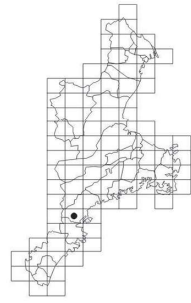
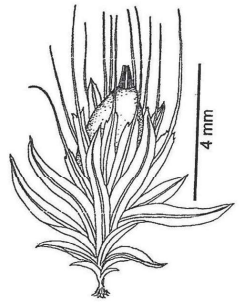
環境省 2020

CR+EN

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

リュウキュウイクビゴケ 蘚類 イクビゴケ科
Diphyscium mucronifolium Mitt.

【選定理由】本県からはじめての報告であり，新たに選定種に加えた。
 【種概要】植物体は15 mm程度で濃い緑色．普通葉はへら形で長さ約5 mm．やわらかくて乾いてもあまり縮れず，ややつやがある．葉身の上部でもっとも幅広く，基部から5分の1くらいの部分でくびれる．葉細胞はパピラも無く，平滑である．日陰の岩上に生育する．
 【分布】オーストラリア，アジア，北米に分布．国内ではこれまで本州（静岡から西），四国，九州から琉球に報告がある．県内では，海山町（現紀北町）木津の記録がある．
 【現況・減少要因】現況は未確認である．
 【保護対策】生育地一帯の環境保全に努める．
 【特記事項】上記の北牟婁郡紀北町の採集記録は，1958年12月21日に高木典雄によって採集された標本である．
 【文献】9, 38, 66, 83.



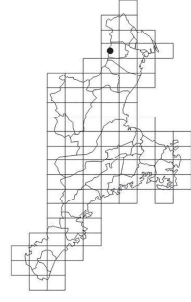
三重県 2025
CR+EN
三重県 2015
—
環境省 2020
—

(森田奈菜)

(写真：Magombo (2003) , J. Hattori Bot. Lab. (94)より)

シモフリゴケ 蘚類 ギボウシゴケ科
Racomitrium lanuginosum (Hedw.) Brid.

【選定理由】既知の生育地は1箇所である．生育環境の悪化で消滅するおそれがある．
 【種概要】茎の長さは50~100 mmでよく枝分かれして，全体に白っぽい群落をつくる．葉は披針形，葉先に向かって細く尖り葉の2分の1以上は透明な牙状の歯をもつ．中肋は葉先から突き出ている．雌雄異株．岩壁や裸地の岩上に群生する．
 【分布】全世界に分布．国内では北海道から九州に見られるが中部地方以北に多く，山地帯の上限から高山帯に分布する．県内では菰野町（御在所山）からのみ記録されている．
 【現況・減少要因】県内唯一の産地である御在所山山頂近くの岩場で群落を形成，生育しているのを確認した．10年以上の調査では確認されていない状況が続いていたが，この岩場では継続して生育できそうな地点であるとみられる．
 【保護対策】本種は白っぽく見え，目に付きやすいため採集圧が強い．山頂一帯の蘚苔類の保全を強化する．
 【文献】51, 70, 99.



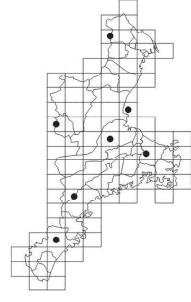
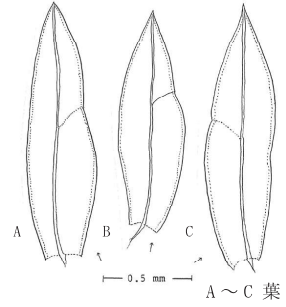
三重県 2025
CR+EN
三重県 2015
CR
環境省 2020
—

(山田耕作・秋山弘之)

(写真：東京都，2008年，平岡正三郎撮影)

ジョウレンハウオウゴケ 蘚類 ホウオウゴケ科
Fissidens geppii M.Fleisch.

【選定理由】生育地は少なく限定的である．生育に適した水辺の環境が減少している．
 【種概要】植物体は濃緑色から鮮緑色で，長さ10 mm程度で微小．葉は狭披針形から披針形で，先は鋭く尖る．葉縁の舷は明瞭で，その断面は複数細胞からなるが，葉先の下で急に消える．中肋も強く葉先近くに達する，または短く突出．雌雄同株．水中から水しぶきのかかる岩上に生える．
 【分布】アジアの熱帯から亜熱帯地域に広く分布．国内では，本州，四国，九州に分布するが，まれ．県内では，いなべ市（藤原岳），名張市（赤目溪谷），津市（偕楽公園），松阪市（岩内），伊勢市（伊勢神宮），大台町（大杉谷）から知られている．
 【現況・減少要因】植物体が微小なので，確認が困難であるが，森林伐採による生育場所の水の枯渇が原因で大きな影響を及ぼす可能性が高い．
 【保護対策】現況の早急な把握に務めることが重要である．
 【文献】49, 52, 57, 70.



三重県 2025
CR+EN
三重県 2015
EN
環境省 2020
VU

(山田耕作・土永浩史)

(写真：名張市，(孫福 No. 14493より))

コカモジゴケ

蘚類 シッコゴケ科

Dicranum mayrii Broth.

【選定理由】既知の生育地点数は3である。自然災害による環境の悪化で消滅するおそれがある。

【種概要】茎は長さ10~20 mm。葉は披針形、葉上部の縁に歯がある。葉背面の葉細胞に乳頭がある。中肋は太く、上部の背面にも乳頭がある。林内の地上に生える。

【分布】サハリンから中国、朝鮮半島、台湾に分布。国内では、北海道、本州、四国、九州に分布するが生育地は少ない。県内では、津市美杉町（三重大演習林）、大台町（堂倉谷）、大台ヶ原（大蛇嶺）で記録されている。

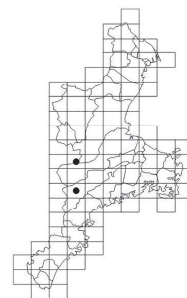
【現況・減少要因】既知の3地点とも確認ができていない。現況の把握が必要である。

【保護対策】生育地を確認して一帯の保全を強化する。

【文献】50, 70, 94, 108.

(山田耕作・寺尾恭平)

(写真：大台町，1949年，高木典雄採集，森田奈菜撮影，三重県総合博物館蔵)



三重県 2025

CR+EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔蘚類

藻類

キノコ

ケシッコゴケ

蘚類 シッコゴケ科

Dicranum setifolium Cardot

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。自然災害、森林伐採などによる環境の悪化で消滅するおそれがある。

【種概要】茎は大型、長さ70~90 mm、黄緑色から黒褐色。葉は基部が広く刃先に向かって線状に伸びる。葉先は殆ど中肋からなり全縁、林内の地上に生える。高地性蘚類の一種である。

【分布】中国に分布。国内では、北海道から本州を経て四国、九州に至る高山に分布するが生育地は極めて少ない。県内では、菰野町（御在所山）と大杉谷（平等嶺）から知られている。

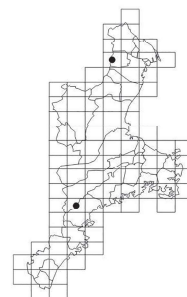
【現況・減少要因】現況は確認できていない。

【保護対策】現況を把握し保全が必要である。

【文献】50, 52, 70, 108.

(山田耕作・寺尾恭平)

(写真：菰野町，1972年，高木典雄採集，森田奈菜撮影，三重県総合博物館蔵)



三重県 2025

CR+EN

三重県 2015

CR

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ヒロハヤスジゴケ

蘚類 ヤスジゴケ科

Rhabdoweisia crenulata (Mitt.) H.Jameson

【選定理由】国内の既産地が2箇所であり、うち県内産地が1箇所、新たな選定種に加えた。

【種概要】植物体は高さ6 mm程度で極めて小型。葉は乾くと強く巻縮する。葉は狭い披針形で長さ2~4 mm、鋭頭。中肋は一本で頂達する。葉身細胞は短い矩形、薄膜。蒴柄はわら色で長さ約3 mm。蒴歯は一重、狭い披針形。普通種のナメハヤスジゴケに極めて近縁であるが、葉縁上部に低い鋸歯があり、蒴歯表面にわずかな筋模様が見られる点（右写真）で異なっている。溪谷内の常に湿った岩上に生育する。

【分布】欧州、グリーンランド、アメリカ東海岸、コロンビア、ハワイ、中国に点々と分布。国内では三重県と宮崎県の2箇所のみから知られる。県内では、松阪市飯高町（宮ノ谷）が唯一の産地。

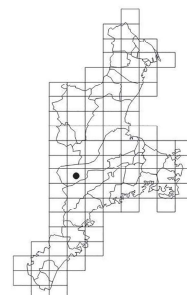
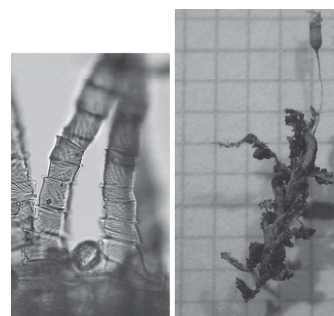
【現況・減少要因】2011年の県内からの報告以来、再確認されていない。増水や崖崩れによる生育地の消失が考えられる。

【保護対策】生育地の保全が必要である。

【文献】1, 46.

(秋山弘之)

(写真：松阪市，2016年)



三重県 2025

CR+EN

三重県 2015

—

環境省 2020

—

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- 維管束植物
- 苔苔類
- 藻類
- キノコ
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

キアミゴケ

蘚類 カタシロゴケ科

Syrhodon kiiensis Z.Iwats.

【選定理由】 県南で1箇所生育地が加わったが、県内の既知の地点数は2地点(4箇所)であった。自然災害による生育環境の悪化で消滅するおそれがある。

【種概要】 茎は長さ10~20 mm, 葉は披針形状で乾くと巻縮する。葉縁は内曲, 数列の透明な細胞からなる舷があり小さい歯がある。上部の中肋に乳頭がある。

【分布】 日本固有種。鹿児島県(屋久島), 和歌山県, 三重県から知られている。県内では、大台町(大杉谷)と松阪市飯高町(江馬小屋谷沿いの3箇所)から知られている。また、新たに紀宝町で生育を確認することができた。

【現況・減少要因】 今回、タイプ産地である大杉谷桃の木小屋近くで約70年ぶりに再発見することができた。松阪市飯高町で生育が記録されているが個体数は少なく、紀宝町の個体も少量であった。

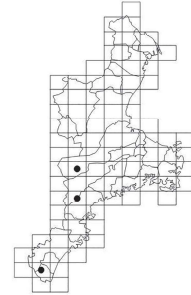
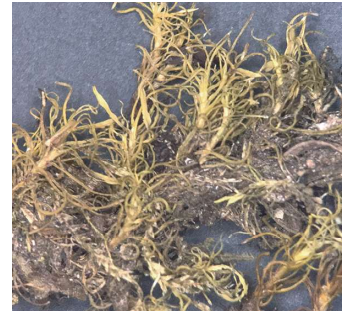
【保護対策】 生育地の保全強化に努める。

【特記事項】 大杉谷桃の木小屋産の標本が正基準標本に指定されている(Mie-ken: Momonoki-hut, April 6, 1954. Coll. Z. Iwatsuki 26677-Holotype in NICH)。

【文献】 49, 56, 57, 70.

(山田耕作・秋山弘之)

(写真: 紀宝町, 2024年, 山本誠二採集・撮影, 三重県総合博物館蔵)



三重県 2025

CR+EN

三重県 2015

CR

環境省 2020

CR+EN

タチチョウチンゴケ

蘚類 チョウチンゴケ科

Orthomnion dilatatum (Mitt.) P.C.Chen

【選定理由】 生育地は数箇所と少ない。樹幹に着生するので森林伐採の影響を強く受ける。

【種概要】 植物体は濃い緑色で、茎は這い、長さは10 cmほど。匍匐した茎に葉は扁平に並ぶ。また分枝もし、褐色の仮根を密につける。葉は卵状楕円形、先は丸く少し尖ることがある。縁には2細胞列の舷があり全辺。中肋は葉先まで達しない。乾燥時にはよく縮れる。蒴は長卵形で、蒴柄は短く苞葉から伸び出ない。雌雄同株。主に樹幹上に着生する。

【分布】 東南アジアに分布。国内では、九州と本州に分布する。県内では、伊賀市(旧上野市三田神社)、松阪市飯高町(蓮)、大台町(大杉谷)、熊野市(飛鳥神社、大馬神社)から知られている。

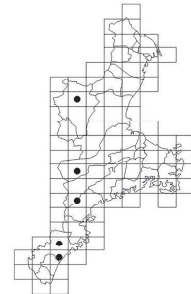
【現況・減少要因】 神社林を含む森林環境の変化が大きく影響する。詳細な追跡調査が求められる。

【保護対策】 樹幹着生が多いので、樹木の伐採や枝打ちなどには配慮が必要である。

【文献】 58, 70.

(山田耕作・土永浩史)

(写真: 大台町, 2001年)



三重県 2025

CR+EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

CR+EN

ナガエミノゴケ

蘚類 タチヒダゴケ科

Macromitrium reinwardtii Schwägr.

【選定理由】 県内での既知の生育地点は1箇所である。人為的圧による環境の悪化で消滅するおそれがある。

【種概要】 植物体は黄緑色から暗緑色、長さは10 cmに達する。枝は直立、分枝は少なく長さは5 mm。茎葉は鈍三角形から長披針形、葉先は尖り、縁はそり返る。中肋は葉先近くまで伸びる。枝葉は乾くと巻縮、広披針形。葉身の細胞の表面には小さな乳頭が3~5個見られ、細胞壁は肥厚する。国内産ミノゴケ属の中では唯一雌雄同株であり、蒴柄の長さが10 mmを超える。樹幹に着生する。

【分布】 ジャワからフィリピン、台湾に分布。国内では、熊本県、鹿児島県(屋久島)を経て三重県に分布する。県内では、朝熊山(伊勢市)の記録だけである。

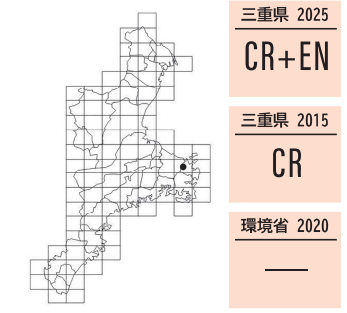
【現況・減少要因】 生育地一帯の調査にも関わらず再確認できていない。

【保護対策】 生育地の保全に努める。

【特記事項】 証拠標本は伊勢市朝熊山(山田耕作NICH-73884)である。

【文献】 70, 80.

(山田耕作・秋山弘之)



三重県 2025

CR+EN

三重県 2015

CR

環境省 2020

—

イブキキンモウゴケ

蘚類 タチヒダゴケ科

Ulota perbreviseta Dixon & Sakurai

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。自然災害による環境の悪化で消滅のおそれがある。

【種概要】茎は褐色から黒褐色で直立し、長さは10~15 mm。葉は乾くと巻縮し、披針形、基部は卵形、葉先に向かって細くなり、葉先は鋭頭、葉縁は全辺。中肋は葉先の下まで達する。蒴柄は非常に短く、葉より蒴は上にはあまり出ない。雌雄同株。尾根や山頂付近の灌木の枝に着生する。

【分布】朝鮮半島からも知られ、国内では、九州から神奈川県以西に分布するが生育地は少ない。県内では、いなべ市（藤原岳）や津市美杉町（三重大演習林）、松阪市（高見山）の山地帯から記録されている。

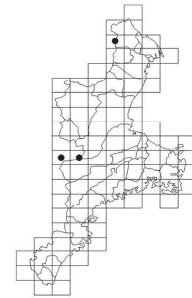
【現況・減少要因】藤原岳、高見山の生育地は未確認で、また三重大演習林では生育の実態は不明である。

【保護対策】低木の枝に着生するため、伐採や間伐の際には配慮が必要である。

【文献】70, 94.

(山田耕作・寺尾恭平・土永浩史)

(写真：松阪市，寺尾恭平採集，森田奈菜撮影，三重県総合博物館蔵)



三重県 2025

CR+EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔蘚類

藻類

キノコ

キジノオゴケ

蘚類 クジャクゴケ科

Cyathophorum adiantum (Griff.) Mitt.

【選定理由】湿度の高い溪谷という限定された生育地に数箇所みられ、森林伐採による乾燥化で減少する可能性がある。

【種概要】植物体は濃い緑色で長さ40~50 mmと大形で枝分かれない。茎の頂端は尾状となり線状の無性芽を多くつける。側葉は狭楕円形から卵形で非相称、葉縁に長い刺状の歯があり、中肋は短い。腹葉は倒卵形~楕円形、中肋がなく、先端は急に細く尖る。樹幹や岩上に生える。

【分布】ヒマラヤから中国、東南アジアに分布。国内では、九州、四国から紀伊半島（和歌山県、三重県）まで分布している。県内では、大台町（大杉神社）、松阪市飯高町（宮ノ谷、江馬小屋谷）と尾鷲市（九鬼）から知られている。

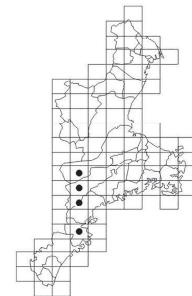
【現況・減少要因】生育地周辺の林道工事による森林環境の変化により湿度が保てなくなることが原因である。

【保護対策】大形で綺麗な蘚類であるため目につきやすいが、生育環境の保全に努め、樹木の伐採には十分な配慮が必要である。

【文献】57, 64, 70.

(山田耕作・寺尾恭平・土永浩史)

(写真：和歌山県，2019年)



三重県 2025

CR+EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

クロカワゴケ

蘚類 カワゴケ科

Fontinalis antipyretica Hedw.

【選定理由】生育地は数箇所と限定されている。河川や水路の水中に生育する特異な生態をもつので、水量の変化や水質の悪化により大きく影響される。

【種概要】植物体は黒緑色で、30 cm以上にもなり、不規則に分枝する。葉は卵形で先のほうに向かって縦に折りたたまれ、先は尖り縁に小歯がある。葉の翼部にやや厚壁の細胞が発達するが、中肋はない。雌雄異株。水中の岩上や流木に絡みつく。

【分布】北半球に分布。国内では、北海道、本州に分布するが極めてまれ。県内では紀北町（船津）と尾鷲市（中川、賀田）で記録されている。

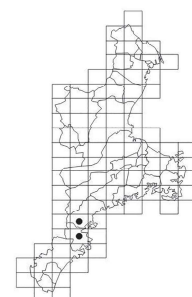
【現況・減少要因】紀北町内頭川や尾鷲市桂ヶ丘の水路では旺盛に生育しているのを確認。尾鷲市賀田は、熊野尾鷲道路の建設に伴う工事により河川への土砂の流入等により消滅したものと考えられる。

【保護対策】河川や水路の改修を行なう際は、事前に周辺の調査を行う必要がある。また、県南の他の河川も早急に調査し実態を解明する必要がある。

【文献】52, 70, 100.

(山田耕作・土永浩史)

(写真：紀北町，2023年)



三重県 2025

CR+EN

三重県 2015

CR

環境省 2020

VU

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
藓苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ササオカゴケ (アオモリカギハイゴケ)

藓類 ヤナギゴケ科

Sasaokaea aomoriensis (Paris) Kanda

【選定理由】生育地は数箇所と少ない。低地の湿地や水田の水路などという開発の対象となりやすい環境に生育するので、消滅するおそれ大きい。

【種概要】植物体は青緑色で長さ10~20 cm, 羽状に枝分かれする。茎に糸状で先が分かれた毛葉が多数つく。葉は茎に偏平につき、先端部はカギ状となって曲がる。茎葉の先は鋭頭、中肋は1本で葉頂に達しない。雌雄異株。明るい湿地や放棄水田などの水辺で、水中に生えることもある。

【分布】台湾や韓国に分布。国内では、九州、四国、本州に分布する。県内では、菰野町、伊勢市(旭町, 外宮), 志摩市大王町(波切)から知られている。

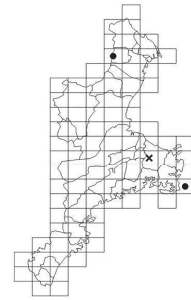
【現況・減少要因】低地の湿地や管理放棄された水田等に見られるので、水路の整備等で生育地が改変されることや、維管束植物が繁殖することにより明るく湿った環境が維持できなくなって減少することも考えられる。

【保護対策】生育地全体の保全が重要である。

【文献】30, 51, 70.

(山田耕作・土永浩史)

(写真: 和歌山県, 2020年)



三重県 2025

CR+EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

CR+EN

ホソイトツルゴケ

藓類 トラノオゴケ科

Heterocladium tenellum H. Deguchi & H. Suzuki

【選定理由】国内の既産地が6箇所であり、うち県内産地が1箇所であることから新たな選定種に加えた。

【種概要】植物体は小型で、一次茎は基物上を匍って長さ約2 cm, 不規則に分枝し側枝を出す。葉は広い卵形で、上部は急に細く尖り、乾くと反り返る。中肋は無いが短く二叉。葉細胞は狭い紡錘形で波形で肥厚、上部が突出する。蒴は円筒形で蒴柄は約20 mm. 蒴歯は二重でハイゴケ型。ブナ林内の岩上に生育。本種は同属のイセノイトツルゴケとは、葉形、葉身細胞の形状ならびに乾いた際の葉の巻き方がかなり相違することから、ヤナギゴケ科とする見解もある。

【分布】日本固有種。徳島, 高知, 愛媛, 広島, 三重, 福島の各県から報告がある。県内では、現大台町(大台ヶ原)が唯一の産地であった。

【現況・減少要因】下記産地では未確認だが、今回大杉谷(堂倉谷)で見出された。

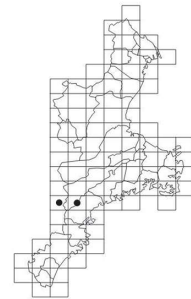
【保護対策】生育地の保全が必要である。

【特記事項】大台ヶ原(旧宮川村, 駐車場~後場)の標本が正基準標本に指定されている(Mie-ken: Taki-gun, Miyagawa-mura, Oodaigahara parking area - Ikadaba, 1450 m alt., on rocks, Aug. 19, 1971, H. Deguchi 7731, holotype in HIRO).

【文献】23, 48.

(秋山弘之)

(写真: 大台町, 2024年, 山口富美夫採集, 広島大学蔵タイプ標本)



三重県 2025

CR+EN

三重県 2015

—

環境省 2020

—

イバラヤエゴケ

藓類 ハイヒモゴケ科

Meteoriopsis undulata Horik. & Nog.

【選定理由】特定の保護地域で見つかったが、自然災害による環境の悪化で生育域が狭まるおそれがある。

【種概要】植物体は黄緑色から濃い緑色で、葉は偏平につき、横に広がるがあまり反り返らない。基部は広卵形で葉先に向かって細く糸状になり尖る。葉縁には小さい歯があり、中肋は5分の1ほどで終わる。細胞壁は薄く、細胞の表面には1個小さい乳頭がある。枝に糸状の鞭枝をつけることがある。樹幹に着生する。

【分布】台湾に分布。国内では、九州、四国、本州(近畿地方以西)に分布するがまれで、県内では、伊勢市(朝熊山, 伊勢神宮), 大宮町(滝原宮)から知られているだけである。

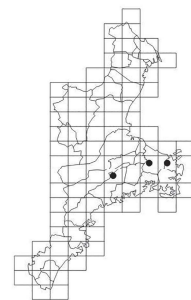
【現況・減少要因】伊勢神宮と朝熊山は未確認である。滝原宮では、調査許可が下りず不明である。

【保護対策】伊勢神宮や滝原宮内ではともに樹木の伐採や間伐時に配慮することが必要である。

【文献】70.

(山田耕作・寺尾恭平・土永浩史)

(写真: 和歌山県, 1971年, 太田耕二郎採集, 南方熊楠顕彰館蔵)



三重県 2025

CR+EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

ニセシダレウニゴケ

蘚類 ウニゴケ科

Symphiodon asper (Mitt.) A. Jaeger

【選定理由】 県内の産地は1箇所、種としての分布の東限にあたり、新たな選定種に加えた。

【種概要】 植物体は2~3回羽状分枝する。茎葉と枝葉の大きさと形の違いは小さい。葉（特に茎葉）はしばしば非相称となり、基部が下延することが多い。葉細胞の上端突起は茎葉では弱くて目立たないが、枝葉では顕著となる。谷沿いの灌木や岩上などに生育。増水時にも冠水しない場所に見られる。

【分布】 台湾、ベトナム、ミャンマー、インドに分布。国内ではこれまで四国（徳島県、高知県）ならびに九州（熊本県、宮崎県、鹿児島県）の合計8箇所からの報告がある。県内では御浜町（神木）から確認されたが、これが本州からの初記録であり、かつ種としての分布の東限になる。

【現況・減少要因】 滝つぼにほど近い右岸のほぼ垂直に近い日当たりのよい岩壁上の、増水時にもほぼ冠水しない場所にシノブゴケ属蘚類と混生し、薄い群落をつくって生育。極端な増水による攪乱が憂慮される。

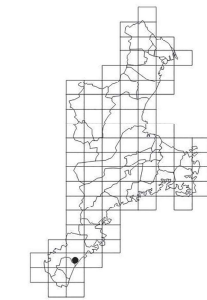
【保護対策】 生育地一帯の保全が必要である。

【特記事項】 本種は日本固有種といわれていたが、最近、中国と韓国からも記録された。

【文献】 9.

(秋山弘之・山本誠二)

(写真：御浜町，2023年)



三重県 2025

CR+EN

三重県 2015

—

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

ラッコゴケモドキ

蘚類 ウニゴケ科

Symphiodon gollanioides Nog.

【選定理由】 国内では唯一の産地であり、新たな選定種に加えた。

【種概要】 植物体は岩上を短く匍う。葉は倒卵形、葉頂部は円頭で鋸歯がある。葉細胞の上端突起は低くて目立たない。中肋は2本でともに長い。蒴壁のトゲは長くて150 μmに達する。同属他種と比較して、やや下ぶくれ気味で鈍頭になる卵状披針形の葉が特徴である。

【分布】 タイ北西部、インド、ブータンに分布。国内では三重県だけから知られ、松阪市飯高町蓮川の支流宮ノ谷が唯一の産地である。

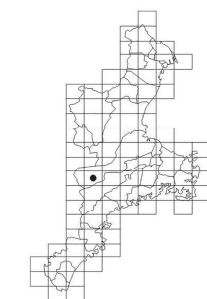
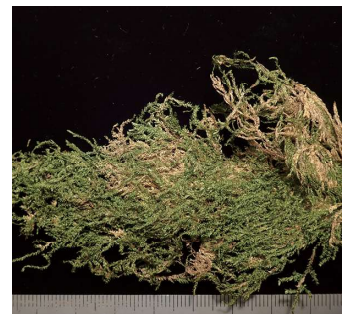
【現況・減少要因】 深い渓谷の溪流沿いの岩上に生育。自然災害による生育地の喪失が現象の要因として想定される。

【保護対策】 生育地の保全が必要である。

【文献】 9, 81.

(秋山弘之)

(写真：松阪市，2010年)



三重県 2025

CR+EN

三重県 2015

—

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

シダレウニゴケ

蘚類 ウニゴケ科

Symphiodon recurvomarginatus (Dixon & Sakurai) H. Akiyama

【選定理由】 国内でも稀少種であり、県内では産地が1箇所であることから、新たな選定種に加えた。

【種概要】 植物体は軟弱で、灌木の枝から垂れ下がって生育あるいは着生する基物表面を下向きに生え、短い枝も横に張り出すことはない。茎葉は鋭頭で葉縁上部の鋸歯は弱い。葉上部にしばしば横シワが見られる。茎葉・枝葉ともに葉細胞の上端突起を欠く。蒴壁のトゲは低くて高さ75 μm以下。風がよく吹き抜ける、しばしば霧がかかる尾根筋で特に山頂直下の、小灌木の水平に張り出す細い枝や幹から垂れ下がり生育する。

【分布】 ベトナム北部、台湾から報告がある。国内では東京都（八丈島）から鹿児島県（徳之島）にかけて、太平洋岸沿いに隔離的に点々と分布。県内では紀北町（旧海山町木津）から知られる。木口他（2006）は本種を松阪市宮ノ谷や江馬小屋谷から報告しているが、ナガレウニゴケの同定間違いの可能性が高い。

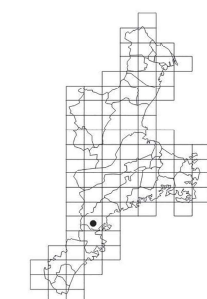
【現況・減少要因】 現地調査では未確認である。

【保護対策】 生育環境の保全が必要である。

【文献】 9, 38.

(秋山弘之)

(写真：鹿児島県，2016年)



三重県 2025

CR+EN

三重県 2015

—

環境省 2020

VU

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ナガレウニゴケ

蘚類 ウニゴケ科

Symphiodon rheophilus H.Akiyama

【選定理由】日本固有種で国内では3箇所から報告があり、県内の産地がそのうちの1箇所であることから、新たな選定種とした。

【種概要】植物体は二次茎、枝ともに葉はやや扁平につける傾向が強く、糸状になることはない。茎・枝葉は相称、鋭頭から鈍頭で葉縁上部の鋸歯は目立たない。葉細胞上端の突起は強くて目立つ。西南日本の山間部の深い渓谷で、平時は水没せず極端な増水時に冠水する溪流に見られる小灌木あるいは側壁基部に薄い群落をつくって生育する。いわゆる溪流沿い植物の1種である。

【分布】固有種で、徳島県（海陽町）、宮崎県（都農町）、県内では松阪市蓮川流域（宮ノ谷、江馬小屋谷）から知られる。

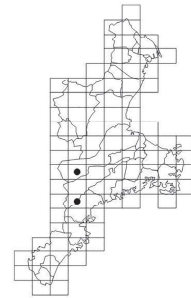
【現況・減少要因】特に宮ノ谷では岩上に薄く大きな群落をつくっていることを確認した。江馬小屋谷の群落は極めて小さい。生育する岩壁の崩壊が懸念される。

【保護対策】生育環境の保全が必要である。

【文献】9。

(秋山弘之)

(写真：松阪市，2013年)



三重県 2025

CR+EN

三重県 2015

—

環境省 2020

—

ヒロハコモチイトゴケ

蘚類 コモチイトゴケ科

Clastobryellina ceylonensis (Broth.) H.Akiyama

【選定理由】国内では3箇所から報告があり、県内の産地がそのうちの1箇所であることから、新たな選定種とした。

【種概要】植物体は極めて小型で数mm程度の高さ。二次茎は基物に接せず、先端はしばしばもろく壊れやすい。葉は卵形から長卵形、長さ0.6mm以下、鈍頭。葉細胞は平滑あるいはわずかに上端に突起がある。線形の無性芽の細胞には密にマミラがある。深い渓谷内の湿った環境（滝の近くなど）にある灌木の幹に生育。以前は*Gammiella ceylonensis*あるいは*Clastobryella tenella*の学名が用いられていた。

【分布】インド南西部、スリランカ、ミャンマー北部、タイ北部、ベトナム、中国並びにアフリカ東岸とマダガスカルに分布。国内では徳島県（海陽町）、宮崎県（綾町、都農町）、鹿児島県（屋久島）から報告がある。県内では大台町（大杉谷）に分布し、過去に2回報告がある。

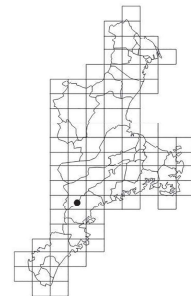
【現況・減少要因】大杉谷（シシ淵近辺）の小灌木上で生育を確認した。増水による着生基物の消失が大きい。

【保護対策】生育環境の保全が必要である。

【文献】5, 6, 23。

(秋山弘之)

(写真：徳島県，2017年)



三重県 2025

CR+EN

三重県 2015

—

環境省 2020

VU

ニセヒロハコモチイトゴケ

蘚類 コモチイトゴケ科

Clastobryellina orientalis H.Akiyama

【選定理由】本県は本州で唯一の産地であり、種として分布の東限になることから新たな選定種に加えた。

【種概要】二次茎は通常5mm内外で基物から斜上。左右扁平に葉をつける傾向が強いが、丸くつくこともある。稀に小灌木の根元から長さ5cmほど垂れ下がることもあり、シダレウニゴケとよく似る。二次茎の葉は長さ0.6~0.9mm、葉細胞の上端に不明瞭もしくははっきりした突起が見られる。葉縁は全縁か基部に細かい鋸歯がある。線形の無性芽に上端にはっきりとマミラが出るが、中部以下は平滑あるいは疎らに小さなマミラをもつ程度。木口他（2006）では、松阪市飯高町（江馬小屋谷）の標本を誤ってタマコモチイトゴケと同定・報告されていた。

【分布】ベトナム北部、台湾に分布。国内では九州・四国・本州に点々と隔離的に分布する。県内では江馬小屋谷のみ知られる。

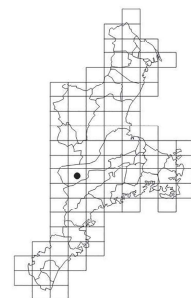
【現況・減少要因】溪流沿いの林縁に生育する小灌木の枝に着生、または短く垂れ下がって生育。生育地の消失が考えられる。

【保護対策】生育地の保全が必要である。

【文献】5, 6, 57。

(秋山弘之)

(写真：宮崎県，2013年)



三重県 2025

CR+EN

三重県 2015

—

環境省 2020

—

コモチイチゴケ

蘚類 コモチイトゴケ科

Isopterygium propagiferum Toyama

【選定理由】新たに県南部の数箇所から生育を確認。和歌山県側では点々と記録されていることから、今後のさらなる調査が必要である。

【種概要】植物体は小形で白っぽい黄緑色だが、無性芽を多量に付けた枝先は濃い緑色に見える。茎は匍い、羽状に分枝し、紡錘形の無性芽を付ける枝が立ち上がるのが特徴で、野外でも確認できる。その枝には小さな葉が圧着しているが、茎葉は卵形の葉が密につき、先端はやや急に細く尖る。湿度の高い林内の腐木にマットを形成する。

【分布】中国・ベトナム・カンボジア・台湾に分布。国内では四国、九州と紀伊半島南部に限られている。他県では生育を確認できていないという報告があり、半島は貴重な存在である。

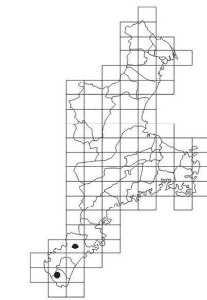
【現況・減少要因】三重県では初記録となるが、スギの倒木を詳細に調べると今後、産地は増える可能性がある。

【保護対策】林内の倒木を放置することで、生育環境を維持できると考える。

【文献】26, 27, 29, 30.

(土永浩史)

(写真：紀和町，2023年)



三重県 2025

CR+EN

三重県 2015

—

環境省 2020

CR+EN

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

ウツクシツヤシメリゴケ

蘚類 ナガハシゴケ科

Schofieldiella micans (Mitt.) W.R.Buck.

【選定理由】国内では計5箇所から報告があるが、県内の産地は本州における唯一であることから、新たな選定種に加えた。

【種概要】植物体はやや小さく、上部は少し光沢のある緑色。直立茎と側枝の葉はほぼ同大で、常時あまり展開しない。葉は短い卵形、中央部で窪み、上部は急に狭くなって鋭頭、基部は狭まる。葉縁は平坦、基部は全縁、上部で非常に小さな鋸歯を持ち、中肋は短くて2本。葉細胞は線形でやや厚膜、平滑。葉翼部は明瞭に分化して茎に流下し、翼細胞は方形～矩形で透明。深い渓谷内の、やや斜めになった岩壁の岩肌に、立ち上がる茎が密生し柔らかい群落を形成する。*Hageniella micans*という学名が用いられることがある。

【分布】北半球に広く分布。国内では高知県(長岡郡、高岡郡、土佐郡)や徳島県(那珂郡)で、県内では松阪市飯高町(宮ノ谷)に分布する。

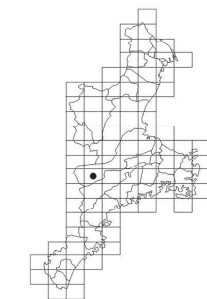
【現況・減少要因】宮ノ谷での生育を確認した。自然災害による生育地の崩壊が大きい。

【保護対策】生育環境の保全が必要である。

【文献】2, 60.

(秋山弘之)

(写真：松阪市，2011年，兵庫県立人と自然の博物館蔵)



三重県 2025

CR+EN

三重県 2015

—

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ヒナイトゴケ

蘚類 ヒラゴケ科

Forsstroemia japonica (Besch.) Paris

【選定理由】既知の生育地点数は1である。自然災害による生育環境の悪化で消滅するおそれがある。

【種概要】植物体は小形で、一次茎は這い、二次茎は長さ10～30 mmでよく分枝する。葉は卵形で、先端に向かって細くなり先は尖る。基部から中央部までは船底状にくぼみ、葉縁は全辺で細胞壁は厚い。中肋は細く、葉の約半分付近終わる。蒴は卵状球形で、苞葉からわずかに抜き出て、帽に長い毛がある。雌雄異株。通常樹幹に着生する。

【分布】シベリア、朝鮮、中国に分布。国内では、北海道から本州、四国、九州まで分布。県内では大台町(大杉谷)から知られている。

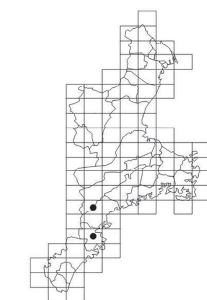
【現況・減少要因】現況は未確認である。

【保護対策】生育地の確認が急務で、大杉谷一帯の調査が必要である。

【文献】49, 70.

(山田耕作・寺尾恭平・土永浩史)

(写真：青森県，2014年，秋山弘之撮影)



三重県 2025

CR+EN

三重県 2015

CR

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ヨウジョウケビラゴケ

苔類 ケビラゴケ科

Radula acuminata Steph.

【選定理由】湿度の高い溪流沿いの樹木やシダの葉上に着生するという限定された生育環境にみられる。

【種概要】植物体は黄緑色で、長さ20 mmほどで、生葉上に着生する。葉背片は折りたたみ型、卵形で葉先は丸い。細胞壁は薄く、トリゴン（角隅）は欠く。葉腹片は狭菱形、頂端は伸び、下部は乳頭状に膨れ、仮根の束がでる。キールは弓状に膨らむ。円盤状の無性芽が葉の腹面に多数生じる。雌雄異株。

【分布】アジアの熱帯、亜熱帯域からフィリピン、台湾に分布。国内では、九州、四国の太平洋側を北上し静岡県まで分布する。県内では、伊勢市（外宮）、大紀町（笠木谷）、南伊勢町（旧南島町新桑）から尾鷲市（南谷）、熊野市（大馬）、紀宝町に分布する。

【現況・減少要因】生育地周辺域の樹木伐採（倒木含む）が発生すると、乾燥化が進行し生育困難となる。

【保護対策】葉上に着生する苔類は他にもあるが、高湿度の溪流環境の維持が大切である。

【文献】52, 61, 71, 105.

（山田耕作・土永浩史）

シゲリケビラゴケ

苔類 ケビラゴケ科

Radula javanica Gottsche

【選定理由】生育地は数少なく、産地の一部では環境が悪化して個体数が減少した可能性がある。

【種概要】植物体は黄緑色で20 mm程度。葉は2裂して折りたたみ型で、脆く脱落しやすい。葉の背片は扁平で卵形、細胞壁は薄い、トリゴン（角隅）はある。葉の腹片は長楕円形状で茎を被う。雌雄異株。岩上や樹幹に生える。

【分布】南アメリカ、太平洋の諸島、東南アジアに広く分布。国内では、琉球から九州、四国を経て、紀伊半島まで北上している。県内では、尾鷲市（大曾根浦、南谷）、伊勢市（伊勢神宮が北限）、志摩市（磯部町五知）から知られている。

【現況・減少要因】尾鷲市（大曾根浦、南谷）では未確認。伊勢神宮の内宮では、生育地周辺の護岸整備に伴い激減。磯部町（五知）では生育場所が狭まった。

【保護対策】北限地の伊勢神宮では、生育地の環境保全が必要である。

【文献】55, 61, 71, 105.

（山田耕作・土永浩史）

オオヒモヨウジョウゴケ

苔類 クサリゴケ科

Cololejeunea magnistyla (Horik.) Mizut.

【選定理由】既知の生育地点数は1である。限られた環境にのみ生育する。

【種概要】葉は広卵形から楕円形、細胞壁は薄く、トリゴン（角隅）を欠く。葉下片は狭舌状形から押しつぶした三角形状、頂端は丸から微凹形。スチルス（柱状細胞）は長く、長さ4～8細胞、幅は1～3細胞。雌雄同株。石灰岩上に生える。

【分布】台湾に分布。国内では、琉球、九州（熊本）を経て三重県、千葉県から知られている。県内では、志摩市磯部町（天の岩戸）から採集されている。

【現況・減少要因】今回の調査では生育を確認できなかった。

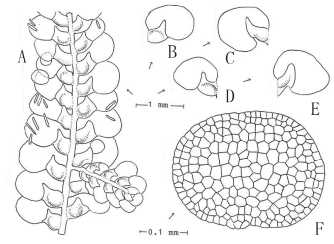
【保護対策】天の岩戸一帯の環境保全に努める。

【特記事項】孫福正は1965年11月15日に志摩市磯部町（天の岩戸）の石灰岩上で採集した（孫福正 4285, 神宮司庁営林部蔵）。

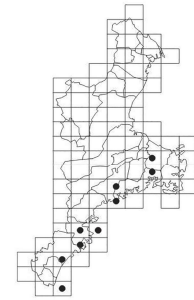
【文献】62, 72.

（山田耕作・山本誠二）

（写真：志摩市、1965年、（孫福 No. 4285より））



A 無性芽をつけた茎の一部（側面）、
B～E 葉、F 無性芽



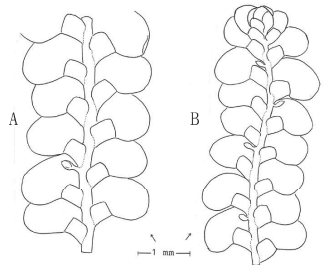
三重県 2025

CR+EN

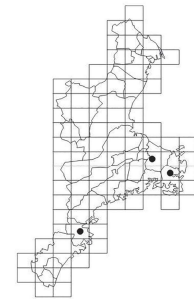
三重県 2015

CR

環境省 2020



A, B 茎の一部（側面）



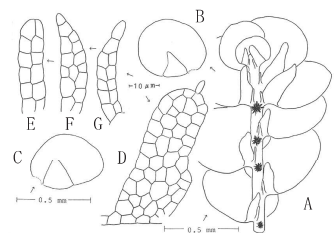
三重県 2025

CR+EN

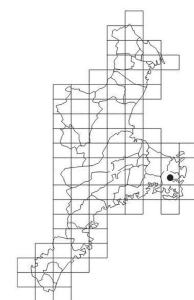
三重県 2015

EN

環境省 2020



A 茎の一部（腹面）、B・C 葉、
D 葉の下片の細胞、E～F 柱状細胞



三重県 2025

CR+EN

三重県 2015

CR

環境省 2020

マゴフククサリゴケ

苔類 クサリゴケ科

Lejeunea magohukui Mizut.

【選定理由】 既知の生育地点数は3であり、各生育地の個体数は少ない。

【種概要】 茎は黄緑色、長さ5~10 mm。葉（背片）は卵形、細胞の大きさは周縁部から内部に向かって大きくなり、細胞壁は薄く、トリゴン（角隅）は大きい。表面はザラザラしている。葉の腹片は背片の約4分の1の長さ、卵形。腹葉は小さく、2分の1から3分の2まで2裂、裂片は狭三角形、先は尖る。雌花序は短枝に着く。雌雄異株。樹幹に着生する。

【分布】 中国に分布。国内では沖縄を経て本州では主に紀伊半島に分布し、静岡県（小笠山）辺りまで北上している。県内では、伊勢市（外宮）、大紀町（滝原宮）、熊野市（大馬神社）から知られている。

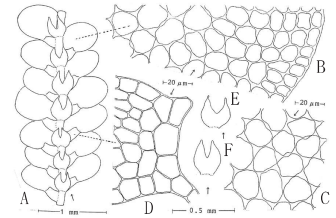
【現況・減少要因】 今回の調査で、滝原宮は入山不可で、他2箇所とも確認できていない。今後とも詳細な調査が必要である。

【保護対策】 生育地は共に宮域林に属するため人為的圧は低いが、継続的な生育状況の把握が必要である。

【文献】 77, 105.

（山田耕作・山本誠二）

（写真：大紀町，1963年，山田（2005）より）



A 茎の一部（腹面）、B 葉縁部の細胞、C 葉の中央部細胞、D 葉下片の先端部、E 下腹葉

三重県 2025

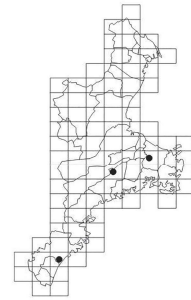
CR+EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—



カネマルムチゴケ

苔類 ムチゴケ科

Bazzania ovistipula (Steph.) Abeyw.

【選定理由】 既知の生育地点数は1であり、三重県が本種の北限地である。

【種概要】 茎は長さ30 mm、緑褐色。葉は長楕円形で葉先は2~3裂する。細胞壁は薄く、トリゴン（角隅）は大きい。腹葉はほぼ円形、茎に離れてついて全縁。細胞壁は厚い。腹側から鞭枝が出る。岩上、腐植土上、地上に生える。

【分布】 インド、ヒマラヤ、中国に分布。国内では、鹿児島（屋久島）、熊本（市房山）、奈良（大峯山）、三重（御在所山）の各県から知られている。

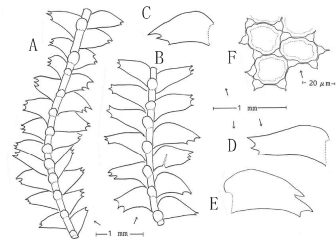
【現況・減少要因】 現況は確認できていない。

【保護対策】 御在所山登山道の一つである中道コースで、標高900 mから山頂への登山道周辺では蘚苔類の環境保全が必要である。

【文献】 104, 108, 110.

（山田耕作・森田奈菜）

（写真：菰野町，1969年，（山田 No. 10928より））



A, B 茎の一部（腹面）、C~E 葉、F 葉の中央部細胞

三重県 2025

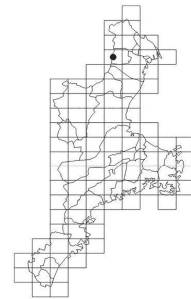
CR+EN

三重県 2015

CR

環境省 2020

VU



トガリスギバゴケ

苔類 ムチゴケ科

Kurzia gonyotricha (Sande Lac.) Grolle

【選定理由】 生育地の紀北町（魚飛溪）は、三重県が本種の北限地となっている。

【種概要】 植物体は緑色で、数mm程度と極微小。葉は基部まで3から4裂し、裂片は1細胞列で先は鋭く尖る。裂片の基部は45°の角度で折れ曲がる。腹葉はさらに小さく2裂する。花被の口部に長い繊毛が出る。雌雄異株。

【分布】 東南アジアの熱帯地域に分布。国内では、琉球、九州（屋久島や宮崎県）を経て三重県に分布している。国内でも数箇所の報告しかなく、県内では紀北町の魚飛溪で記録されている。

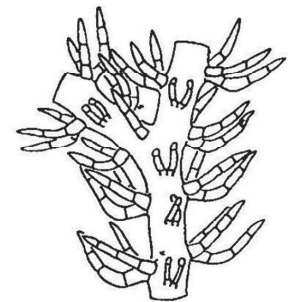
【現況・減少要因】 植物体が小さく、野外での確認も困難であるが、さらなる詳細な調査が必要である。

【保護対策】 川口三好次が1963年1月7日、魚飛溪（旧海山町）の岩上で採集（川口458、服部植物研究所蔵）。

【文献】 75, 76.

（山田耕作・土永浩史）

（写真：Mizutani（1974）, J. Hattori Bot. Lab. (38)より）



三重県 2025

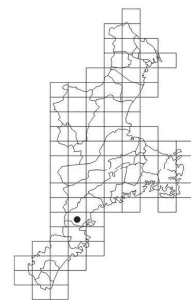
CR+EN

三重県 2015

CR

環境省 2020

—



- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- 維管束植物
- 蘚苔類
- 藻類
- キノコ
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

マルバソコマメゴケ
Heteroscyphus tener (Steph.) Schiffn.

苔類 ウロコゴケ科

【選定理由】既知の生育地点数は5以下である。環境の悪化で消滅のおそれがある。

【種概要】茎は緑褐色、長さ30 mm。葉は広卵形で先端は丸く、背縁の基部は腹葉と連結する。腹葉は大きく幅は茎の約5倍で、円形、先端部は4分の1から5分の1まで2裂し、両側に2~3歯がでる。本種はやや高地の湿潤な森林内の樹幹上や、まれに岩上に生える。

【分布】東アジア、ヒマラヤからセイロンに分布。国内では、琉球諸島から紀伊半島を経て群馬県の谷川岳（北限地）以南に分布するが生育地は極めて少ない。

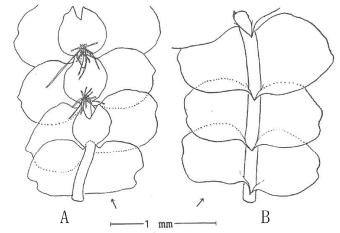
【現況・減少要因】現況は確認できていない。

【保護対策】生育地一帯の環境保全が必要である。

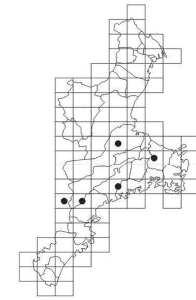
【文献】61, 68, 108.

(山田耕作・森田奈菜)

(写真：伊勢市，1951年，(孫福 No. 1968より))



A 茎の一部(腹面), B 茎の一部(背面)



三重県 2025
CR+EN
三重県 2015
CR
環境省 2020
—

シャンハイハネゴケ
Plagiochila shangaica Steph.

苔類 ハネゴケ科

【選定理由】既知の生育地点数は1である。自然災害による生育地の環境悪化を懸念する。

【種概要】茎は30~70 mm。葉は長卵形で細長く、葉先は舌状。葉縁は歯を欠いている。

【分布】中国の上海から隔離分布して、国内では、山口県（厚狭郡荒滝山）、三重県（尾鷲市南谷）の2箇所から知られている。

【現況・減少要因】現況は確認できていない。

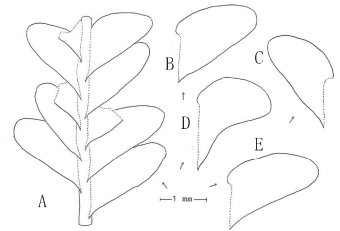
【保護対策】生育地一帯の詳細な調査が急務であり、同時に周辺の環境保全に努める。

【特記事項】本種は尾鷲市の南谷での高木典雄博士（名古屋大学）によって採集された（1951年6月29日，高木典雄No. 10842NUM・服部植物研究所NICH・山田耕作蔵）。

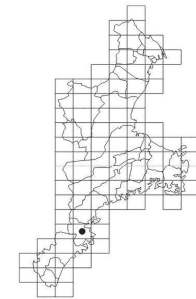
【文献】78, 108.

(山田耕作)

(写真：尾鷲市，1951年，(高木 No. 10842より))



A 茎の一部(側面), B~E 葉



三重県 2025
CR+EN
三重県 2015
CR
環境省 2020
CR+EN

エゾヒメヤバネゴケ
Hygrobiella laxifolia (Hook.) Spruce

苔類 カサナリゴケ科

【選定理由】県内における既知の生育地点は2箇所である。

【種概要】20 mm以下の小形種で、葉は卵形から卵披針形で4分の1から3分の1まで2裂する。腹葉は葉に似るが小さい。地上に生える。科の所属については文献(32)を参照。

【分布】北半球の冷温帯地域に分布。国内では、熊本県（市房山）、鳥取県（大山）、石川県（白山）、山形県（朝日岳）、宮城県（温湯）の亜高山から高山地帯に知られている。県内では、1963年に津市美杉町の川上八幡宮、ならびに2023年に伊勢市内宮神域から見つかっている。

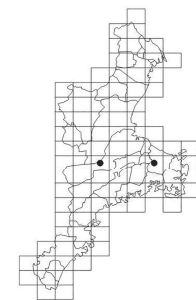
【現況・減少要因】津市の産地は未確認だが、今回新たに内宮神域において小さな沢沿いの湿ったスギの朽木上で生育を確認した。

【保護対策】川上八幡宮では、他にチチブイチョウゴケ（三重県RDBのI類(CR+EN)）が記録されており、神社境内の保全に努める必要がある。また、内宮神域ではスギの腐朽倒木上に生育しており、永続的な生育基物ではないため今後の観察が必要である。

【文献】61, 67, 87.

(山田耕作・秋山弘之)

(写真：伊勢市，2023年)



三重県 2025
CR+EN
三重県 2015
CR
環境省 2020
—

チチブイチョウゴケ

苔類 チチブイチョウゴケ科

Acrobolbus ciliatus (Mitt.) Schiffn.

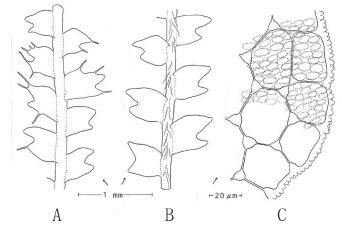
- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- 維管束植物
- 苔藓類
- 藻類
- キノコ
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

【選定理由】生育地は数箇所、生育環境の悪化で消滅のおそれがある。
 【種概要】植物体はやや色褪せた緑色で、長さ10~15 mmほど。葉は方形で離在し、2分の1まで2裂し、裂片は三角形で脆い。葉縁はやや波状となり、不規則に長毛を出す。腹葉は痕跡的である。細胞壁は薄く、トリゴン（角隅）は発達し、表面は微小突起がある。雌雄異株。湿岩上や他の蘚苔類に混生する。
 【分布】東アジア、ヒマラヤ、北米東部などに分布。国内では秩父山地以南から九州に分布するが、生育地は極めて少ない。県内では津市美杉町（川上八幡宮）、松阪市飯高町（蓮）、大台町（大杉谷）から知られている。
 【現況・減少要因】上記川上八幡宮では消滅したものと思われる。災害による樹木の倒壊で生育環境が悪化したのが原因とみられる。
 【保護対策】生育地を含む森林環境の保全が大切である。
 【特記事項】古い時代の遺存種とみられ、成因的に貴重な種である。国内では雄株のみ知られる。

【文献】61, 68.

(山田耕作・土永浩史)

(写真：津市，1967年，（孫福 No. 5116）)



A 茎の一部（背面）、B 茎の一部（腹面）、C 葉緑部の細胞

三重県 2025

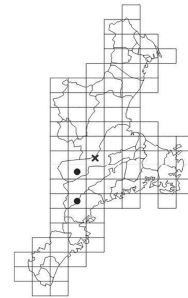
CR+EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU



サイシュウホラゴケモドキ

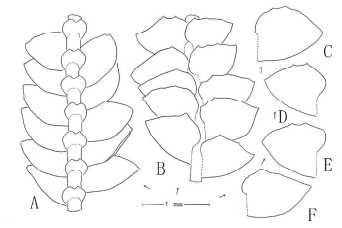
苔類 ツキヌキゴケ科

Eocalypogeia quelpaertensis (S.Hatt. & Inoue) R.M.Schust.

【選定理由】既知の生育地点数は2である。山林の伐採等で消滅するおそれがある。
 【種概要】茎は30 mm、濃い緑褐色。葉は卵形で背縁に鋸歯（1~4）を生じる。葉先は鈍頭、細胞壁は薄く、トリゴン（角隅）は小さい。油体は1細胞に4~15個、楕円形で微粒子からなる。腹葉は円形で基部は湾入する。
 【分布】韓国（済州島）に分布。国内では、山口、鹿児島（屋久島）、和歌山、三重の各県から知られている。県内では、尾鷲市の賀田、三木里一帯に分布する。
 【現況・減少要因】最初に採集した1968年以降、生育地の環境は悪化し、産量は激減した。山林の放棄により山林内の気候に悪影響が出始めている。
 【保護対策】生育地一帯の山林の環境保全に努める。
 【文献】61, 102, 108.

(山田耕作)

(写真：尾鷲市，1968年，（山田 No. 8520より）)



A 茎の一部（腹面）、B 茎の一部（背面）、C~F 葉

三重県 2025

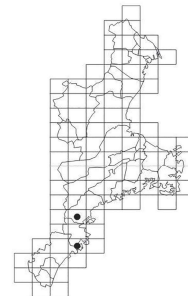
CR+EN

三重県 2015

CR

環境省 2020

VU



マルバツボミゴケ

苔類 ツボミゴケ科

Jungermannia cyclops S.Hatt.

【選定理由】既知の生育地点数は1である。生育環境の悪化で絶滅するおそれがある。
 【種概要】茎は黒味を帯びた緑色、長さ10~30 mm。葉はほぼ円形、基部は両端とも長く流れる。葉の細胞壁は薄く、トリゴン（角隅）は発達する。雌雄異株。裸地の地上に生える。
 【分布】日本固有種。九州（屋久島）から奈良県（大台ヶ原山）、三重県（御在所山）を経て秋田県（朝日岳）に知られている。県内では御在所山の頂上のみ分布する。
 【現況・減少要因】御在所山山頂の登山道に沿った裸地で点々と見られたが、発見当時に比べて激減した。人為的圧（踏圧）が強く影響しているものと思われる。
 【保護対策】登山道以外の立ち入りを規制する。
 【文献】61, 104, 108.

(山田耕作)

(写真：菰野町，1989年，寺尾恭平採集，森田三重県総合博物館蔵)



三重県 2025

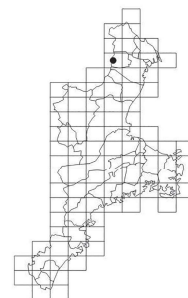
CR+EN

三重県 2015

CR

環境省 2020

—



哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
藓苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ヤクシマミゾゴケ

苔類 ミゾゴケ科

Marsupella yakushimensis (Horik.) S.Hatt.

【選定理由】生育地は2箇所であるが、生育環境の悪化が進むと消滅の危険性がある。

【種概要】植物体は褐緑色で、長さ30~50 mmと同属内ではやや大きい。葉は広く開出し、広卵形から円形、2分の1まで2裂し、裂片は三角形、縁は波打ちする。葉の先端は鋭く尖り、細胞壁は厚く、トリゴン（角隅）はない。雌雄異株。岩壁に藓類と混生する。

【分布】中国、朝鮮半島に分布。国内では、九州（鹿児島県、大分県）、四国（愛媛県）から奈良県（大台・大峰山地）で、県内では三重郡菰野町（御在所山）、松阪市飯高町（宮ノ谷）に記録されている。

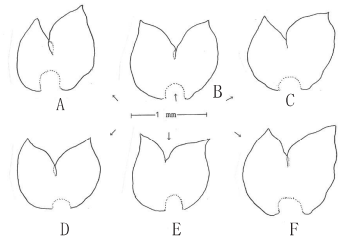
【現況・減少要因】御在所山の山頂一帯の断崖壁面に藓類と混生していたが、個体数はかなり減少した。原因は不明。

【保護対策】特に御在所山の山頂では、登山道から踏み外して林内への立ち入りを規制する必要がある。

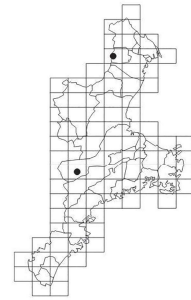
【文献】61, 104.

（山田耕作・土永浩史）

（写真：菰野町，1971年，（山田 No. 10988より））



A~F 葉



三重県 2025

CR+EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

キノボリツノゴケ

ツノゴケ類 キノボリツノゴケ科

Dendroceros japonicus Steph.

【選定理由】産地は限定され、極めて少ない。樹幹に密着し、見つけにくい。高湿度の環境が維持されないと消滅のおそれがある。

【種概要】植物体は黒緑色の葉状体で長さ20~30 mm。葉縁は単細胞層で著しく波打ちする。翼部の葉の細胞壁は薄く、トリゴン（角隅）は肥厚しないで穿孔があり、各細胞内に1個の大きな葉緑体を含む。中肋部は多細胞層からなり厚く明瞭。胞子は多細胞性である。雌雄同株。樹幹に生える。

【分布】台湾に分布。国内では、琉球から九州、四国、本州（和歌山、奈良、三重、愛知、静岡、千葉）の各県に分布するが生育地は極めて少ない。県内では、津市美杉町（三重大演習林）、大台町（大杉谷）、伊勢市（内宮）、尾鷲市（矢ノ川峠）から知られている。

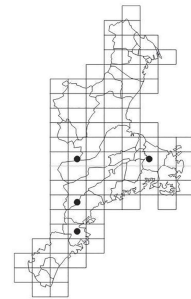
【現況・減少要因】他県では岩上に着生しているのを見たが、通常は溪流沿いの樹幹に生育し、生育環境の維持が重要である。

【保護対策】森林伐採等による乾燥化を避けなければならない。

【文献】55, 71.

（山田耕作・土永浩史）

（写真：和歌山県，2019年）



三重県 2025

CR+EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

CR+EN

クロゴケ

藓類 クロゴケ科

Andreaea rupestris var. *fauriei* (Besch.) Takaki

【選定理由】県内での生育地点は2箇所。生育地は自然ならびに人為的圧を受けやすい。

【種概要】茎は長さ10~20 mm、黒褐色から褐色。葉は卵状から長楕円形で、中央部はややくびれ頂端は鈍頭。中肋はない。成熟した蒴は4裂するが裂片の頂端は離れない。雌雄異株。裸地の岩上や岩壁の壁面に生える高山藓の一種である。

【分布】台湾、朝鮮半島から知られる。国内では、北海道から本州、四国、九州の高山帯にかけて分布する。県内では、菰野町（御在所山）と大台町（大台ヶ原・大杉谷）の記録しかない。

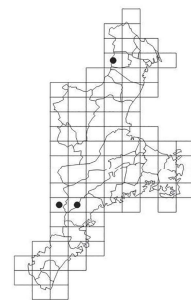
【現況・減少要因】御在所山では以前に比べ個体数はさらに減少した。大台ヶ原・大杉谷については確認できた。

【保護対策】御在所山では岩塊上並びに断崖の壁面に着生する藓苔類の保護が必要である。むやみに生育する岩壁に近づかないように対策を講じる。

【文献】49, 51, 70, 99.

（山田耕作・寺尾恭平・秋山弘之）

（写真：菰野町，2023年）



三重県 2025

VU

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

チャボスギゴケ

Pogonatum otaruense Besch.

蘚類 スギゴケ科

【選定理由】既知の生育地点は5箇所である。人為による影響を受けるおそれがある。

【種概要】茎は褐緑色、長さ10~40 mm、枝分れしない。葉の基部は広い卵形、葉先に向かうにつれ披針形。葉先は尖り葉縁には歯がでる。葉のラメラ（薄板）の頂端細胞は常に二叉になるので他種と識別できる。雌雄異株。地上に生える。

【分布】日本固有種。北海道、本州、四国、九州にかけて広く分布するが、生育地は少ない。県内では、桑名市（多度山）、大台町（大杉谷、大日嵩）、大紀町（米ヶ谷）、紀北町（木津）、尾鷲市（九木神社）から知られている。

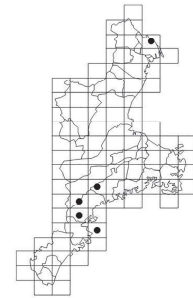
【現況・減少要因】いずれの産地についても現況は未確認で、生育状況の把握が必要である。

【保護対策】本種は林道の法面や崖面などで見られるため、林道の拡張工事の際には注意と事前調査が必要である。

【文献】49, 57, 70, 100.

(山田耕作・寺尾恭平・秋山弘之)

(写真：神奈川県，2009年，平岡正三郎撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

カシミールクマノゴケ

Diphyscium kashmirensis (H.Rob.) Magombo

蘚類 イクビゴケ科

【選定理由】三重県新産で、生育地が限られた渓流域にあるため、新たな選定種に加えた。

【種概要】類似のクマノゴケよりも小型で、中肋の両側の葉身部は葉の全体に及ぶ。葉は乾くと強く巻縮し、中肋の背面には線形で透明な細胞が葉の先端近くまで並んでいる。渓流域からやや乾燥気味の岩上に生える。

【分布】インド亜大陸北西部のカシミール地方に分布。国内では、福島県東部から鹿児島県屋久島にかけての主に太平洋岸沿いに分布。最近では兵庫県と岡山県でも生育が報告された。県内では、熊野市（育生町、井戸町）、大台町、御浜町、紀宝町で生育が確認できた。

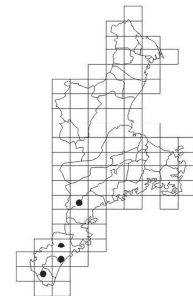
【現況・減少要因】いずれの地点でも小さいマット状で、個体数は少ない。

【保護対策】渓流沿いの林道改修には、事前調査が必要である。

【文献】12, 21.

(山本誠二)

(写真：熊野市，2022年)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

VU

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

オオミゴケ

Drummondia sinensis Müll.Hal.

蘚類 オオミゴケ科

【選定理由】既知の生育地点は5箇所以下。樹幹上に着生するため生育環境の悪化で消滅するおそれがある。

【種概要】植物体は黒みの強い緑色。一次茎は基物上を這い、多くの仮根をつけ、長さ10 mm程度の短い枝（二次茎）を密に上方に出す。葉は縮れず楕円形から披針形、葉先は尖る。葉細胞壁は厚い。中肋は葉先近くまで伸びる。樹幹（まれに岩上）に生える。蘚帽は僧帽状で大きく無毛、基部は裂けることがない。胞子は蒴の中で発芽し多細胞となる。

【分布】中国、東ロシアに分布。国内では九州から四国、本州に分布するが、ややまれ。時に郊外の街路樹上に生育することが知られている。県内では津市美杉町（三重大演習林一川上）、松阪市飯高町（宮ノ谷）、伊勢市（外宮）から知られている。

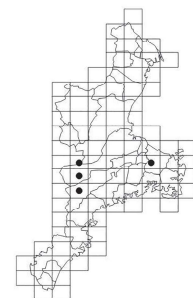
【現況・減少要因】いずれの産地でも生育を確認できていない。

【保護対策】生育地一帯の間伐、伐採に配慮が必要である。

【文献】49, 70, 94.

(山田耕作・寺尾恭平・秋山弘之)

(写真：兵庫県，2020年)



三重県 2025

VU

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ヤマトハクチョウゴケ

蘚類 ギボウシゴケ科

Campylostelium brachycarpum (Nog.) Z.Iwats., Y.Tateishi & Tad.Suzuki

【選定理由】国内でも稀少で、県内では1箇所限定されることから、新たな選定種に加えた。

【種概要】植物体は極めて小さく高さ1~2mm。葉は線形で長さ1~1.5mm、葉縁は平坦で全縁。中肋は葉頂に達する。葉細胞は方形、厚膜で平滑。蒴柄は繊細で白鳥の首のように湾曲する。蒴歯は赤褐色で線形。同属で近縁なハクチョウゴケ*Campylostelium saxicola*との区別点として、蒴歯が単一で二裂せず、それぞれの蒴歯の間隔が広く空いている。

【分布】北米東部に分布。国内では本州から九州に分布する。県内では尾鷲市(矢ノ川峠南谷)から知られる。

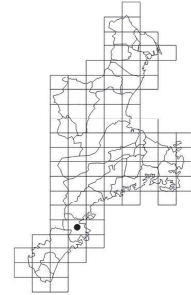
【現況・減少要因】やや湿った火山性の転石上に散生する。木口他(2006)による報告以後、現状は未確認。開発等による生育地の消失が考えられる。

【保護対策】生育環境の保全が必要である。

【文献】38, 40, 57, 97.

(秋山弘之)

(写真: 神奈川県, 2011年, 平岡正三郎撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

VU

ハナシキヌシツポゴケ

蘚類 キヌシツポゴケ科

Seligeria donniana (Sm.) Müll.Hal.

【選定理由】国内の石灰岩地に隔離的に分布し、県内では産地が極めて限定されることから選定種に加えた。

【種概要】植物体は極めて微小で、高さ1mm程度。短い立ち上がる茎に葉がらせん状につき、中肋は断面で3層。葉の鞘部の縁に小さいが明瞭な鋸歯が見られ、蒴歯を持たず、胞子の大きさは直径10~12µmであることなどで、同属の他種から区別される。

【分布】シベリア、中央アジア、ヨーロッパ、北米に分布。国内では本州(岩手、福島、埼玉、福井、長野、滋賀、徳島)から知られる。県内では松阪市飯高町蓮川上流部(宮ノ谷出合とヌタハラ谷)の2箇所の石灰岩露頭で見つっている。

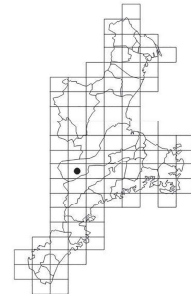
【現況・減少要因】木口他(2006)による報告以後、現状は未確認。生育地の地形が不安定であるため自然災害等により容易に失われる可能性がある。

【保護対策】生育環境の保全が必要である。

【文献】57, 89, 91.

(秋山弘之)

(写真: 松阪市, 2006年, 立石幸敏採集, 広島大学蔵)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

VU

ホソバリハウオウゴケ

蘚類 ホウオウゴケ科

Fissidens bryoides Hedw. var. *ramosissimus* Thér.

【選定理由】既知の生育地点数は8である。自然災害により生育環境が悪化し消滅するおそれがある。

【種概要】茎は数mm~6mm程度と微小、葉は2~9対、葉は狭披針形、葉先は鋭尖、1~2層の舷で縁どられる。中肋は葉先の手前で終わる。背翼の上部には縁に弱い歯がある。雌花序は茎の先端につく。雌雄同株。湿土上に生える。

【分布】中国、台湾に分布。国内では、琉球から九州、四国、本州、伊豆七島を経て北海道まで分布するが産地は少ない。県内では、いなべ市(員弁町)、桑名市(多度神社)、津市美杉町(三重大演習林)、松阪市(辻原)、伊勢市(伊勢神宮)、鳥羽市(堅神)、志摩市(磯部町)、御浜町(阿田和)から知られている。

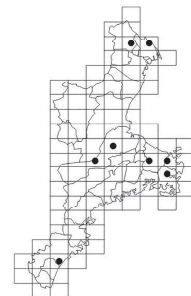
【現況・減少要因】生育地点を精査したが確認できなかった。

【保護対策】生育地一帯の保全が必要である。

【文献】49, 70, 94.

(山田耕作・寺尾恭平・山本誠二)

(写真: 和歌山県, 1973年, 太田耕二郎採集, 土永浩史撮影, 南方熊楠顕彰館蔵)



三重県 2025

VU

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

キュウシュウホウオウゴケ

蘚類 ホウオウゴケ科

Fissidens closteri Austin subsp. *kiusiuensis* (Sakurai) Z.Iwats.

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下。植物体が非常に微小であるため周りの微気候に影響を受けやすく消滅する危険性がある。

【種概要】 茎は微小、長さは1.5 mm以下。茎は殆どなく、葉は1~4対つけるのみ。葉の基部は卵形、先に向かって披針形、舷はない。中肋は葉先に達しない。雌雄同株。山地の林内の岩上や地上に生える。

【分布】 小笠原、琉球から九州、四国、本州に分布するがまれ。県内では、松阪市飯高町（ハラ谷）、伊勢市（内宮）、大紀町（滝原宮）、紀北町（船津）、尾鷲市（九鬼）、熊野市（大馬神社）の低地（20~430 m）に分布する。

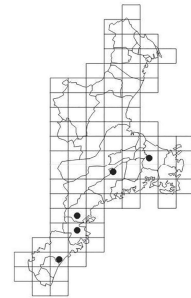
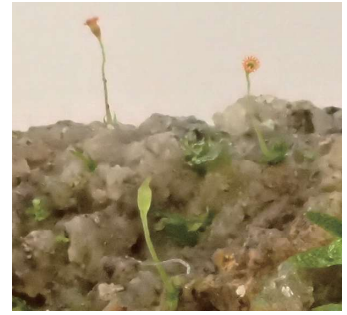
【現況・減少要因】 伊勢市五十鈴川上流でも新たに見つかったが、植物体が大変微小であるため、見出しして採集するのは極めて難しく、現況の把握も時間がかかる。

【保護対策】 生育地全体の環境保全が必要である。

【文献】 57, 70.

(山田耕作・寺尾恭平・山本誠二)

(写真：和歌山県，2024年)



三重県 2025

VU

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

アオシマヒメシワゴケ

蘚類 ヒナノハイゴケ科

Erpodium glaucum (Wilson) I.G.Stone var. *trichophyllum* (Angstr.) I.G.Stone

【選定理由】 国内でも稀少種であり、県内でも2箇所のみから知られていることから選定種に加えた。

【種概要】 植物体は樹皮上を匍って立ち上がらない。葉は扁平につくが、枝につく位置によって多少形が異なる。背中側の葉は卵形非相称で長さ0.5~1.0 mm、腹側の葉はより細く長さ0.5~0.7 mm。葉先は一個の大型細胞から成り立ち透明尖となる。葉細胞には中央に集まるペピラが見られる。広く分布する普通種のヒメシワゴケに似るが、植物体がやや明るい緑色であり、葉先が透明尖となって白く尖る点が異なっている。以前は*Aulacopilum*属とされたが、この属は*Erpodium*属の異名とされた。

【分布】 アフリカに分布。国内では九州・四国・本州に見られ、県内では紀北町（旧海山町島勝神社）、尾鷲市（尾鷲神社）の2箇所から報告されている。

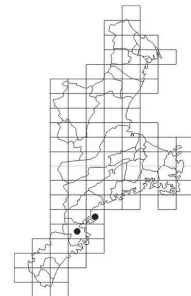
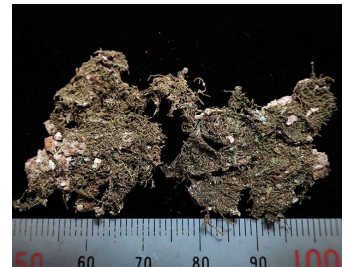
【現況・減少要因】 尾鷲市では境内トチノキ樹幹に薄い群落をつくって着生している。紀北町の現状は未確認である。

【保護対策】 生育している樹木の保全、特に樹皮の剥落を防止する必要がある。

【文献】 20, 70.

(秋山弘之)

(写真：尾鷲市，2004年，立石幸敏採集，広島大学蔵)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

VU

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

タカネカモジゴケ

蘚類 シッコゴケ科

Dicranum viride (Sull. et Lesq.) Lindb. var. *hakkodense* (Cardot) Takaki

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下。自然災害、森林伐採などによる環境の悪化で消滅するおそれがある。

【種概要】 茎は短く、長さは20 mmほど、黄緑色。葉はもろく折れやすい。基部は卵形、先に向かって狭披針形、縁は緩く内曲し、刃先は細長く尖る。中肋は幅が広いが基部幅の3分の1以下、葉先から芒状に長く突きでる。高地の樹幹基部や岩上に生える。

【分布】 母種は北半球に広く分布するが、本種は九州から、四国、本州を経て北海道の高山に分布する。県内では、いなべ市（藤原岳）、菰野町（御在所山、羽鳥峰峠）、津市美杉町（三重大演習林）、伊賀市（奥山権現）の山地帯に分布する。

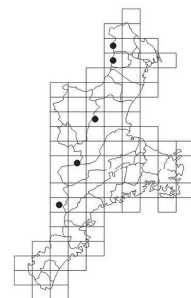
【現況・減少要因】 すべての生育地を確認できていないが、生育地は複数地点あり、安定した生育地もあるため、ランクをENからVUに1つ下げた。

【保護対策】 事前調査と環境保全が必要である。

【文献】 50, 52, 70, 94, 99, 108.

(山田耕作・寺尾恭平・森田奈菜)

(写真：菰野町，1969年，寺尾恭平採集，三重県総合博物館蔵)



三重県 2025

VU

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
藓苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

マツバゴケ

藓類 シッポゴケ科

Leucoloma molle (Müll.Hal.) Mitt.

【選定理由】既知の生育地点数は1であり、自然災害による環境の悪化で消滅するおそれがある。

【種概要】茎は長さ50~60 mm, 淡緑色。葉はもろく披針形, 葉先に向かって細く針状となり尖る。葉縁には数列の透明細胞からなる舷がある。中肋は細く葉先から少し突き出る。中肋沿いの細胞には全面にペピラが見られる。

【分布】熱帯アジアから中国, フィリピン, 台湾に分布。国内では, 琉球, 九州, 四国, 本州(中部地方以西)に分布するが, 生育地はごくまれである。県内では, 紀宝町から知られていたが, 今回新たに熊野市(井戸町)で生育を確認できた。

【現況・減少要因】詳しい生育地が特定できないため未確認のままである。

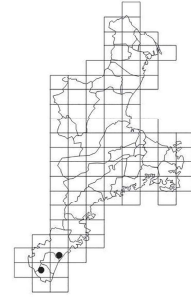
【保護対策】現況の把握が急務である。

【特記事項】証拠標本(Dec. 28, 1962. 樋口雄一 605. 三重県立熊野古道センター資料庫蔵)のラベルには, 産地の紀宝町と記述されているだけである。

【文献】100.

(山田耕作・山本誠二)

(写真: 紀宝町, 2022年)



三重県 2025

VU

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

イボマツバゴケ

藓類 シッポゴケ科

Leucoloma okamurae Broth.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり, 生育環境の悪化で消滅のおそれがある。

【種概要】茎は長さ20 mm以下で小形, 淡緑色。葉は密生して脱落せず, 葉先は細くなって尖る。葉の背面に星型の乳頭が並ぶ。樹幹や朽木に生える。

【分布】中国に分布。国内では, 九州を経て本州の中部地方以西に分布するが生育地は少ない。県内では, 大台町(大杉谷光滝), 伊勢市(剣峠), 大宮町(滝原宮), 熊野市(有井), 紀宝町から知られていた。

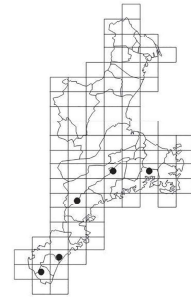
【現況・減少要因】大台町大杉谷で生育を確認した。他の生育地については未確認である。

【保護対策】樹幹や朽木に着生するため, 生育地の保全に努める。

【文献】49, 70, 100.

(山田耕作・寺尾恭平・山本誠二)

(写真: 紀宝町, 2022年)



三重県 2025

VU

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

イワマセンボンゴケ

藓類 センボンゴケ科

Scopelophila ligulata (Spruce) Spruce

【選定理由】既知の生育地点は3箇所である。人為的圧による生育環境の悪化で消滅のおそれがある。

【種概要】茎は黄緑色から褐色, 長さ20~30 mm。葉は広い舌形, 葉先は丸いか鈍頭。葉縁には歯がないが黄色味を帯びた数列の厚壁の細胞で縁どられる。乾くと弱く巻縮する。中肋は葉先の下までしか伸びない。銅などの鉱物を含む岩上や土上を好む。

【分布】世界中に分布。国内では, 九州, 四国, 本州の関東地方以西に分布する。県内では, いなべ市(多志田峡)と伊賀市(山畑), 松阪市(江馬小屋谷)の3箇所から知られている。

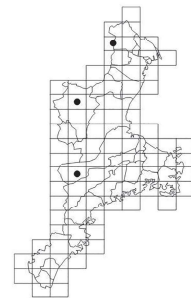
【現況・減少要因】既知の多志田峡, 山畑での現状は未確認である。江馬小屋谷では林道沿いの湿った岩壁において数箇所で大きな群落があり旺盛な生育が確認された。

【保護対策】生育地一帯の保全の強化に努める。

【文献】51, 57, 70.

(山田耕作・寺尾恭平・秋山弘之)

(写真: 松阪市, 2023年)



三重県 2025

VU

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

コチョウチンゴケ

蘚類 チョウチンゴケ科

Mnium heterophyllum (Hook.) Schwägr.

【選定理由】 既知の生育地点数は10以下。低地の山間部に生えるため人為圧の影響が大きい。

【種概要】 茎は青緑色。長さは10~20 mm。葉は一般に少なく、卵状披針形で、葉先は鋭尖。葉縁に1~2細胞列の舷があり歯（単性と双性）がでる。中肋は葉先まで達しない。雌雄異株。

【分布】 ヨーロッパ、ヒマラヤ、中国、台湾に分布。国内では、九州から北海道まで分布する。県内では、いなべ市（藤原岳）、伊賀市（大山田、伊賀町）名張市（赤目溪谷）、大台町（大杉谷）、松阪市（蓮）、伊勢市（伊勢神宮）、南伊勢町、紀勢町、尾鷲市（古和谷）の各地に点々と分布しているが、石灰岩上でも見つかっている。

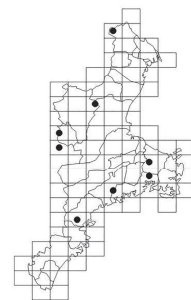
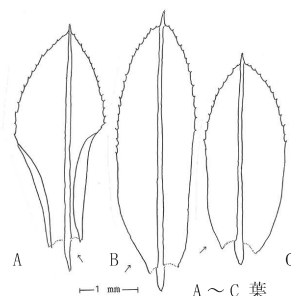
【現況・減少要因】 確認された当時と比べて、どの地域も開発のため生育環境が悪化しており、すでに消滅した所もある。

【保護対策】 里山を含めた森林の保全に努める。

【文献】 50, 57, 70, 108.

(山田耕作・寺尾恭平)

(写真：いなべ市、(菌山 No. 3120より))



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

ハットリチョウチンゴケ

蘚類 チョウチンゴケ科

Rhizomnium hattorii T.J.Kop.

【選定理由】 既知の生育地点数は7であるが、生育環境の悪化で消滅するおそれがある。

【種概要】 茎は赤みを帯びた緑色、長さは10~20 mm。葉は広倒卵形、葉先は丸い。葉の縁には濃赤色から褐色の舷がある。中肋は葉先に届かない。雌雄異株。山地帯の岩上（まれに朽木上）に生える。

【分布】 日本固有種。九州、四国、本州の山地帯に分布するが、県内では、いなべ市（藤原岳、宇賀溪）、菰野町（御在所山）、津市美杉町（三重大演習林）、松阪市飯高町（宮ノ谷）、大台町（大杉谷）、尾鷲市（矢ノ川峠）から知られている。

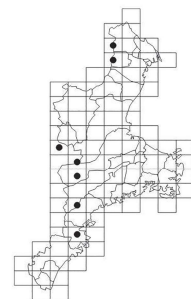
【現況・減少要因】 各生育地とも未確認。どの地域も環境が悪化しており、消滅あるいは減少が考えられる。

【保護対策】 生育状況の把握が急務である。

【文献】 57, 70, 108.

(山田耕作・寺尾恭平)

(写真：津市、1963年、高木典雄採集、森田奈菜撮影、三重県総合博物館蔵)



三重県 2025

VU

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

キサゴゴケ

蘚類 キブネゴケ科

Hypnodontopsis apiculata Z.Iwats. & Nog.

【選定理由】 既知の生育地点数は7である。樹幹上に生えるため林内の環境に影響を受けやすい。

【種概要】 茎は濃緑色、非常に小さく2~3 mmで、殆ど枝分かれしない。葉は舌形からへら状で葉先は尖り、葉縁は全辺。細胞壁は厚く、表面に3~5個の乳頭を生じ、中肋は葉先まで達する。樹幹（主に樹皮の割れ目）に生える。雌雄同株。葉の表面にまれに無性芽が見られる。いずれの場所でも孢子体は見つかっていない。

【分布】 日本固有種。九州から本州の中部地方以西（静岡県）に分布する。県内では、四日市市（西日野町）、松阪市（下村町、花岡神社）、飯高町（宮前、赤桶）、多気町（佐奈）、伊勢市（外宮）に分布する。

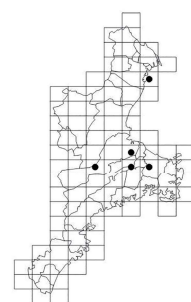
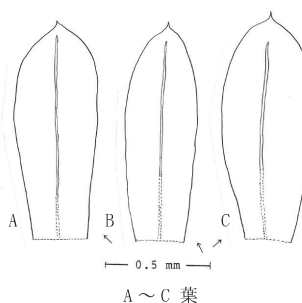
【現況・減少要因】 松阪市（下村町）では着生樹木の倒壊で消滅した。新たに松阪市花岡神社で確認されたが、それ以外の産地の現状は不明である。

【保護対策】 生育状況の把握が必要である。

【文献】 57, 70.

(山田耕作・秋山弘之)

(写真：松阪市、(孫福 No. 16236より))



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

CR+EN

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
藓苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

キダチクジャクゴケ

藓類 クジャクゴケ科

Dendrocyathophorum decolyi (Broth. ex M.Fleisch.) Kruijer

【選定理由】既知の生育地点は6箇所。人為的圧による生育環境の悪化で消滅するおそれがある。

【種概要】二次茎は長さが20~30 mm, 不規則に分枝, 側葉と腹葉に分化する。側葉は非相称な卵形, 葉先は細くなり尖り, 縁にははっきりしない筋がある。中肋は葉長の3分の1まで伸びる。腹葉は小さく, 卵形で先は細く尖り, 中肋は短い。雌雄異株。

【分布】広く東南アジアに分布。国内では, 九州, 四国を経て静岡県の伊豆半島まで分布する。県内では, 伊勢市(伊勢神宮)以南に知られ, 南伊勢町(押淵), 尾鷲市(九鬼, 賀田), 熊野市(紀和町), 紀宝町から記録がある。

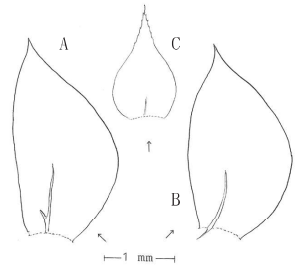
【現況・減少要因】いずれの産地も現在の状況は未確認。生育地周辺一帯の人為的圧による環境の悪化が原因と想定される。

【保護対策】大形の綺麗な藓類であるため目につきやすく採取される危険性がある。生育地全体の保全に努め, 立ち入り制限などを考える必要がある。

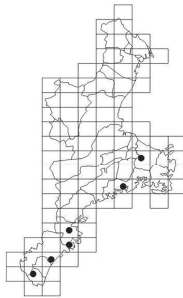
【文献】53, 70, 100.

(山田耕作・寺尾恭平・秋山弘之)

(写真:熊野市, 小出哲夫採集, (孫福 No.4186より))



A, B 側葉, C 腹葉



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

シナクジャクゴケ

藓類 クジャクゴケ科

Hypopterygium tamarisci (Sw.) Brid. ex Müll.Hal.

【選定理由】既知の生育地点数は6である。人為的圧による環境の悪化で消滅するおそれがある。

【種概要】二次茎は長さが20 mm, 下部より枝を分け, 中央部まで側葉と腹葉の分化が見られる。葉は卵形, 葉先は尖り, 縁には歯がでて, 中肋は葉長の3分の2まで達する。腹葉は, ほぼ円形で, 葉先は細く伸びて尖り, 中肋は3分の1で止まり短い。

【分布】全世界の熱帯地域から温帯地域にかけて分布。国内では, 琉球から屋久島, 九州の南端をかすめて, 本州の紀伊半島(和歌山県, 三重県)の沿岸地帯と小笠原に分布する。県内では, 伊勢市(伊勢神宮), 尾鷲市(九鬼, 賀田), 熊野市(有井, 紀和町), 紀宝町から知られている。

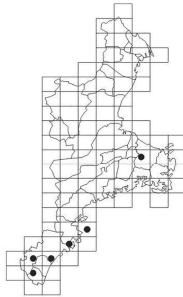
【現況・減少要因】前回と比べ伊勢神宮および九鬼では個体数が減った。原因は不明。熊野市や紀宝町は未確認である。

【保護対策】大形の綺麗な藓類であるため他種より目につきやすい可能性はある。生育地周辺の保全が必要である。

【文献】52, 53, 70.

(山田耕作・山本誠二)

(写真:尾鷲市, 1973年, 太田耕二郎採集, 土永浩史撮影, 南方熊楠顕彰館蔵)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

キリシマナギゴケ

藓類 アオギヌゴケ科

Eurhynchium kirishimense Takaki

【選定理由】本県から初めての報告であることから, 新たに選定種に加えた。

【種概要】植物体は小形で茎はほう。葉縁には細かい歯があり, 基部はほとんど下延しない。中肋は1本で葉長の3分の2以上に達し, 背面先端は1個の歯で終わる。茎葉は長さ1 mm以下。枝葉は卵状楕円形で先は針状に尖り, ねじれる。

【分布】中国に分布。国内では鹿児島県, 宮崎県, 兵庫県の標本が記録されている。

【現況・減少要因】伊勢市の神宮林域内で初めて採集された。付近には河川が流れ, 湿度が保たれる林内の岩壁に生育していた。

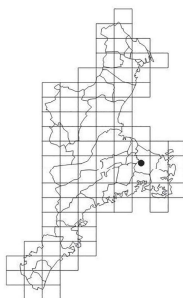
【保護対策】生育地一帯の詳細な調査が必要であり, 周辺環境の保全に努める必要がある。

【特記事項】証拠標本はAkiyama 28433 (HYO, 2023年11月11日採集)である。

【文献】33, 38, 84, 86, 92.

(秋山弘之・森田奈菜)

(写真:伊勢市, 2023年)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

—

シノブイトゴケ

蘚類 ハイヒモゴケ科

Floribundaria floribunda (Dozy & Molk.) M.Flsch.

【選定理由】生育地は現在限られているが、同科蘚類と同様の環境で生育が期待でき、VUとした。災害による環境の激変で減少するおそれは高い。

【種概要】植物体は緑色からやや褐色を帯び光沢がなく、灌木や岩上などから下垂する。よく分枝し。長さは10~15 cm。葉は狭披針形で、先は鋭尖、細胞の表面には2~5個の乳頭がある。中肋は葉の2分の1ほど。雌雄異株。

【分布】東南アジア、アフリカなどの亜熱帯から熱帯地域に広く分布。国内では、九州、四国から本州（三重県以西）にかけて分布するが、少ない。県内ではいなべ市（宇賀溪）、亀山市（野登山）、名張市（赤目溪谷）、松阪市（宮ノ谷、江馬小屋谷）、大台町（大杉谷）、尾鷲市（南谷）の記録がある。

【現況・減少要因】湿度の高い渓谷に見られるので、森林伐採による乾燥化で生育できない。

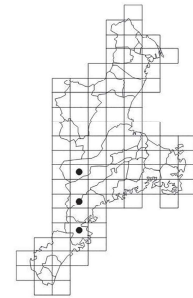
【保護対策】森林環境の維持が大切。さらなる調査が必要である。

【特記事項】同科蘚類の生育景観は高湿度環境の象徴である。

【文献】49, 57, 70, 82, 100.

(山田耕作・寺尾恭平・土永浩史)

(写真：いなべ市，寺尾恭平採集，森田奈菜撮影，三重県総合博物館蔵)



三重県 2025

VU

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

トサノタスキゴケ

蘚類 ハイヒモゴケ科

Pseudobarbella laosiensis (Broth. & Paris) Nog.

【選定理由】生育地は数ヶ所で、新たに選定種に加えた。これまで見逃されてきた可能性が高い。

【種概要】植物体は黄緑色で樹枝などから垂れ下がる糸状の形態をもつが、古くなると茶色を帯びる。茎や枝先の葉は丸くつけて紐状となり、他種が扁平につくのと異なる。葉は卵状の基部から毛状に尖り、上部の縁は波打ち、葉身細胞は線状で中央に1個のパピラがある。中肋は葉の半分ほどで終わる。雌雄異株。湿度の高い渓谷の灌木から下垂する生態をもつ。

【分布】ボルネオなど東南アジアから北上して分布。国内では琉球から近畿地方以西に見られ、県内では大台町（大杉谷）、紀北町（船津）、尾鷲市（小原野）、熊野市（備後川）などの紀伊半島が北東限にあたる。

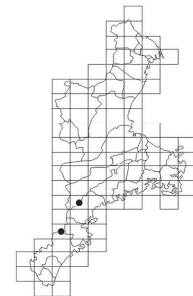
【現況・減少要因】渓谷など同様の環境に、他の下垂蘚類と見られるので、今後も詳細な調査が望まれる。林道工事や災害による森林の減少に伴う乾燥化が懸念される。

【保護対策】溪流沿いの高湿度環境を維持することが大切である。

【文献】70, 82.

(土永浩史)

(写真：熊野市，2023年)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

VU

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ヒロハシノブイトゴケ

蘚類 ハイヒモゴケ科

Trachycladiella aurea (Mitt.) M.Menzel

【選定理由】生育地は数箇所、新たに選定種に加えた。これまで見逃されてきた可能性が高い。

【種概要】植物体は黄色っぽく見え、古くなると褐色を帯び光沢がない。溪流沿いの樹枝や岩壁から数10 cm以上長く下垂し群生する。茎は不規則に分枝し、葉は扁平につく。枝葉は広卵形の下部から細長く糸状に尖り、葉縁には細かい歯がある。中肋は葉の中ほどで終わり、葉身細胞には多くのパピラが並び、全体に暗く見え、細胞の境は不明瞭。雌雄異株。湿度の高い渓谷の灌木などから垂れ下がる生態をもつ。

【分布】アジアの熱帯から亜熱帯に分布。国内では琉球から本州に見られ、県内では大台町（大杉谷）、尾鷲市、熊野市などから記録されているが産地は少ない。

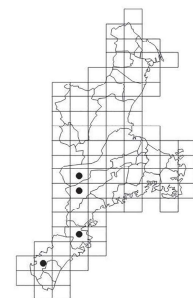
【現況・減少要因】群生する様子は、他の下垂性蘚類とともに独特の景観を生み出すが、渓谷の乾燥化により姿を消す可能性が高まる。

【保護対策】生育地の森林環境を維持するために、林道工事等による樹木伐採を極力控える。

【文献】70, 82.

(土永浩史)

(写真：和歌山県，2018年)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

VU

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
藓苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

キャラハラッコゴケ
Gollania taxiphyloides Ando & Higuchi

藓類 キヌゴケ科

【選定理由】石灰岩性の藓類で、国内ならびに県内での産地が限定されることから選定種に加えた。

【種概要】植物体は、キャラハゴケ属 *Taxiphyllum* の種に似た葉のつき方をするが、葉が少し鎌形に曲がり、圧着してやや2列に配列し、葉縁には細かい鋸歯があり、葉縁基部はほとんど外曲しないことが特徴である。

【分布】中国・台湾に分布。国内では本州（福島県以南）から九州（熊本県）の山地のやや湿った石灰岩上に生育する。県内では伊勢市（鷲嶺の水穴）、松阪市飯高町蓮（宮ノ谷合流部、ヌタハラ谷）で記録されている。

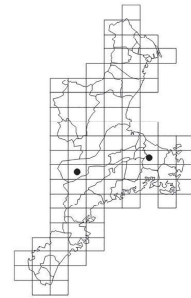
【現況・減少要因】木口他（2006）によると、やや湿った石灰岩の垂直岩壁面に生育。いずれの場所でも現状は未確認。開発や自然災害による生育地の崩壊が懸念される。

【保護対策】生育環境の保全が必要である。

【文献】17, 57, 96.

(秋山弘之)

(写真：長野県，2011年，平岡正三郎撮影)



三重県 2025
VU
三重県 2015
—
環境省 2020
—

シノブヒバゴケ
Hylocomiastrum himalayanum (Mitt.) Broth.

藓類 イワダレゴケ科

【選定理由】生育地は山地上部の数箇所であるが、適地には多く見られる。自然災害や森林伐採による環境の悪化で減少するおそれはある。

【種概要】植物体は緑褐色で、茎は斜上し階段状になる。長さ10 cmを超え不規則ながら羽状に分枝。茎葉はほぼ三角形で基部は下延、先は急に尖る。縁には細かな歯があり、葉身には深い縦皺が見られ、中肋は2本で短い。枝葉は茎葉に似るが小さい。茎には枝分かれした1~2細胞列の毛葉がある。岩上や腐植土上に群生する。

【分布】ヒマラヤ、台湾、朝鮮半島に分布。国内では、九州から北海道にかけての亜高山帯に分布する。県内では津市美杉町（三重大演習林）、松阪市飯高町（局ヶ岳、池木屋山）、大台町（大台ヶ原、大杉谷）の標高約1,000 mを超える森林で確認されている。

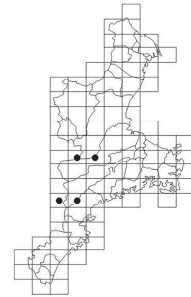
【現況・減少要因】林床に群生するので、生育していれば確認することができる。森林の攪乱により乾燥化が進むと生育できない。

【保護対策】山地帯の詳しい調査が急がれる。

【文献】24, 49, 70, 94.

(山田耕作・寺尾恭平・土永浩史)

(写真：大台町，2001年)



三重県 2025
VU
三重県 2015
EN
環境省 2020
—

ミヤマリュウビゴケ
Hylocomiastrum pyrenaicum (Spruce) M.Fleisch. ex Broth.

藓類 イワダレゴケ科

【選定理由】既知の生育地点数は2である。人為的圧による環境の悪化で消滅するおそれがある。

【種概要】茎は這い、緑色から赤褐色、不規則に羽状に分枝する。茎の長さは10 cm前後、茎には毛葉がつく。茎葉は卵形で、葉先は尖り縁に歯がある。葉身には弱い縦皺があり、中肋は1本で葉長の4分の3に達する。枝葉は披針形、葉先は尖り縁に小歯があり、中肋も同様に1本で葉長の4分の3に達する。山地帯の地上や岩上に生える。

【分布】ヨーロッパ、極東ロシア、北アメリカ、中国、朝鮮半島に分布。国内では、四国、本州、北海道に分布する。県内では、菰野町（御在所山）、大台町（大杉谷）から知られている。

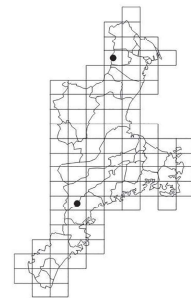
【現況・減少要因】現況は未確認である。

【保護対策】生育地の確認が急務である。

【文献】51, 70.

(山田耕作・寺尾恭平・山本誠二)

(写真：神奈川県，2008年，平岡正三郎撮影)



三重県 2025
VU
三重県 2015
CR
環境省 2020
—

オオミツヤゴケ

蘚類 ツヤゴケ科

Entodon conchophyllus Cardot

【選定理由】既知の生育地点数は3で、35年以上も詳しい記録がなかったが、今回1箇所で生育が確認できたので、新たな選定種に加えた。

【種概要】茎はやや太い斜上する枝をやや密に出す。茎葉は光沢があり、長さ1.5~2mm、卵形から楕円状卵形で深く凹み、先端は急に細く尖る。中肋は2又して短い。蒴は球形で、胞子が直径35~55µmと大きいのが特徴である。樹幹に着生する。

【分布】中国に分布。国内では、四国、本州に分布する。県内では、菰野町（御在所山）、大台町（大杉谷）から知られ、稜線や山頂部に見られ、今回紀宝町子ノ泊山の山頂付近で生育が確認できた。

【現況・減少要因】林道工事や森林伐採が原因である。

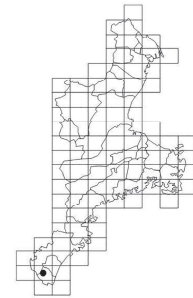
【保護対策】生育地一帯の環境保全に務める。詳しい生育地の確認が急務である。

【特記事項】2005年では情報不足（DD）であったが、2015年の改訂では評価の対象から除外されていた。今回の改訂で絶滅危惧Ⅱ類（VU）に選定した。

【文献】18, 101, 108.

(山本誠二)

(写真：熊野市，2022年)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

VU

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔藓類

藻類

キノコ

タマコモチイトゴケ

蘚類 コモチイトゴケ科

Yakushimabryum tokinense (Broth. & Paris) H.Akiyama

【選定理由】本県では産地が2箇所に限定され、新たに選定種に加えた。

【種概要】植物体はやや光沢があり、短く匍匐し薄い群落を形成。羽状に分かれ短い枝を出す。葉基部に方形から長矩形の翼細胞が分化し、葉縁にはまばらだが明瞭な小さい鋸歯がある。二次茎上部の葉腋に線形の無性芽が生じ、和名の由来となっている。無性芽は方形でマミラのある細胞が一行に並んでいる。谷筋の二次林やスギ植林で、スギの大きな枝に着生するのをよく見かける。以前は *Gammiella tonkinensis* の学名が用いられた。

【分布】東アジアの暖温帯に広く分布。国内では鹿児島県（屋久島）から四国各県、近畿南部に分布、北限は岐阜県（山県市）である。県内では大台町（大杉谷）と松阪市飯高町（江馬小屋谷）から報告されている。

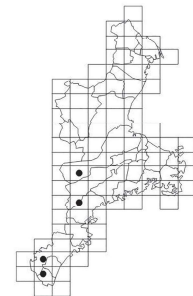
【現況・減少要因】木口他（2006）によって、江馬小屋谷の標本をオオタマコモチイトゴケと誤って同定・報告されていた。大杉谷は未確認。開発や自然災害による生育樹木の消失が大きい。

【保護対策】生育環境の保全が必要である。

【文献】3, 4, 24, 57, 70.

(秋山弘之)

(写真：宮崎県，2013年)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

カワブチゴケ

蘚類 イトヒバゴケ科

Cyrtodontopsis leveillei (Thér.) P.Rao & Enroth

【選定理由】河川改修や大規模な洪水等による環境の激変を懸念する。生育地は多くはないが、生育地に適した所ではよく見られVUとした。

【種概要】植物体は黒緑色で、川岸の低木の枝に着生し垂れ下がり、水量が増すと浸かる場所に生育。不規則に枝分かれし、20cmを超えることもある。葉は卵状楕円形、中央部は船底状にくぼむ。葉先は鈍頭、歯は目立たず、中肋は葉先近くまで達する。雌雄同株でよく蒴をつける。

【分布】東南アジアに分布。国内では、山口、徳島、高知、和歌山、三重、愛知、静岡の各県に分布するが少ない。県内では、大台町（大杉谷等）、大紀町、紀北町と尾鷲市から知られている。

【現況・減少要因】紀北町（銚子川）、尾鷲市（矢ノ川峠、賀田）では未確認だが、今回大紀町（宮川）で再確認した。

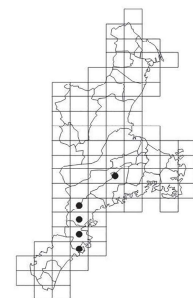
【保護対策】河川の改修工事の際には、事前調査と保全が必要である。

【特記事項】特異な生態をもつ本種の生育環境の維持が極めて重要である。

【文献】49, 51, 70.

(山田耕作・土永浩史)

(写真：大紀町，2023年)



三重県 2025

VU

三重県 2015

CR

環境省 2020

NT

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
藓苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

オオミミゴケ

藓類 ヒムロゴケ科

Meteoriella soluta (Mitt.) S.Okam.

【選定理由】生育地は標高の高い産地に限定されているが、適地には多く見られVUとした。しかし自然災害による生育環境の悪化で消滅するおそれはある。

【種概要】植物体は枝先の黄緑を除き茶褐色で、茎は這い、時に基物から下垂する。長さは20~30 cmにもなる。葉はやや光沢があり、先に向かって細くなり先は尖り横に反り返る。乾燥してもあまり変化しない。葉基部は広卵形で翼部は耳状で内曲、中肋は二叉で短い。雌雄異株。山地帯の上部から亜高山帯の岩上や樹幹に群生する。

【分布】東南アジアからヒマラヤ、中国に分布。国内では、九州、本州の関東地方（神奈川県）以西に分布する。県内では、鈴鹿山脈の釈迦ヶ岳、御在所山と鎌ヶ岳、津市美杉町（三重大演習林）、大台町（大台ヶ原、大杉谷）から記録されている。

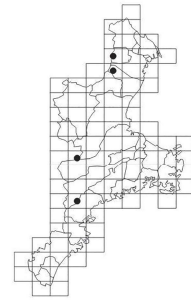
【現況・減少要因】植物体は大形で群生することが多いので、現地での確認は可能である。

【保護対策】標高の高い山地帯の詳しい調査が急がれる。

【文献】49, 51, 70, 94, 100.

(山田耕作・寺尾恭平・土永浩史)

(写真：和歌山県，1959年，中島徳一郎採集，南方熊楠顕彰館蔵)



三重県 2025

VU

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

タカネメリンスゴケ

藓類 ヒラゴケ科

Forsstroemia konoi (Broth.) Enroth et al.

【選定理由】既知の生育地は数箇所であるが、適地では多く見られVUとした。しかし自然災害による生育環境の悪化で消滅するおそれはある。

【種概要】植物体は艶のある黄緑色で、二次茎の長さは10 cmを超えることもあり、不規則に羽状分枝する。葉は長楕円形、葉先は細く尖り、縁には微歯がある。葉身の上部には横皺が見られ、葉縁は僅かに内側へ曲る。中肋は葉の2分の1まで達する。雌雄異株。樹幹や岩上に群生。これまで *Neckera konoi* が用いられたが、現在はスズゴケ属 *Forsstroemia* に移されている。

【分布】中国や朝鮮半島に分布。国内では、本州、四国、九州の山地帯から亜高山帯に分布している。県内では、いなべ市（藤原岳）、津市美杉町（三重大演習林）、大台町（大台ヶ原、大杉谷）から知られている。藤原岳では石灰岩上で見つかった。

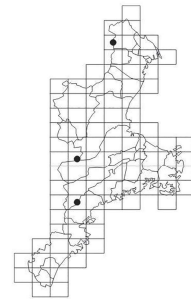
【現況・減少要因】植物体は大形で群生することが多いので、野外での確認は可能である。

【保護対策】森林環境の攪乱に注視する必要がある。

【文献】7, 49, 51, 70, 94.

(山田耕作・寺尾恭平・土永浩史)

(写真：高知県，1978年，太田耕二郎採集，南方熊楠顕彰館蔵)



三重県 2025

VU

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

モロハヒラゴケ

藓類 ヒラゴケ科

Neckera nakazimae (Iisiba) Nog.

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。低地に生育するため人為的圧の影響を危惧する。

【種概要】茎は淡緑色、二次茎は長さ20~30 mm、分枝は少ない。茎葉は脆く、卵形から倒卵形、非相称的である。葉身には横皺がなく、葉先は尖り脆く折れやすい。基部の縁は少し内曲する。細胞壁は薄く、中肋は1本で、短かく又はない。樹幹に着生する。

【分布】日本固有種。九州、四国、本州に分布する。県内では、桑名市（多度神社）、いなべ市（藤原岳）、伊賀市（高倉神社）、松阪市飯南町（赤桶）、伊勢市（伊勢神宮）、志摩市（伊雑宮）、大紀町（笠木谷）、紀北町（二郷神社）の低地（5~300 m）に分布している。

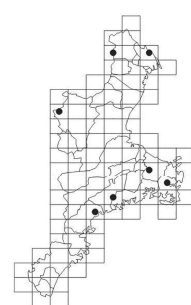
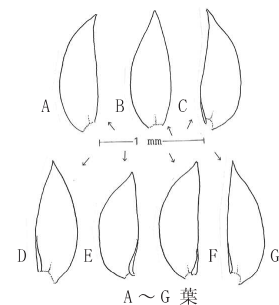
【現況・減少要因】現況は確認できていない。

【保護対策】主に社域境内の記録が多いことから、社域とその周辺の環境保全に配慮が必要である。

【文献】57, 70, 108.

(山田耕作・森田奈菜)

(写真：桑名市，（孫福 No. 2620より）)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

ヤクシマナワゴケ

蘚類 ナワゴケ科

Oedocladium rufescens (Reinw. & Hornsch) Mitt. var. *yakushimense* (Sakurai) Z.Iwats.

【選定理由】生育地は数箇所と限定され、新たに選定種に加えた。これまで見逃されてきた可能性が高い。

【種概要】植物体は光沢のある黄緑色から褐色の葉を密に付けた4 cmほどの大形種である。葉は卵形から倒卵形で広く舟状に凹み、先は急に狭くなって針状に尖る。中肋はほとんど無い。細胞は線形で細胞壁は厚く、くびれがある。翼細胞は方形で厚壁となり、褐色から黄褐色の明瞭な区画をつくる。雌雄異株。溪谷の主に岩壁に群生する。

【分布】基本種は熱帯地方に広く分布。国内では九州と紀伊半島（和歌山県、三重県）に知られ、県内では大台町（大杉谷）で記録され、今回、県南部の熊野市育生町や紀宝町、御浜町でも生育が確認できた。

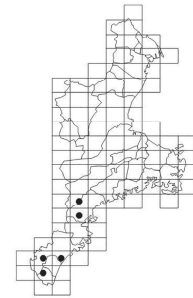
【現況・減少要因】県南地域で溪流沿いの岩壁の調査を継続すれば、産地が増える可能性はある。

【保護対策】溪谷の林道工事やその拡張工事では、生育環境の維持に務める必要がある。

【文献】37.

(土永浩史)

(写真：紀北町，2023年)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

—

オオキヌタゴケ

蘚類 ナワゴケ科

Oedocladium serricuspe (Broth.) Nog. & Z.Iwats.

【選定理由】生育地は数少ないことが分かり、新たに選定種に加えた。これまで見逃されてきた可能性が高い。

【種概要】植物体は光沢を帯びた黄褐色で20 mmほど、よく崖地に群生。乾燥してもほとんど変化はみられない。葉は密につけ、披針形で長く漸尖、深く凹む。中肋は2又し短い。細胞は狭菱形で細胞壁は厚く、くびれがある。葉腋にパピラのある糸状の無性芽をつけ、ストロンもみられる。雌雄異株。岩上以外に樹幹や腐木にも生える。

【分布】台湾、中国に分布。国内では琉球から九州、本州に分布し、県内では大台町（大杉谷）、旧海山町、大宮町、伊勢市、紀宝町、旧鶴殿町で記録されている。

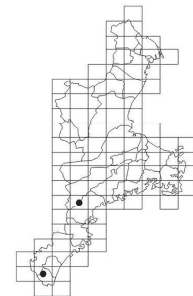
【現況・減少要因】大杉谷では比較的良好に生育していた。今後、生育地を含めた急峻な崖地を調べれば、同様の環境からの記録が増える可能性はある。

【保護対策】可能な限り生育環境に攪乱を加えない。

【文献】37.

(土永浩史)

(写真：大台町，2023年)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

VU

レイシゴケ

蘚類 ヒゲゴケ科

Myurella sibirica (Müll.Hal.) Reimers

【選定理由】石灰岩地ではやや普通種だが、県内では2箇所産することから新たに選定種とした。

【種概要】植物体は小さく明るい緑色。茎は匍匐し枝先はしばしば鞭枝状となる。葉は瓦状につくが、乾いてもあまり茎に接しない。葉は長さ約0.5 mm、スプーン状にくぼみ、広い卵形から急に伸びる。小さな葉が丸く茎に重なるようにつき、葉細胞の中央に顕著なパピラが1個あることが同属他種との良い識別点となる。

【分布】北半球の高緯度に広く分布。国内では北海道から九州に分布。県内では松阪市飯高町蓮（宮ノ谷、宮ノ谷と蓮川出合）から報告されている。

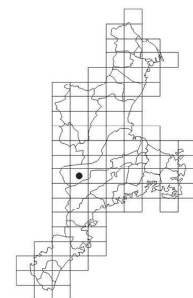
【現況・減少要因】山地から亜高山帯にかけての石灰岩、あるいは結晶片岩等の石灰質を含んだ岩隙の土上に生育する。県内産地については木口他（2006）による報告と今回の調査で新たな産地が確認された。しかし、増水や崖崩れ等による生育地の崩壊が危惧される。

【保護対策】生育環境の保全が必要である。

【文献】38, 57.

(秋山弘之)

(写真：長野県，2013年，平岡正三郎撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

VU

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

タカオジャゴケ

苔類 ジャゴケ科

Conocephalum salebrosum Szweyk., Buczk. & Odrzyk.

【選定理由】 本来は石灰岩地に多く生育する種が、三重県では非石灰岩地の2箇所で極めて小さな集団をつくり生育している。以上の理由から、新たな選定種に加えた。

【種概要】 葉状体表面は洋紙質状で薄くつや消しで黄緑色、中央が黒みを帯びることはない。下面は黄緑色で赤みがかかることは日本産植物では稀。上部表皮細胞は薄壁で、中央部に向かって小さくなる。気室の間の溝は浅い。粘液洞と粘液細胞はともによく発達している。仮根はまばらで、葉状体裏面の翼部には見られず中肋部沿いのみで発達することが多い。国内産では成長した雌器托の頭部先端は鋭く尖る。通常はわずかにかびくさい臭いがするが無臭。

【分布】 北半球に広く分布。国内では北海道～九州（熊本）、特に石灰岩地に分布する。県内では名張市（赤目溪谷）、松阪市飯高町（宮ノ谷）で生育を確認。

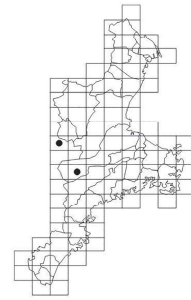
【現況・減少要因】 いずれの群落も遊歩道や林道のすぐ側にあり、極めて小集団である。踏みつけあるいは採集が要因と考えられる。

【保護対策】 生育地の保全が必要である。

【文献】 10, 11.

(秋山弘之)

(写真：京都府，2018年)



三重県 2025	VU
三重県 2015	—
環境省 2020	—

マツタケジャゴケ

苔類 ジャゴケ科

Conocephalum toyotae H.Akiyama

【選定理由】 日本海側気候の場所に限定される本種が、隔離的に三重県内の山間部の溪流沿いに見られることから、新たに選定種に加えた。

【種概要】 野外で強いマツタケ臭（トランスケイ皮酸メチル）を有するのが最も目立つ特徴。葉状体表面は黒味を帯びた緑色で、光沢のないマット状やや光沢がある。葉状体の幅はオオジャゴケに比べるとひとまわり狭い。葉状体裏面は緑～赤紫色。葉状体上部の表皮細胞は大きく薄壁。気室は全体でほぼ同じサイズで葉状体中央に向かってほとんど大きくなる。他のジャゴケ属植物でおおいに発達する粘液洞がまったく分化しない。

【分布】 極東にのみ分布。ロシア（サハリン）から日本（北海道、本州、四国）。県内ではいなべ市（御池岳）、松阪市（阪内町）、伊勢市（宇治今在家町）で生育を確認した。

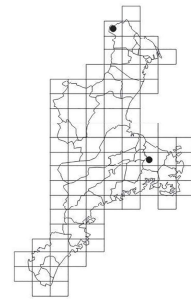
【現況・減少要因】 いずれもやや大きな集団をつくり生育しているが、胞子体の形成は観察されていない。生育地の開発あるいは採集活動が要因と考えられる。

【保護対策】 生育地の保全が必要である。

【文献】 10, 11.

(秋山弘之)

(写真：京都府，2022年)



三重県 2025	VU
三重県 2015	—
環境省 2020	—

オカムラケビラゴケ

苔類 ケビラゴケ科

Radula okamurana Steph.

【選定理由】 伊勢市が本種の分布北限にあたることから、新たな選定種に加えた。

【種概要】 植物体は樹幹に着生し、ケビラゴケ属としてはやや大きい。主茎部はやや赤味を帯びよく分枝する。葉の下片はよく伸びて横矩形となり、頂端は強く内曲する。また基部は茎を覆って、下片は全体によく膨らむ。普通種のヒメケビラゴケ *R. oyamensis* に形態がよく類似しており、同一種とする見解もあるが、現在は独立種として扱われている。ところどころで主茎の先端が鱗片葉をつけて立ち上がり、短い鞭状となるのが見分ける上での良い特徴である。

【分布】 台湾に分布。国内では琉球、九州、四国、紀伊半島に見られ、県内では伊勢市（内宮神域島路川沿い）で生育していた。

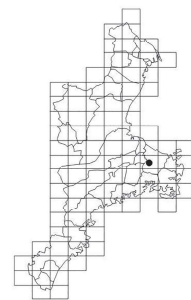
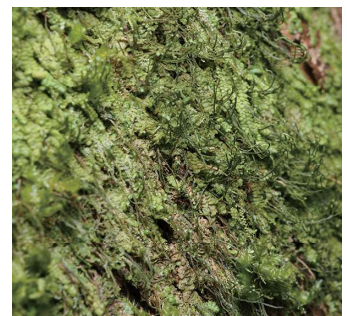
【現況・減少要因】 沢沿いのスギの樹幹に薄く広いマットをつくって生育。乾燥化並びに着生樹木の消失が懸念される。

【保護対策】 生育環境の保全が必要である。

【文献】 71, 105.

(秋山弘之)

(写真：伊勢市，2023年)



三重県 2025	VU
三重県 2015	—
環境省 2020	—

ハワイヤスデゴケ

苔類 ヤスデゴケ科

Frullania meyeniana Lindenb.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。森林の伐採などによる環境の悪化で消滅するおそれがある。

【種概要】茎は褐色から赤褐色，長さ10~20 mm。葉（背片）は楕円形で，葉先は円形から鈍頭，木部には耳がない。細胞壁は厚く，トリゴン（角隅）は大きい。腹片はバット状の円筒形。腹葉は茎に離れて着き，卵形，3分の1くらい2裂する。雌雄同株。樹幹着生種であるが，まれに岩上に生える。

【分布】アジアの熱帯から亜熱帯地域に広く分布。国内では，琉球，九州，四国，本州の兵庫，和歌山，三重の各県から知られている。県内では，伊勢市（伊勢神宮），志摩市（天の岩戸），大紀町（滝原宮），尾鷲市（矢ノ川峠）から知られている。

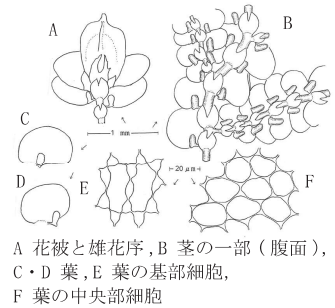
【現況・減少要因】現況は確認できていない。

【保護対策】生育地一帯の環境保全が必要である。

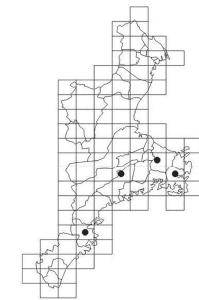
【文献】42, 62, 71, 108.

（写真：伊勢市，1964年，（山田 No. 5266より））

（山田耕作）



A 花被と雄花序, B 茎の一部（腹面）, C・D 葉, E 葉の基部細胞, F 葉の中央部細胞



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

オオミネヤバナゴケ

苔類 コヤバナゴケ科

Cephaloziella kiaeri (Aust.) Douin

【選定理由】生育地点は限られている。生育地周辺の環境変化や人為的圧により消滅のおそれがある。

【種概要】植物体は緑色，茎の長さ2~4 mmと微小。葉は離れて付き，幅は茎幅と同じで2分の1まで2裂する。その裂片は尖る。葉の細胞壁は厚い。トリゴン（角隅）は小さく，表面にペルカがある。雌雄同株。裸地の土上に生える。

【分布】アフリカ，東南アジアに分布。国内では，九州から奈良県，三重県，愛知県（鳳来寺山），そして関東地方（群馬県赤城山）の以南に分布する。しかし，生育地は限られ少ない。県内では，菰野町（御在所山）の数箇所から知られているだけである。

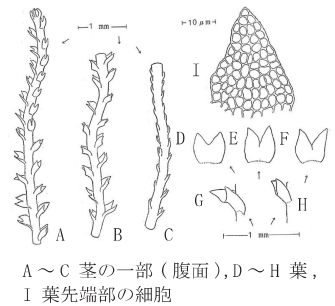
【現況・減少要因】産地は限られているが，微小な個体のため見逃されている可能性もある。生育地周辺の乾燥化が最も生育状況を悪化させる。

【保護対策】登山道から外れて森林内へ立ち入ることを規制する。

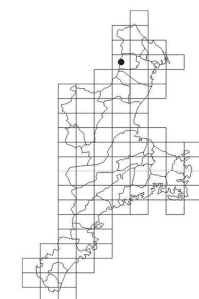
【文献】103, 104.

（写真：菰野町，1971年，（山田 No. 10947より））

（山田耕作・土永浩史）



A~C 茎の一部（腹面）, D~H 葉, I 葉先端部の細胞



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

タカサゴソコマメゴケ

苔類 タカサゴソコマメゴケ科

Jackiella javanica Schiffn.

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。環境の悪化で消滅のおそれがある。

【種概要】茎は10~15 mm，濃褐色。葉は広心臓形で，基部は丸く，葉端は鈍頭。細胞壁は薄く，トリゴン（角隅）は大きく膨らむ。腹葉は微小か痕跡状で，基部まで2~4裂し，裂片は刺毛状。雌雄異株。岩上や地上に生育する。

【分布】東南アジアから太平洋諸島に分布。国内では，琉球から静岡県以南に分布している。県内では，伊勢市（前山），紀北町（大原ミツ谷，小山浦），尾鷲市（三木里），熊野市（鬼ヶ城）に分布する。

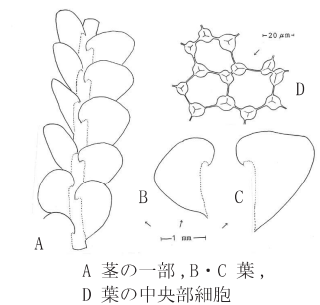
【現況・減少要因】既知の生育地の内，前山（伊勢市）は土地造成のため消滅した。既知の生息地以外でも確認できなかった。

【保護対策】生育地の環境保全に努める。

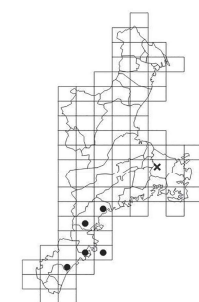
【文献】61, 71.

（写真：尾鷲市，1968年，（山田 No. 8508より））

（山田耕作・山本誠二）



A 茎の一部, B・C 葉, D 葉の中央部細胞



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
藓苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ホソバミズゴケ

Sphagnum girgensohnii Russow

藓類 ミズゴケ科

【選定理由】環境の悪化（乾燥化）による減少と、園芸採取による乱獲のおそれがある。

【種概要】茎は長さ10~20 cm, 淡緑色で白っぽく, 下垂枝は長い。茎葉は舌形で先端部は丸く, ぎざぎざ状。枝葉は卵形, 先に向かって細くなり, 先端は切頭, 縁は内側に曲がり反り返る。透明細胞には腹面と背面に共に穴がある。雌雄同株, または雌雄異株。山地帯の上限から亜高山帯の森林の腐植土上に生える。

【分布】北半球に広く分布。国内では, 九州から四国, 本州, 北海道にかけて広く分布する。県内では, 大台町（大杉谷）と大台ヶ原から記録されている。

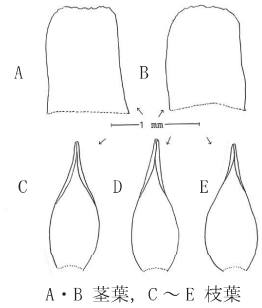
【現況・減少要因】現況は確認できていない。

【保護対策】ミズゴケ類の採集を規制し保護に努める必要がある。

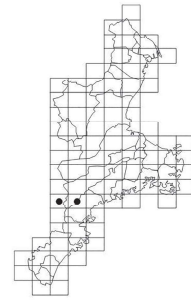
【文献】50, 108.

(山田耕作・寺尾恭平)

(写真: 大台町, 2004年, 山本和彦採集, 山田 (2005) より)



A・B 茎葉, C~E 枝葉



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

ホソバリモズゴケ

Sphagnum junghuhnianum Dozy & Molk.

藓類 ミズゴケ科

【選定理由】生育地も限定的で貴重である。これまで含められていなかったが, ミズゴケ類の需要は高く, 園芸採取され減少している。

【種概要】植物体はやや大形で淡緑色から黄緑色, 山地の水がしみ出る岩棚や岩壁に生育。茎葉は三角形から舌状三角形で, 先端は狭い切形で鋸歯がある。舷は基部で3~5細胞列で, ほとんど広がらない。透明細胞にはらせん状の肥厚があり, 表面の孔は腹面に少数ある。枝葉はまばらにつき, 卵形から卵状披針形で凹み, 先端では内曲する。

【分布】ヒマラヤから中国, 台湾と低緯度から分布。国内では九州から本州に見られる。県内では菰野町御在所山, 伊賀市（旧伊賀町）, 松阪市飯高町（蓮）, 大台町（大杉谷）, 旧海山町などで記録され, 湿原生ではなく, 山地の崖地に生育する。

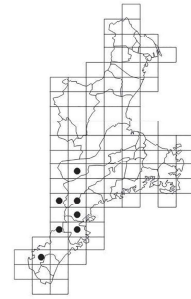
【現況・減少要因】林道沿いの湿岩や湿った岩壁に白っぽいマットを形成するので, 手の届く所は採取されやすい。

【保護対策】水がしみ出す環境を維持するために, 森林環境を維持し, 各種公園内では, 注意喚起を促す。

【文献】49, 70.

(土永浩史)

(写真: 松阪市, 2020年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

DD

オオミズゴケ

Sphagnum palustre L.

藓類 ミズゴケ科

【選定理由】環境の悪化による減少に加え, 園芸採取による乱獲のおそれがある。

【種概要】茎は長さ10 cmほど。白緑色で, 枝は先端部に集まる。茎の表面細胞にはらせん状の肥厚があり, 表面には数個の穴がある。茎葉は舌形, 先端部は丸く細かく裂ける。枝葉は広卵形で全体にくぼみ, さらに葉縁は内側に曲がり, 縁には細かい歯がある。枝葉の透明細胞には, 数本の横線状の肥厚と数個の穴がある。雌雄異株。山地の湿原や湿地帯の土上に生える。

【分布】全世界に分布。国内では, 北海道から, 本州, 四国, 九州にかけて広く分布する。県内では, 伊勢平野, 南勢を除いた各地に散在するが, 一般に南下するほど生育地は減少する。

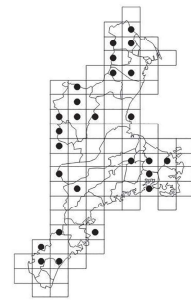
【現況・減少要因】開発による環境の悪化が最大原因であるが, 園芸採取による乱獲も大きな原因の一つである。一方で生育地は複数地点あり, 安定した生育地もあるため, VUからNTにランクを1つ下げた。

【保護対策】ミズゴケ類の採集を規制し, 保護に努める。

【文献】51, 52, 53, 70, 108.

(山田耕作・寺尾恭平・森田奈菜)

(写真: 伊賀市, 2024年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

クマノゴケ

蘚類 イクビゴケ科

Diphyscium lorifolium (Cardot) Magombo

【選定理由】小さな沢の湿岩に生育するため、林道の改修工事などで消滅するおそれがある。

【種概要】茎は黒緑色。葉の基部は広く葉先は紐状に細く伸びる。乾くと内曲し、中肋は葉の大部分を占める。蒴はイクビゴケの蒴によく似る。溪流沿いのしぶきがかかるような湿岩上に生える。

【分布】パキスタンから朝鮮半島に分布。国内では、九州、四国から東北（福島県以南）地方まで広がっている。県内では、伊賀市（青山町）、名張市（赤目渓谷）、大台町（大杉谷、堂倉谷）、伊勢市（朝熊山、伊勢神宮）、大紀町（滝原宮、笠木谷、頭の宮四方神社）、南伊勢町（牛草山、古和）、尾鷲市（曾根）、熊野市（大馬神社）、御浜町から知られていた。今回新たに紀宝町や松坂市でも生育が確認できた。

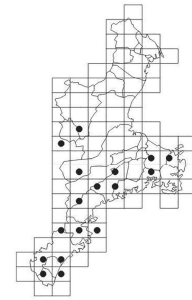
【現況・減少要因】前回に増して生育地が減った。生育地である渓流域の改修工事等で消滅あるいは減少したものと思われる。

【保護対策】渓流域の開発や道路改修には、事前調査が必要である。

【文献】43, 49, 53, 57, 70, 100.

(山田耕作・寺尾恭平・山本誠二)

(写真：熊野市，2022年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

イサワゴケ

蘚類 カタシロゴケ科

Syrhodon tosaensis Cardot

【選定理由】生育地は点々とあるが、国内でも稀少で、新たに選定種に加えた。森林伐採等周囲の乾燥化により大きく影響を受ける可能性がある。

【種概要】植物体は灰緑色で、茎は10 mmほどである。葉は披針形で、乾燥してもあまり縮れない。葉縁は2～3細胞列の透明な舷があり、先端を除き全縁である。中肋は葉先に達し、その背面には大きな鋭い刺が集まってつく。また、葉先には紡錘形の無性芽が集まってつくことが多い。樹幹基部や岩上に小さな群落を形成する。

【分布】中国に分布。国内では本州中部地方以西、四国、九州、琉球に分布。県内では、大紀町（旧大宮町）、紀北町（旧海山町）、魚飛溪、尾鷲市などで記録されている。

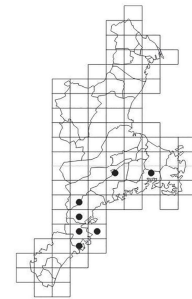
【現況・減少要因】森林伐採や自然災害により直ぐに状況は悪化するの注視する必要がある。

【保護対策】生育環境の維持が重要で、大きな攪乱を避ける。

【文献】57, 70.

(土永浩史)

(写真：和歌山県，2024年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ネジレゴケモドキ

蘚類 センボンゴケ科

Tortella tortuosa (Hedw.) Limpr.

【選定理由】既知の生育地点数は6である。自然災害による環境の悪化で消滅するおそれがある。

【種概要】茎は黄緑色、長さ20～30 mm。葉は乾燥すると強く巻縮し、葉縁には透明な細胞があり、縁は波が打ち、葉先は尖る。中肋は葉先に達し少し突き出る。

【分布】北半球に広く分布。国内では、北海道から本州、四国、九州にかけて分布する。県内では、菰野町（朝明渓谷）、いなべ市（篠立、河内谷）、伊勢市（矢持町）、大紀町（滝原宮）、大台町（大杉谷隠滝）から知られている。好石灰岩性の蘚類であるが、石灰岩地帯以外からも知られている。

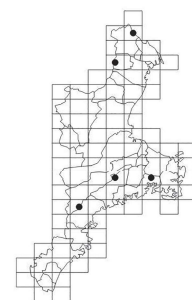
【現況・減少要因】すべての生育地を確認できていないが、生育地は複数地点あり、安定した生育地もあるため、VUからNTにランクを1つ下げた。

【保護対策】主だった石灰岩地には、他にも興味深い蘚苔類が多いため、県内全般の石灰岩地帯の保全に努める。

【文献】52, 70, 108.

(山田耕作・寺尾恭平・森田奈菜)

(写真：いなべ市，1969年，寺尾恭平採集，三重県総合博物館蔵)



三重県 2025

NT

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
藓苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ヤマトチョウチンゴケ

藓類 チョウチンゴケ科

Plagiomnium japonicum (Lindb.) T.J.Kop.

【選定理由】全国的にややまれであり、県内での産地は1箇所であることから、新たな選定種に加えた。

【種概要】匍匐茎は地上を匍う。匍匐茎の葉は倒卵形から広倒卵形、中肋は普通葉頂に届かない。葉細胞は大きくて時に長さ70 μmになり、葉縁の鋸歯は大きい。ツルチョウチンゴケ属にはいくつもの普通種が知られているが、本種は葉先が鋭頭で、中肋が葉先に届かず、葉身細胞が大きいこと、葉縁の鋸歯が大きく、普通2～3細胞からなる点が特徴である。

【分布】ヒマラヤ、東アジアに分布。国内では北海道、本州に分布する。県内では名張市（赤目）で見られるが、産地が少ないのは見逃しによるものと推測される。

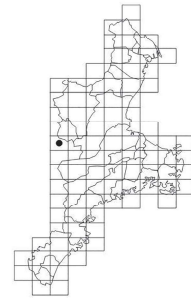
【現況・減少要因】溪流沿いの岩上に生育を確認。大形で立ち上がるコツボゴケと混同されることがある。増水等の自然災害が懸念される。

【保護対策】生育環境の保全が必要である。

【文献】38, 63.

(秋山弘之)

(写真：京都府，2022年)



三重県 2025	NT
三重県 2015	—
環境省 2020	—

ナガミノゴケ

藓類 タチヒダゴケ科

Macromitrium prolongatum Mitt.

【選定理由】既知の生育地点は10箇所。樹幹（まれに岩上）着生種であるため環境変化の影響を受けやすい。

【種概要】茎は緑褐色、樹幹や岩上にマットをつくる。茎の先はよく伸び、短い枝を出す。枝葉は乾くと巻縮、披針形で葉先は鋭く尖り、葉の半ばから龍骨状となる。細胞には3～5個の乳頭が見られる。中肋は葉先まで達する。蒴柄は他のミノゴケと比べて短い。樹幹（まれに岩上）に生える。

【分布】中国、朝鮮半島に分布。国内では、鹿児島県（屋久島）、四国、本州（宮城県以南）。県内では、菰野町（御在所山）、津市美杉町（三重大演習林）、大台町（大杉谷）、伊勢市（朝熊山）、伊賀市（青山）、名張市（赤目）の低地から山地帯にかけて知られている。

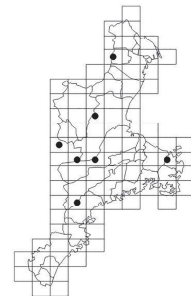
【現況・減少要因】各生育地とも未確認である。

【保護対策】生育地一帯の保全に努める。

【文献】49, 70, 80, 94.

(山田耕作・寺尾恭平・秋山弘之)

(写真：神奈川県，2008年，平岡正三郎撮影)



三重県 2025	NT
三重県 2015	VU
環境省 2020	—

エゾキンモウゴケ

藓類 タチヒダゴケ科

Uloa japonica (Sull. & Lesq.) Mitt.

【選定理由】県内での産地が数箇所と限定されることから、新たな選定種に加えた。

【種概要】植物体は小さく、丸い円座をつかって樹幹に生育。立ち上がる茎は5～10 mmほど。葉は長さ2～3 mm、披針形で基部はあまり広がらない。乾くと緩く巻く。葉細胞は丸みをおび厚膜、表面に1～2個のパピラがある。葉基部の縁の数列の細胞は透明で、細胞壁は縦方向が薄く、横方向が厚い。蒴は倒卵形。藓帽にはわずかに毛が生じる。同属で近縁のエゾキンモウゴケからは、乾燥時の葉の巻き方が緩いこと、藓帽に生じる毛が少ないことなどで識別される。

【分布】中国、サハリン、北米西部に分布。国内では北海道、本州、四国に分布する。県内では名張市（赤目）、菰野町（武平峠、御在所山山頂一帯）に見られる。

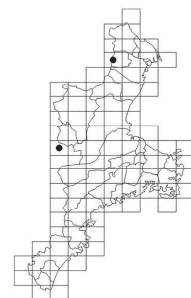
【現況・減少要因】明るく風が通る稜線沿いの灌木の枝に着生する。生育地の乾燥化や生育樹木の伐採が懸念される。

【保護対策】生育環境の保全が必要である。

【文献】38, 59, 81.

(秋山弘之)

(写真：兵庫県，2023年)



三重県 2025	NT
三重県 2015	—
環境省 2020	—

ナゼゴケ

蕨類 クジャクゴケ科

Lopidium struthiopteris (Brid.) M.Fleisch

【選定理由】南勢から紀州路にかけて分布するが、湿度の高い渓流域で見られ乾燥化に対して適応できない。

【種概要】植物体は黄緑色で長さ20 mmほどで羽状分枝する。葉は舌形、葉頂は鋭く尖り、中肋は葉頂から突き出る、葉縁には数細胞列の舷がある。腹葉は長い三角形。茎の上部に褐色で線状の無性芽を付ける。雌雄異株。岩上や樹幹に生える。

【分布】アフリカ（主に南半球）からアジアの熱帯、温帯地域に分布。国内では、小笠原、琉球から、九州、四国、本州の沿岸から伊豆半島辺りまで北上している。県内では、志摩市磯部町（天の岩戸）以南の南伊勢町（鬼ヶ城、南島町）、大紀町（大内山、紀勢）、尾鷲市（九鬼）、熊野市（大馬神社、紀和町）、紀宝町から知られている。

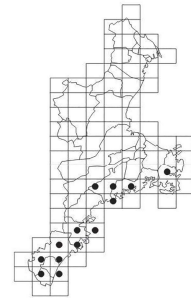
【現況・減少要因】河川の改修工事による環境の悪化が原因で、全滅または減少した所もある。

【保護対策】本種が生育する渓流沿いの林道工事に注意が必要である。

【文献】52, 53, 70.

(山田耕作・寺尾恭平・土永浩史)

(写真：和歌山県，2004年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蕨類

藻類

キノコ

ヤマハイゴケ

蕨類 チリメンゴケ科

Stereodon subimponens (Lesq.) Broth. var. *ulophyllus* (Paris) Afonina

【選定理由】比較的産地が限定され、県内では1箇所のみで知られることから、新たな選定種に加えた。

【種概要】植物体は中形で時に小形。茎は匍匐し羽状分枝。茎の表皮細胞は大きく外側の膜が薄膜。茎葉は卵形から長楕円状披針形、長さ1.6~2.3 mm、長く細く尖り、鎌形に曲がり、中肋は葉長の1/3~1/2、翼細胞の分化は少なく方形細胞は葉縁にそって4個以下。枝葉は狭い長楕円状披針形で、長さ1.3~1.9 mm、翼細胞は茎葉と似る。山地の岩上や樹幹に生え、稀に朽木上に見られるが土上に生えることはない。以前はハイゴケ科ハイゴケ属に分類され、*Hypnum subimponense* ssp. *ulophyllum* という学名が用いられた。

【分布】ヒマラヤ東部、中国、朝鮮半島、台湾に分布。国内では北海道から九州の暖温帯上部から亜高山帯に分布している。県内では津市美杉町（三重大演習林）で記録されている。

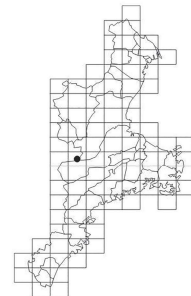
【現況・減少要因】1961年の採集以来未確認で、今回上記演習林へは入山が許可されず、実態は不明。生育地の消失が懸念される。

【保護対策】生育環境の保全が必要である。

【文献】8, 16.

(秋山弘之)

(写真：名張市，2022年，兵庫県立人と自然の博物館蔵)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ヒゴイチイゴケ

蕨類 サナダゴケ科

Pseudotaxiphyllum maebarae (Sakurai) Z.Iwats.

【選定理由】生育地は今のところ少なく、新たに選定種に加えた。これまで見逃されてきた可能性が高い。

【種概要】植物体は光沢のある黄緑から濃い緑色で、不規則に分枝する。小形で葉は茎に扁平につき、葉腋や枝端に、柄の付いた茶褐色から黒っぽいこぶし状の無性芽（肉芽）をつけるのが大きな特徴（右図参照）。葉は卵形から先端に向かい曲がり、非相称となる。翼細胞は分化せず。中肋は短く2又するか不明。土上や木の根元に生育する。

【分布】中国に分布。国内では、本州から九州に分布。県内では名張市（赤目溪谷）で採集され、今回伊勢市（五十鈴川）でも確認された。同属のアカイチイゴケの赤くない個体に似ていて、植物体のみでは判断できにくく、これまで混同されている可能性もある。

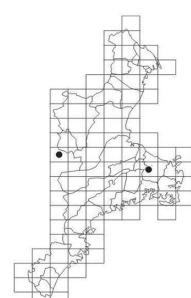
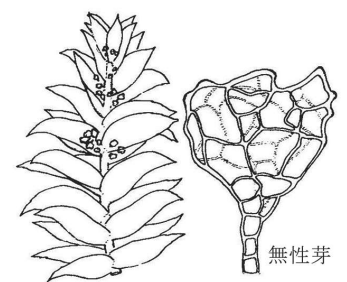
【現況・減少要因】同属の群落は切り通しの土上に見られる種なので、今後も詳細に調べると産地は増えることは考えられる。

【保護対策】林道工事など道路の改変時に、コンクリートによって全壁面を工作すると、生育する余地がなくなるおそれがある。

【文献】25, 85.

(土永浩史)

(写真：土永（2009），南紀生物33(2)より)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
藓苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

イワダレゴケ

藓類 イワダレゴケ科

Hylocomium splendens (Hedw.) Bruch et Schimp.

【選定理由】生育地は標高の高い山地帯に限定されているが、適地には多く見られ、NTとした。森林伐採や災害による林床の乾燥化による減少を危惧する。

【種概要】植物体は黄緑色で、10~20 cmと大形。階段状に立ち上がり、規則的に羽状に分枝、茎の表面を毛葉が覆う。茎葉は卵形、葉の先端部はねじれて細く尖り、縁は強く波打ち周りに小さい歯がある。中肋は2本で葉の2分の1ほど。雌雄異株。腐植土上や岩上に群生する。

【分布】北半球の高山帯とニュージーランドに分布。国内では、九州、四国、北海道の亜高山帯に分布し、県内では、津市美杉町（三重大演習林）、松阪市飯高町（国見山、迷岳、局ヶ岳）、大台町（大杉谷）、紀北町（中里一千尋峠）の山地の上限から知られている。

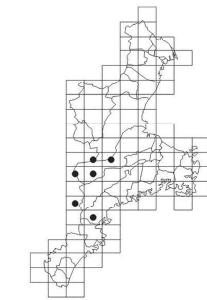
【現況・減少要因】県内の山地帯上部を広範囲に調べる必要があるが、生育地点では群がって生える。

【保護対策】森林の大きな攪乱が生じた際には、早急な回復の手立てが必要である。

【文献】24, 49, 51, 70, 94.

(山田耕作・土永浩史)

(写真：大台町，2001年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

タチハイゴケ

藓類 イワダレゴケ科

Pleurozium schreberi (Brid.) Mitt.

【選定理由】標高の高い地域で群生することが多いので、NTとしたが、自然災害を含む森林環境の大きな改変で激減するおそれはある。

【種概要】植物体は黄緑色で大形で、茎はやや赤っぽく、羽状に分枝し、茎には毛葉はない。茎葉は卵形から倒卵形、葉の先端部は丸く、先は少し尖り、葉身は船底状にくぼむ。葉先にだけ細かい歯があり、中肋は二本で短い。雌雄異株。地上、岩上、倒木上などに生える。

【分布】北半球に広く分布。国内では、北海道から本州、四国、九州。県内では、いなべ市（藤原岳）、菰野町（御在所山）、津市美杉町（三重大演習林）、名張市（赤目溪谷）、松阪市飯高町（局ヶ岳、蓮）、大台町（大杉谷）、大紀町（笠木谷）、熊野市（飛鳥町）の山地帯にかけて分布する。

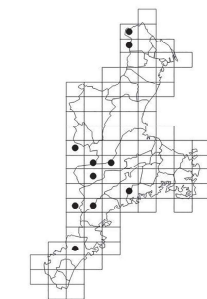
【現況・減少要因】台風などによる倒木が多いと林床が乾燥し、生育環境にダメージを受けている可能性はある。

【保護対策】広範囲な山地での調査とともに、既知の生育地を注視する必要がある。

【文献】24, 43, 50, 70.

(山田耕作・寺尾恭平・土永浩史)

(写真：大台町，2001年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

サクラジマツヤゴケ

藓類 ツヤゴケ科

Entodon calycinus Cardot

【選定理由】既知の生育地点数は6である。環境の悪化で消滅するおそれがある。

【種概要】茎は這い、不規則に羽状に分枝する。葉は披針形から卵状披針形、葉先は細く鋭く尖る。中肋は葉長の4分の1まで達し先は二又となる。樹幹に着生する。

【分布】朝鮮半島に分布。国内では、九州、四国、本州に分布する。県内では、いなべ市（藤原岳）、菰野町（御在所山）、津市美杉町（三重大演習林）、松阪市飯高町（宮ノ谷）、大台町（大杉谷）、熊野市（紀和町）から記録されている。

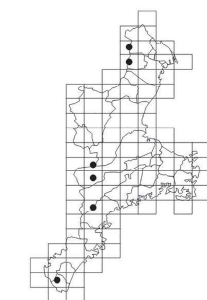
【現況・減少要因】現況は未確認である。樹幹に着生するため樹木の伐採や間伐による減少や乾燥化が原因。

【保護対策】樹幹に着生するため、森林伐採等の開発の際には事前調査が必要である。

【文献】57, 70, 73, 94.

(山田耕作・寺尾恭平・山本誠二)

(写真：神奈川県，2013年，平岡正三郎撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

カラフトツヤゴケ

Entodon scabridens Lindb.

蘚類 ツヤゴケ科

【選定理由】既知の生育地点数は4である。自然災害による生育環境の悪化で消滅するおそれがある。

【種概要】茎は這い、黄緑色、長さは20~30 mm。葉は長卵形、葉先は伸びて細く尖り、縁は小さい歯があるか又は全辺。中央はやや船底状にくぼみ、基部に翼細胞が密にある。中肋は二叉で短い。雌雄同株。山地帯の樹幹に着生する。

【分布】シベリア、サハリンに分布。国内では、北海道から、本州、四国に分布するが生育地は少ない。県内では、いなべ市（藤原岳）、伊賀市（喰代）、津市美杉町（三重大演習林）、大台町（大杉谷）に分布している。

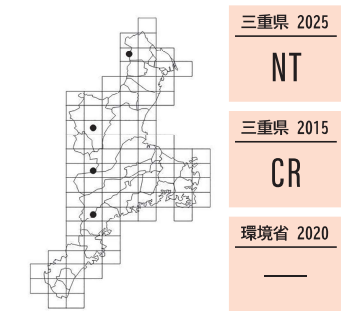
【現況・減少要因】2006年以来現況は未確認である。

【保護対策】詳しい生育地の確認が急務である。

【文献】49, 70, 94.

(山田耕作・寺尾恭平・山本誠二)

(写真：いなべ市，1966年，保黒時男採集，森田奈菜撮影，三重県総合博物館蔵)



三重県 2025

NT

三重県 2015

CR

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

セイナンヒラゴケ

Neckeromnion calcicola (Nog.) S.Olsson, Enroth, Huttunen & D.Quandt

蘚類 ヒラゴケ科

【選定理由】好石灰岩性のため生育地が限定され、石灰岩の採掘や荒廃によって影響を受けやすい。

【種概要】二次茎は長く、長さは20~30 cm、淡緑色。葉は舌形、先端部は切頭で角ばり、葉身には横皺がある。基部の縁の一方は内曲し、細胞壁は厚く、中肋は短い。主に石灰岩上に生える。以前は*Neckeropsis calcicola* という学名が用いられたが、現在はセイナンヒラゴケ属*Neckeromnion* に移されている。

【分布】中国に分布。国内では、琉球から九州、四国、本州の主に石灰岩地帯に広く分布している。県内では、いなべ市（藤原岳）、鈴鹿市（小岐須溪谷）、松阪市飯高町（宮ノ谷出合、ヌタハラ谷）、名張市（赤目溪谷）、伊勢市（内宮）、志摩市磯部町（天の岩戸）の石灰岩地帯から知られているが、熊野市（大馬神社、羽市木）では樹幹上で発見されている。

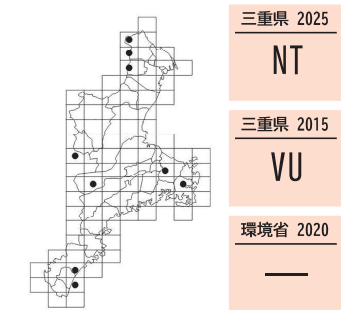
【現況・減少要因】赤目溪谷は未確認だが、藤原岳では旺盛に生育していた。周辺一帯の荒廃が懸念される。

【保護対策】石灰岩地帯の植生の保全強化を行なう。

【文献】7, 49, 51, 57, 70

(山田耕作・秋山弘之)

(写真：松阪市，2024年，土永浩史撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

トサヒラゴケ

Pengchengwua obtusata (Mont.) S.Olsson, Enroth, Huttunen & D.Quandt

蘚類 ヒラゴケ科

【選定理由】県内に広く分布するが、低地に産するため人為的圧の影響を受けやすい。

【種概要】二次茎は短く分枝はあまりしない。長さは3~10 (~20) cmで緑色。葉は舌状、先端部は丸く端は角張らず微歯がある。葉身の横皺は弱く、基部の縁の一方は内曲。中肋は葉長の4分の1に達する。雌雄同株。樹幹や岩上に生える。以前は*Neckeropsis obtusata* が用いられたが、現在はトサヒラゴケ属*Pengchengwua* とされている。

【分布】ベトナム、中国に分布。国内では、琉球から関東以西の暖地に分布。県内では、津市（美杉町）、伊勢市（伊勢神宮）、志摩市（磯部町、伊雑宮、天の岩戸）、大紀町（滝原宮、笠木谷）、大台町（大杉谷）、紀北町（二郷神社）、尾鷲市（九鬼）、熊野市（大馬神社）、紀宝町に分布している。

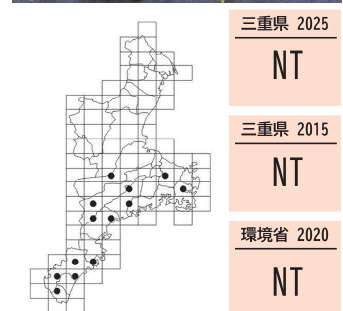
【現況・減少要因】伊勢神宮、伊雑宮、滝原宮では量的に減少。災害による影響が原因と考えられる。他の生育地については未確認。

【保護対策】鎮守の森を含む里山一帯の環境保全を行なう。

【文献】5, 7, 19, 49, 52, 57, 70, 94.

(山田耕作・秋山弘之)

(写真：和歌山県，2024年，土永浩史撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ウキウキゴケ

Riccia fluitans L.

苔類 ウキゴケ科

【選定理由】生育地は比較的多いが、特に湧水に生育する産地では人為的圧による生育環境の悪化で激少した。

【種概要】植物体は葉状体で、線形、長さは10~30 mm. 数回二叉状に分かれ、葉の頂端は凹形、裏面には仮根や鱗片状の付属物はない。これまでウキゴケとして認識されてきた種は、形態が非常に類似した4種 (*R. canalicullata* ミゾウキゴケ, *R. stenophylla* ホソバウキゴケ, *R. rhenana* オオウキゴケ, *R. fluitans* ウキウキゴケ) から成り立つことが判明したため、既存産地、特に湧水以外の水田や池に生育する場合は種同定の確認が必要であるが、暫定的にここでは全てウキウキゴケとして扱っている。

【分布】全世界に広く分布。国内では、琉球諸島から北海道まで分布する。県内では、広い範囲に点々と分布する。

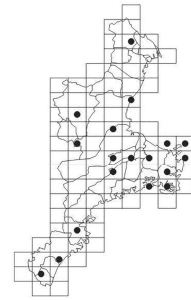
【現況・減少要因】前回と比べて激減した。生育地の水の枯渇が原因である。

【保護対策】溜池、水田、用水路などの改修工事を規制する必要がある。

【文献】32, 55, 62, 71, 98.

(山田耕作・秋山弘之)

(写真：和歌山県，2020年，土永浩史撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

イチヨウウキゴケ

Ricciocarpos natans (L.) Corda

苔類 ウキゴケ科

【選定理由】生育地点数は比較的多いが、人為的圧による生育環境の悪化で激少した。

【種概要】植物体は葉状体でイチヨウの葉形に似る。表面には光沢と浅い溝があり、裏面には黒紫色の腹鱗片が生えるため容易に識別できる。雌雄同株。

【分布】全世界に広く分布。琉球から全国各地に分布、近年北海道からも報告されている。県内には、広い範囲に点々と分布している。胞子体は浮遊する時期にだけ形成されることが知られており、国内で胞子体が確認される時期は6月から10月にかけてになる。

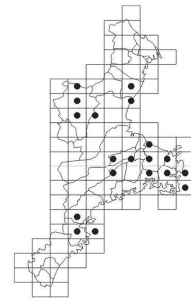
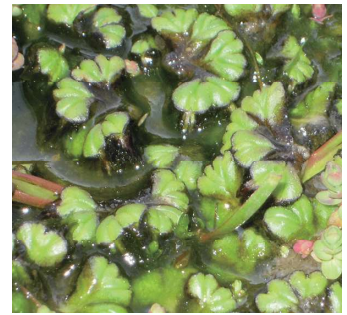
【現況・減少要因】本種は浮遊性であるため洪水などで流動する事が多く、生育地の確認、生育量の増減を判断する事が難しい。コイ科の魚類による被食が報告されていることも安定的な群落が見当たらない原因と推測される。

【保護対策】水田地帯の整地改修工事の規制と除草剤の使用禁止が必要である。

【文献】24, 62, 65, 79.

(山田耕作・秋山弘之)

(写真：和歌山県，2020年，土永浩史撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

サカワヤスデゴケ

Frullania sackawana Steph.

苔類 ヤスデゴケ科

【選定理由】南勢から紀州路にかけて分布するが、生育地の環境悪化で消滅のおそれがある。

【種概要】茎は緑褐色から赤褐色、大形で8~10 cm. 葉の下片は小さくこん棒状。腹葉は茎幅の4倍の大きさで円形、頂端は4分の1まで2裂する。葉細胞は大きく細胞壁のトリゴン(角隅)は肥厚する。雌雄異株。樹幹上や岩上に生える。

【分布】東南アジアに分布。国内では、熊本、高知、和歌山、三重、愛媛と埼玉(入間郡名栗村、現在の飯能市が北限地)の各県から知られているが生育地は極めて少ない。県内では、伊勢市(内宮)、大紀町(滝原宮、頭の宮四方神社)、南伊勢町(押淵、道方)、尾鷲市(九鬼)の低地に分布する。

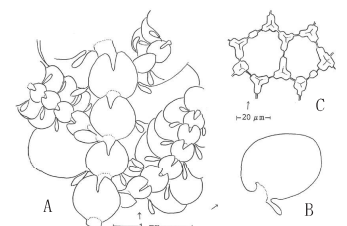
【現況・減少要因】前回、既知の伊勢神宮(内宮)、滝原宮、頭の宮四方神社では消滅したことを確認して以降、他の生育地は未確認である。

【保護対策】継続的な生育状況の把握が必要である。

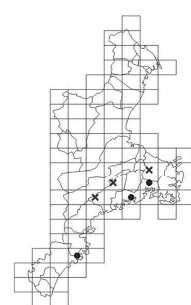
【文献】47, 62, 71, 108.

(山田耕作・森田奈菜)

(写真：大紀町，1962年，(孫福 No. 2830より))



A 茎の一部(腹面), B 葉, C 葉の中央部細胞



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

VU

ヨウジョウゴケ

苔類 クサリゴケ科

Cololejeunea trichomanis (Gottsche) Steph.

【選定理由】 県内では比較的多く記録されているが、生育地が渓流域に多く、河川の改修工事などによる生育環境の悪化で消滅するおそれがある。

【種概要】 茎は短く10 mm程度の長さ。葉の背片は楕円形、葉の先端部は丸く、縁は鈍鋸歯状となり、葉細胞のトリゴン（角隅）は大きい。葉の下片は膨らみ、頂端に鋭い2歯がでるが中央の歯は大きく2細胞からなる。葉下片の基部近くにつく柱状細胞は細く1～3細胞からなる。雌雄同株。湿潤な渓流域に生えるシダやコケ類の生葉上や樹皮、湿岩上にも生える。

【分布】 広く東南アジアに分布。国内では、琉球諸島から秋田県のと賀山（北限地）あたりまで分布するが、生育地は極めて少ない。県内では、北勢地方は少ないが、紀州路は比較的多い。

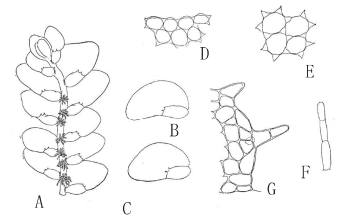
【現況・減少要因】 消滅した生育地が増えた。生育地である湿度の高い渓流域の改修工事による乾燥化が原因である。

【保護対策】 生育地が多い渓流域周辺環境保全が必要である。

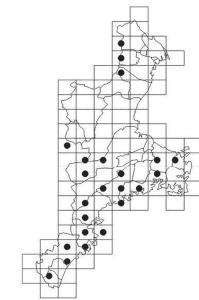
【文献】 52, 62, 71.

(山田耕作・山本誠二)

(写真：伊勢市，1962年，孫福，山田（1964）より)



A 茎の一部（腹面），B・C 葉，
D 葉緑部の細胞，E 葉の中央部細胞，
F 柱状細胞，G 葉下片の先端部



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

カビゴケ

苔類 クサリゴケ科

Leptolejeunea elliptica (Lehm. & Lindenb.) Schiffn.

【選定理由】 生育地は比較的多いが、生葉上に多く着生するため、環境の自然度を計る指標種となる。

【種概要】 茎は長さ 3～5 mm，黄緑色。葉には普通の細胞より大きい1個の油体を含んだ異形細胞がある。腹葉は茎の腹面に離れてつき、裂片は刺状となる。花被は膨らみ、三角状の翼となった5個のひだがでる。雌雄同株。生葉上や樹枝などの基物に着生する。

【分布】 広く熱帯，亜熱帯地域に分布。国内では琉球諸島を北上し，東北地方の福島県双葉郡木戸川溪谷（北限地）まで分布している。県内では名張市（赤目溪谷）から紀宝町に至る各地に点々と分布する。

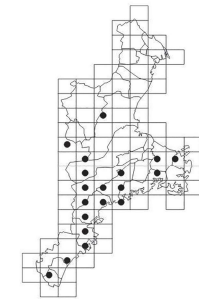
【現況・減少要因】 渓流域周辺の開発と河川の改修工事などによる乾燥化が原因で消滅する。

【保護対策】 溪流沿いの高湿度の環境保全に努める。

【文献】 52, 55, 61, 71.

(山田耕作・山本誠二)

(写真：伊勢市，2023年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

マエバラムチゴケ

苔類 ムチゴケ科

Bazzania mayebarae S.Hatt

【選定理由】 生育地に限られるため、環境の悪化で減少ならびに消滅のおそれがある。

【種概要】 茎は小さく，緑褐色，長さは10～15 mm。葉は離れてつき，卵形で，葉先は鈍い1～2歯。葉の細胞壁は薄く，トリゴン（角隅）は大きい。表面は著しいベルカがあって不規則にザラザラしている。腹葉は広卵形から円形で，白っぽく見えて基部以外は透明，細胞は平滑で細胞壁は薄膜。腹面から鞭枝がよく出る。樹幹や岩上に生える。

【分布】 ベトナム，中国に分布。日本では九州（熊本県，屋久島），四国を経て近畿南部にかけて分布する。県内では熊野灘に沿った南部に点々と分布する。

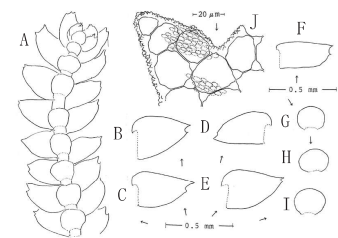
【現況・減少要因】 既知の生育地の中には，消滅した所がさらに増えた。開発と森林伐採が原因である。

【保護対策】 生育地一帯の環境保全に努める。

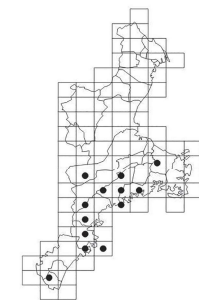
【文献】 52, 55, 61, 71.

(山田耕作・秋山弘之)

(写真：伊勢市，1964年，（山田 No. 5700より）)



A 茎の一部（腹面），B～F 葉，
G～I 腹葉，J 葉先端部の細胞



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

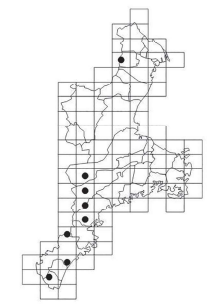
環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
藓苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

アイバゴケ 苔類 アミバゴケ科
Plicanthus birmensis (Steph.) R.M.Schust.

【選定理由】産地が限定されることから、新たに選定種に加えた。
 【種概要】植物体は赤褐色から黄褐色で、岩上に群生。茎は斜上し、長さ約2 cm。葉は斜めにつき深く不同に3裂し、背側の裂片が最も大きい。腹葉は葉よりかなり小さく深く2裂し、基部に数個の歯を有する。トゲアイバゴケ*P. hirtellus* も葉が深く不同に3裂する点で本種と似ているが、葉縁が全縁であることで区別できるとされる。常緑樹林帯から落葉樹林帯のやや開けた岩場に群生。学名は、以前*Chandonanthus birmensis* という学名が使われていた。
 【分布】本州（宮城県以南）、九州、四国に分布。県内では菰野町（御在所山、腰越峠）、松阪市飯高町（江馬小屋谷、宮ノ谷）、大台町（大杉谷）、紀北町（旧海山町、木津）、紀宝町（大里、桐原）で記録されている。
 【現況・減少要因】松阪市の2箇所や御在所山、大杉谷、紀北町（相賀）で生育を確認。今回、熊野市（五郷町）で新たに見られた。
 【保護対策】登山道の改修や森林伐採では、生育の確認を行ってから実施すべきである。また自然災害による生育地の崩壊も懸念される。
 【文献】15, 61.



三重県 2025
NT
三重県 2015
—
環境省 2020
—

(写真：京都府，2022年)

(秋山弘之)

コバノスナゴケ 藓類 ギボウシゴケ科
Racomitrium barbuloides Cardot

普通種だが県内では5箇所に産地が限定され、いずれの場所でも現状は未確認である。
 【文献】39, 59.

三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
DD	—	—

(秋山弘之)

ベニエキンシゴケ 藓類 キンシゴケ科
Ditrichum rhynchostegium Kindb.

文献調査から漏れていて、追加の標本調査や現地調査の必要が出てきたので、情報不足とした。
 【文献】57.

三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
DD	—	—

(土永浩史)

イボスジネジクチゴケ 藓類 センボンゴケ科
Barbula horrinervis K.Saito

文献調査から漏れていて、追加の標本調査や現地調査の必要が出てきたので、情報不足とした。
 【文献】57.

三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
DD	—	—

(土永浩史)

ナメリオウムゴケ 藓類 センボンゴケ科
Gymnostomum aurantiacum (Mitt.) Paris

文献調査から漏れていて、追加の標本調査や現地調査の必要が出てきたので、情報不足とした。
 【文献】57.

三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
DD	—	—

(土永浩史)

オタルミスゴケ 藓類 チョウチンゴケ科
Pohlia otaruensis (Cardot) Iisiba

産地が限定され、県内で見つかった産地が（伊勢市宮域林）が本種分布域の南限にあたる。
 【文献】13, 38.

三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
DD	—	—

(秋山弘之)

キヌヒバゴケ 藓類 ハイヒモゴケ科
Dicladella trichophora (Mont.) Redf. & B.C.Tan

文献調査から漏れていて、追加の標本調査や現地調査の必要が出てきたので、情報不足とした。
 【文献】57.

三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
DD	—	—

(土永浩史)

チチブハイゴケ <i>Pseudohygrohypnum calcicola</i> (Ando) Jan Kučera & Ignatov	藓類 キヌゴケ科	三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
		DD	—	—

文献調査から漏れていて、追加の標本調査や現地調査の必要が出てきたので、情報不足とした。
【文献】57.

(土永浩史)

イヌサナダゴケ <i>Platygyrium repens</i> (Brid.) Bruch & Schimp.	藓類 コモチイトゴケ科	三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
		DD	—	—

文献調査から漏れていて、追加の標本調査や現地調査の必要が出てきたので、情報不足とした。
【文献】57.

(土永浩史)

キツネノオゴケ <i>Thamnobryum alopecurum</i> (Hedw.) Nieuwl.	藓類 ヒラゴケ科	三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
		DD	—	—

文献調査から漏れていて、追加の標本調査や現地調査の必要が出てきたので、情報不足とした。
【文献】57.

(土永浩史)

ヤワラゼニゴケ <i>Monosolenium tenerum</i> Griff.	苔類 ヤワラゼニゴケ科	三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
		DD	—	VU

標本（葛山博次No.36505，桑名市下深谷部）の記録はあるが、実態は不明。人家近くに産するが、継続しての生育とは限らない。

【文献】35.

(土永浩史)

ヒラハクチキゴケ <i>Odontoschisma denudatum</i> (Nees) Dumort. ssp. <i>sandvicense</i> (Steph.) Gradst., S.C.Aranda & Vandrep.	苔類 ヤバネゴケ科	三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
		DD	—	—

文献調査から漏れていて、追加の標本調査や現地調査の必要が出てきたので、情報不足とした。
【文献】34, 44.

(土永浩史)

フチドリイボクチキゴケ <i>Odontoschisma grosseverrucosum</i> Steph.	苔類 ヤバネゴケ科	三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
		DD	—	—

文献調査から漏れていて、追加の標本調査や現地調査の必要が出てきたので、情報不足とした。
【文献】34, 44.

(土永浩史)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
藓苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

文 献

- 1 秋山弘之. 2011a. アジア産蘚苔類の分類・生態ノート 23. 三重県松阪市から見つかった日本新産種 *Rhabdoweisia crenulata* ヒロハヤスジゴケ (シッポゴケ科). 蘚苔類研究 10(4): 89–92.
- 2 秋山弘之. 2011b. アジア産蘚苔類の分類・生態ノート 24. 三重県松阪市から見つかった日本新産の *Schofieldiella micans* ウツクシツヤシメリゴケ (ハンボソゴケ科). 蘚苔類研究 10(4): 93–96.
- 3 Akiyama, H. 2014. Newly found sporophytes and male plants of *Yakushimabryum longissimum* (Pylaisiadelphaceae, Musci) and a significant extension of its distribution. *Bryol. Res.* 11(3): 63–69.
- 4 Akiyama, H. 2017. Systematic study of the *Yakushimabryum* and related genera in the Pylaisiadelphaceae (Bryophyta). *Acta Phytotax. Geobot.* 68(3): 145–174.
- 5 Akiyama, H. 2019. Phylogenetic re-examination of the “*Gammiella ceylonensis*” complex reveals three new genera in the Pylaisiadelphaceae (Bryophyta). *Bry. Div. Evo.* 41(2): 35–64.
- 6 秋山弘之. 2020. アジア産蘚苔類の分類・生態ノート 34. ヒロハコモチイトゴケ種複合体とはどんな蘚類か—日本産ニセタマコモチイトゴケ属 *Bonnosukea* およびヒメコモチイトゴケ属 *Clastobryellina* (蘚類, コモチイトゴケ科) の分類学的研究の紹介—. 蘚苔類研究 12(4): 99–105.
- 7 秋山弘之. 2020. 新・コケ百選 第22回 ヒラゴケ科 (蘚類). 蘚苔類研究 12(5): 135–145.
- 8 秋山弘之. 2021. 日本産ハイゴケ科・ハイゴケ属は現在どのように扱われているのか. 蘚苔類研究 12(6): 149–154.
- 9 秋山弘之. 2022. 日本産ウニゴケ属 (ウニゴケ科, 蘚類) 5種の紹介と和名の提唱. 植物地理・分類研究 70(2): 153–165.
- 10 秋山弘之. 2022. アジア産蘚苔類の分類・生態ノート 36. 日本と台湾に分布するジャゴケ属 4種の解説と和文検索表. 蘚苔類研究 12(10): 1–14.
- 11 Akiyama, H. 2022 Morphological and ecological diversification of *Conocephalum conicum* complex in Japan and Taiwan. *Humans and Nature* (32): 1–45.
- 12 秋山弘之・伊藤 葛・大隅志乃・駿河 舞・西脇千陽・廣島唯楓・米本春樹・上田啓太郎・中島健太郎・山口富美夫. 2023. カシミールクマノゴケを兵庫県西部ならびに岡山県東部から報告する. 蘚苔類研究 12(11): 274–277.
- 13 秋山弘之・山口富美夫. 2008. 無性芽を有するヘチマゴケ属 (ハリガネゴケ科, 蘚類) の研究 1. 日本産キヘチマゴケとその近縁種の再検討. 蘚苔類研究 9(9): 279–290.
- 14 秋山弘之・林田信明・松本美津. 2023. 日本産オオタマコモチイトゴケ属 *Aptychella* (蘚類, コモチイトゴケ科) 7種の解説と和文検索表. 蘚苔類研究 13(1): 1–10.
- 15 天本匡宥・西畑和輝・井上侑哉・山口富美夫. 2020. 日本産アイバゴケ属 2種の分類学的研究. 蘚苔類研究 12(3): 89.
- 16 安藤久次. 1995. 日本のハイゴケ属 1. 自然環境科学研究 (8): 67–99.
- 17 Ando, H. & M. Higuchi. 1981. *Gollania taxiphyloides* Ando et Higuchi, sp. nov. and *Gollania japonica* (Card.) Ando et Higuchi, comb. nov. (Hypnaceae, Musci) from Japan. *Hikobia Suppl.* 1: 189–195.
- 18 有川智己. 2014. オオミツヤゴケ. レッドデータブック 2014—日本の絶滅の恐れのある野生生物—9 植物II (蘚苔類・藻類・地衣類・菌類). 168. 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室. 東京.
- 19 芦田喜治・木村全邦. 2005. 三重県のトサヒラゴケ. 蘚苔類研究 8(11): 373–374.
- 20 芦田喜治・立石幸敏・西村直樹. 2005. 三重県で見つけたアオシマヒメシワゴケ. 蘚苔類研究 8(11): 372–373.
- 21 Deguchi, H. 1984a. Study on *Theriotia kashmirensis* (Diphysciaceae, Musci) Bull. Natn. Sci. Mus., Tokyo, Ser. B 10(3): 143–152.
- 22 Deguchi, H. 1984. *Diphyscium unipapillosum*, sp. nov. (Diphysciaceae, Musci) from Japan. *J. Jpn. Bot.* 59(4): 97–103.
- 23 Deguchi, H. & H. Suzuki. 1974. Some interesting mosses newly recorded from the Kii Peninsula, Japan. *Hikobia* 7(2): 25–38.
- 24 土永浩史. 1988. 大台ヶ原山の蘚苔類II. 南紀生物 30(2): 87–97.
- 25 土永浩史. 1991. 北海道大学和歌山地方演習林蘚苔類 2種. 南紀生物 33(2): 97–99.
- 26 土永浩史. 2009a. 大台ヶ原山における蘚苔類の絶滅危惧種. 三重自然誌 (12): 26–36.
- 27 土永浩史. 2009b. 紀伊半島における蘚苔類の絶滅危惧種群の現状. 和歌山県高等学校理科研究会会誌

(45): 24–37.

- 28 土永浩史・鶴沢美穂子・秋山弘之. 2020. 紀伊半島南部のササオカゴケ. 蘚苔類研究 12(5): 30–132.
- 29 土永浩史・山本誠二. 2013. 紀伊半島南部のコモチイチイゴケ. 蘚苔類研究 10(12): 413–414.
- 30 土永浩史・山本誠二. 2020. 紀伊半島産の興味ある蘚苔類VI. 南紀生物 62(1): 40–44.
- 31 海老原 淳・嶋村正樹・田村 実. 2012. コケ植物・シダ植物・裸子植物の新しい分類体系. 新しい植物の分類学 II. 315–319. 講談社. 東京.
- 32 古木達郎. 2020. 新・コケ百選 第21回ウキゴケ科. 蘚苔類研究 12(4): 106–117.
- 33 GBIF. 101<https://www.gbif.org/ja/> (2024年10月参照)
- 34 Gradstein, S. R. & A. L. Lliu-Borges. 2014. A taxonomic revision of the genus *Odonthschisma* (Marchantiophyta: Cephaloziaceae). *Nova Hedwigia* (100): 15–100.
- 35 長谷川二郎. 2002. ヤワラゼニゴケ. 京都府レッドデータブック上巻野生生物編【コケ植物】. 536. 京都府企画環境部環境企画課. 京都.
- 36 Iwatsuki, Z. 1959. A revision of the Japanese species of the genus *Ulota*. *J. Hattori Bot. Lab.* (21): 138–156.
- 37 Iwatsuki, Z. 1979. Re-examination of *Myurium* and its related genera from Japan and its adjacent areas. *J. Hattori Bot. Lab.* (46): 257–283.
- 38 岩月善之助 (編). 2001. 日本の野生植物コケ. 355pp. 平凡社. 東京.
- 39 Iwatsuki, Z. 2004. New catalog of the mosses of Japan. *J. Hattori Bot. Lab.* (96): 1–182.
- 40 岩月善之助・立石幸敏・鈴木 直. 1999. 日本産 *Campylostelium* (ハクチョウゴケ) 属. *Hikobia* 13: 79–5.
- 41 神宮司庁営林部. 1991. 孫福正採集による神宮宮域産の蘚苔類目録. 59pp. 神宮司庁. 伊勢.
- 42 片桐知之・古木達郎. 2012. 日本産タイ類ツノゴケ類チェックリスト, 2012. 蘚苔類研究 10(7): 193–210.
- 43 片桐知之・古木達郎. 2013. 日本産タイ類およびツノゴケ類の分類表. 蘚苔類研究 10(10): 325–332.
- 44 片桐知之・古木達郎. 2015. 日本産タイ類・ツノゴケ類学名情報 I. クチキゴケ属 *Odontoschisma*. 蘚苔類研究 11(5): 133–137.
- 45 片桐知之・古木達郎. 2018. 日本産タイ類・ツノゴケ類チェックリスト, 2018. *Hattoria* (9): 53–102.
- 46 片桐知之・花田俊樹・松本美津. 2019. ヒロハヤスジゴケは宮崎県にも産する. 蘚苔類研究 12(2): 58.
- 47 Kamimura, M. 1961. A monograph of Japanese Frullaniaceae. *J. Hattori Bot. Lab.* (24): 1–109.
- 48 Kanada, H. 1980. Distributional additions to the Japanese Amblystegiaceae and allied family. *Hikobia* 8(3–4): 322–330.
- 49 葛山博次. 1972. 大杉谷とその周辺の蘚苔類. in 大杉谷・大台ガ原自然科学調査報告書. 73–107. 津.
- 50 葛山博次. 2004. 蘚苔類. 蘚苔類目録. 上野市史 (自然編). 405–409, 844–862. 上野市.
- 51 葛山博次. 2008. 三重県レッドデータブック2005. 蘚苔類所蔵標本目録. 藤原岳自然科学館館報 (30): 5–11.
- 52 川口三好次. 1959. 尾鷲地方の蘚苔類目録. in 熊野灘沿岸国立公園拡張調査書: 285–292.
- 53 川口三好次. 1962. 尾鷲地方の蘚類目録 (第2版). 1–8. 紀北科学研究会. 松阪.
- 54 川口三好次. 1963. 尾鷲地方苔類目録予報. *KAMOSHIKA* 特集号. 16pp. 紀北科学研究会. 松阪.
- 55 川口三好次. 1965. 尾鷲地方苔類目録. *KAMOSHIKA* 特集号. 1–24. 紀北科学研究会. 松阪.
- 56 木口博史・立石幸敏. 2005. 三重県の *Syrhropodon kiiensis* (キミアミゴケ). 蘚苔類研究 8(12): 404–405.
- 57 木口博史・立石幸敏・田中敦司. 2006. 三重県中南部の蘚類. *自然環境科学研究*(19): 61–76.
- 58 菊山文秀. 1989. タチチョウチンゴケ伊賀にも産する. 三重コケの会ニュース 14(2): 10.
- 59 木村全邦・佐久間大輔. 2008. 大阪府の蘚類—中嶋徳一郎蘚類コレクション—. 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第40集. 66pp. 大阪市立自然史博物館.
- 60 金 元熙・出口博則・山口富美夫・坪田博美. 2014. ウツクシツヤシメリゴケ *Schofieldiella micans* の日本新産地と分子系統分析結果. 蘚苔類研究 11(3): 97–98.
- 61 児玉 務. 1971. 近畿地方の苔類. 大阪市立自然科学博物館収蔵資料目録第3集. pp.1–116. 大阪市立自然科学博物館.
- 62 児玉 務. 1972. 近畿地方の苔類. 大阪市立自然科学博物館収蔵資料目録第4集. pp.117–248. 大阪市

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

立自然科学博物館.

- 63 Koponen, T. 1974. A preliminary report on the Mniaceae in Japan II. HIKOBIA 7(1-2): 1-19.
- 64 Kruijer, J.D. 2002. Hypopterygiaceae of the world. Blumea Suppl. 13:1-388.
- 65 前田雅子・秋山弘之・芦谷美奈子. 2016. イチョウキゴケの生活史1 水田環境における生殖器官ならびに胞子体の成長の観察. 人と自然Humans and Nature (27): 43-52.
- 66 Magombo, Z. L. K. 2003. Taxonomic revision of the moss family Diphysciaceae M. Fleisch. (Musci). J. Hattori Bot. Lab. (94): 1-86.
- 67 孫福 正. 1966. 三重県産珍蘚苔の新産地 (1). 植物趣味 (27): 20-21.
- 68 孫福 正. 1968. 三重県産珍蘚苔産地 (2). 南紀生物 10(1): 26-28.
- 69 孫福 正. 1970. 日本産コウヤノマンネンゴケ科蘚類. 三重コケの会ニュース 4(2): 12-13.
- 70 孫福 正. 1979. 三重県の蘚類. 115 pp. 伊勢. (自費出版).
- 71 孫福 正・山田耕作. 1964. 伊勢神宮産苔類図鑑. 178pp. 六月社. 大阪.
- 72 孫福 正・山田耕作. 1968. 伊勢神宮宮域林産苔類の補遺 1. 採集と飼育 (30): 160-161.
- 73 Mizushima, U. 1960. Japanese Entodontaceae. J. Hattori Bot. Lab. (22): 91-158.
- 74 Mizutani, M. 1961. A revision of Japanese Lejeuneaceae. J. Hattori Bot. Lab. (24): 115-302.
- 75 水谷正美. 1974a. 日本産の *Kurzia gonyotricha* について. 蘚苔地衣雑報 6(8): 146.
- 76 Mizutani, M. 1974b. Lepidoiaceae, subfamily Lepidozioideae from Sabah. (North Borneo). J. Hattori Bot. Lab. (38): 371-385.
- 77 水谷正美. 1977. マゴフククサリゴケについて. 蘚苔地衣雑報 7(7): 132-134.
- 78 水谷正美・林 正典・山田耕作. 1999. シャンハイハネゴケの新産地 (三重県). 蘚苔類研究 7(8): 269-270.
- 79 持田 誠・山崎真実・内田暁友. 2002. 札幌市近郊のイチョウウキゴケ産地. 水草研究会会報 (76): 40-42.
- 80 Noguchi, A. 1967. Musci japonici VII. The genus *Macromitium*. J. Hattori Bot. Lab. (30): 205-230.
- 81 Noguchi, A. 1972. Mosses of Thailand. Lindbergia 1: 169-183.
- 82 Noguchi. 1976. A taxonomic revision of the Family Meteoriaceae of Asia. J. Hattori Bot. Lab. (41): 231-357.
- 83 Noguchi, A. & Z. Iwatsuki. 1987. Illustrated Moss Flora of Japan, part 1, pp. 1-242. Hattori Botanical Laboratory, Nichinan.
- 84 Noguchi, A., Z. Iwatsuki & T. Yamaguchi. 1991. Illustrated Moss Flora of Japan, part 4, pp. 743-1012. Hattori Botanical Laboratory, Nichinan.
- 85 櫻井久一. 1951. 興味ある日本産蘚類報告(2). 植物研究雑誌 26(7): 199-202.
- 86 サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp> (2024年10月参照)
- 87 Shaw, B., B. Crandall-Stotler, J. Váña, R. E. Stotler, M. von Konrat, J. J. Engel, E. C. Davis, D. G. Long, P. Sova & A. J. Shaw. Phylogenetic relationships and morphological evolution in a major clade of leafy liverworts (Phylum Marchantiophyta, Order Jungermanniales): Suborder Jungermanniineae. Syst. Bot. 40(1): 27-45.
- 88 Suzuki, H. 1972. Distribution of *Sphagnum* species in Japan and an attempt to classify the moors basing on their combination. J. Hattori Bot. Lab. (35): 3-24.
- 89 鈴木直. 1983. *Seligeria donniana* (ハナシキヌシツポゴケ, 新称) は日本に産する. 蘚苔地衣雑報 9(7): 157-158.
- 90 Suzuki, T. 2016. A revised new catalog of the mosses of Japan. Hattoria (7): 9-223.
- 91 Suzuki, T., Z. Iwatsuki & H. Kiguchi. 2006. The family Seligeriaceae (Bryopsida) in Japan. J. Hattori Bot. Lab. (100): 469-493.
- 92 Takaki, N. 1956. Researches on the Brachytheciaceae of Japan and its adjacent areas III. J. Hattori Bot. Lab. (16): 1-71.
- 93 高木典雄. 1960. 尾鷲附近の蘚類. 奈良女子大学植物学会誌 (10): 33-35.
- 94 高木典雄・中島徳一郎・岩月善之助. 1968. 三重大学平倉演習林の蘚類目録. 三重大学農学部演習林資料 (2): 27-47.
- 95 滝田謙讓. 1999. 北海道におけるミズゴケの分布及びその変異について. Miyabea (4): 1-84.

- 96 田中敦司・西村直樹. 1999. 石灰岩性蘚類キアラハラッコゴケ台湾に産す. 蘚苔類研究 7(7): 219–220.
- 97 立石幸敏. 2004. ヤマトハクチョウゴケの新産地. 三重コケの会ニュース 23 (2–3): 18.
- 98 富永孝昭・古木達郎. 2014. ウキゴケとその近縁種の分類学的研究. 蘚苔類研究 11(3): 99–100.
- 99 寺尾恭平. 1991. 蘚類. 菰野町史自然編. 169–174, 288–296. 菰野町.
- 100 寺尾恭平. 2009. 樋口雄一氏採集による蘚類標本. 三重コケの会ニュース 27(1): 1–13.
- 101 寺尾恭平・山田耕作. 2005. オオミツヤゴケ. 三重県レッドデータブック2005 植物・キノコ. 414. 三重県環境森林部自然環境室. 津.
- 102 山田耕作. 1968. *Metacalypogeia quelpaertensis* の新産地. 三重コケの会ニュース 2(2–3): 15.
- 103 山田耕作. 1972. 三重県産苔類の資料 (III). 三重生物 (22): 39–42.
- 104 山田耕作. 1991. 苔類. 菰野町史自然編. 174–177, 296–300. 菰野町.
- 105 山田耕作. 1996. 日本産のケビラゴケ属 (苔類). 自然環境科学研究 (9): 63–96.
- 106 山田耕作. 2006. 3. 蘚苔類. 三重県レッドデータブック2005 植物・キノコ. 三重県環境森林部自然環境室編. 369–416. (財)三重県環境保全事業団. 津.
- 107 山田耕作. 2011. 証拠標本に基づいた三重県産タイ類とツノゴケ類のチェックリスト (2011改訂). 三重生物 (61): 1–12.
- 108 山田耕作. 2015. 三重県レッドデータブック2015 ～三重県の絶滅の恐れのある野生生物～. 659–690. 三重県農林水産部みどり共生推進課. 津.
- 109 山田耕作・小笠原昇一. 1971a. *Hattoria yakushimensis* の新産地. 蘚苔地衣雑報 5(10–12): 181.
- 110 山田耕作・小笠原昇一. 1971b. 御在所岳の *Bazzania ovistipula* (苔類). 三重生物 (21): 7–8.

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD